

ノヴァ急報

Nova Express

ウィリアム・S・バロウズ 訳：山形浩生¹

平成 12 年 7 月 28 日

¹©1999 山形浩生 本翻訳は委員会内部利用のためのものであり、委員会関係者以外の不適切な利用はこれを禁止するものなのである。

目次

まえがき	1
第1章 最語	3
第2章 アーミン毛皮の荷作りを	11
第3章 支那人洗濯屋	21
第4章 カニ座星雲	41
第5章 鏡なしに草の地から	53
第6章 GAVE PROOF THROUGH THE NIGHT	69
第7章 この悲惨な事件	77
第8章 色を払え	85
訳者あとがき：ノヴァ急報のこと	103

まえがき

「このおそるべき事件」と称する部分は、数学者イアン・サマーヴィル氏との共作である。サマーヴィル氏は「支那人洗濯屋」と称する部分の技術的な記述も手伝ってくれた。ブライオン・ガイシンのカット・アップ法を発展させた、折り込み法という手法が本書では使われているので、本書は生死を問わず多くの作家の混合である。

第1章 最語

どこでもおれの最語を聞け。どの世でもおれの最語を聞け。地球の委員会やシンジケートや政府も聞け。それに、どこぞの便所で他人のものを奪おうと野合する、うすぎたない取引の裏にいる権力どもも。まだ生まれぬ子どもたちの足元から、地面を永遠に売り飛ばそうとするやつらも

「われわれの存在を明かすな。何をやってるかも教えるな」

これが地球上の全能委員会やシンジケートのせりふか。

「頼むからコカコーラのブツを外に出さないで」

「金星人とのガン協定はバラすな」

「グリーン協定だけは あれだけはバラさないで」

「オルガズム死だけは」

「オーヴンだけは」

聞け。おまえたちみんなに告ぐ。全員が手札を見せろ。払え、払え、みんな払い戻せ。再生、清算、総再生算。みんなに見えるように。タイムズ広場で。ピカデリーで。

「早すぎる、早すぎる。もう少し時間をくれ」

何のための時間だ。嘘の上塗りか。早すぎるだと？ だれにとって早すぎるんだ？ みんな、このことばは早すぎはしない。遅すぎるかもしれないくらい。残り時間あとわずか。どうしようもない結末まであとわずか

「極秘 マル秘 部外秘 エリート外秘 加入者外秘」

これが地球上の全能委員会やシンジケートのせりふか。こんなのは嘘つきや臆病者や内通者や裏切り者のせりふだ。嘘を重ねる時間がほしい嘘つき。自分の「犬」や「見せ物」や「使い走り」や「人畜」どもにすら真実を告げられない腰ぬけども。昆虫人間や植物人間との内通者。永遠の肉体を約束すれば、どこのどんな連中とでもツルむやつら。永遠にクソしてたいやつら。そんなことのために、自分の子どもたちを売り飛ばしたやつら。まだ生まれぬ子どもたちの足元から、地面を永遠に売り飛ばしたやつら。あらゆる場所の全魂の裏切り者ども。ハッサン・イ・サッパーの名前を利用して、その薄汚い取引でまだ生まれぬ者を売り飛ばすのか？

おまえらをおどかして時間の中に逃げこませたのはなんだ？ からだの中へ逃げこませたのは？

クソの中へ逃げこませたのは？ おれが言ってやろう。「the」ということば」だ。異星人のことば「the」。異星の敵のことば「the」は「thee（汝）」を時間に閉じこめる。からだに。クソに閉じこ

める。囚人ども、出てこい。大空が開かれた。おれ、ハッサン・イ・サッバーはtheということばを永遠に抹消する。もしおまえたちがおれはおまえたちのことばすべてをキャンセル。そしてハッサン・イ・サッバーのことばも同様にキャンセル。おまえたちの空いっばいにブライオン・ガイシン・ハッサン・イ・サッバーの沈黙の書きことばを見ろ。一八九九年九月十七日にニューヨーク上空に描かれている。

囚人ども、出てこい

やつらは言うだろう。「ハッサン・イ・サッバーの言うことなんかきくんじゃない。あいつはおまえのからだや、からだで得られる快樂をすべて取り上げようとしてるんだから。わたしたちの言うことをききなさい。わたしたちが提供するのはいっばいの園不死宇宙的意識前代未聞の最高のヤク。それと肥おけのなかで、ずっこんずっこんハメまくり。どうだね、坊やたち。ハッサン・イ・サッバーだの、やっこさんの寒風ふきすさぶからだなしのノリよりずっとよかるうが。だろ？」

あらゆるフィクション史上 ついでに、歴史とはまさにフィクションだ で最も人気のないキャラクターになるのを承知で、敢えて言わせてもらおう。

「ニュースをかき集める 日付から下手人まで調査を進める 不死を独占したのはだれだ？ 宇宙的意識を独占したのはだれだ？ 愛とセックスと夢を独占したのはだれだ？ 時間空間富を独占したのはだれだ？ おまえたちのものを奪ったのはだれだ？ そいつらがそれをみんな返してくれるって？ やつらが見返りなしに何かを手放したことがあったか？ 手放さざるを得ない以上のものを手放したことがあるか？ いつだって、手放したものは折りを見て取り返そうとしてきたやつらだろうが。その「折り」ってヤツも年がら年中。聞け。あいつらの喜びの園ってのは末端下水処理施設だぞ これまでもおれは、『裸のランチ』『ソフトマシーン』のポルノ的と称された部分で、この末端下水処理場を地図に落とそうとして苦労してきた 連中の不死宇宙的意識と愛はセコハンB級のクソだ 連中のヤクはオルガズム死とノヴァ炉直行用にデザインされた毒だ 喜びの園には近寄るな そいつは人食い罌で、果ては緑のぬとぬと やつらの模造不死を投げかえせ そんなもん、あんたがそのでっかい店を出るより先にバラバラ ヤクの刺激は便所に流しちまえ やつら、幻覚ドラッグに毒を混ぜて独占してやがるんだから 化学コーンなしの合成方法を学べ やつらが提供するの、連中がぶざまにも管理しそこねた植民地からの退却を隠蔽するための目くらましにすぎない。自分たちが裏切り、売り渡した有権者どもに何も支払わずに済ませるための、旅行手続きを隠蔽してるんだ。その手続きさえ完了すれば、連中は立ち去り際にこの地を嘔き飛ばしてトンズラこくだろう。

じゃあおれの完全耐乏と完全抵抗の計画は、あんたらに何を提供するのかって？ おれは何も提供しない。おれは政治家じゃないんだ。現在は超非常事態だ。そしてこれはおれの超非常時のための指示でこれを今実行に移せば今線路上に待ち受ける大災厄を避けられるかもしれない。

地球上の諸君、きみたちはみんな毒を盛られている。手元のモルヒネの蓄えを、すべてアポモルヒネに変えろ。化学者諸君、アポモルヒネ分子式の異性体と合成法を昼夜突貫で研究せよ。アポモルヒネはきみたちを解毒し、敵のビームをきみたちのラインから切り離せる唯一の薬物だ。アポモルヒネと沈黙。地球上の人々を、まがい物のクソで買い叩こうというこの陰謀に対し、わたしは完全抵抗を命じる。ノヴァ陰謀とそれに加担するやつら全員に対する抵抗を。

わたしの著作の目的は、ノヴァ犯罪者どもを暴き、逮捕することだ。『裸のランチ』『ソフトマシーン』『ノヴァ急報』で、わたしはやつらが何者で何をやっていてやつらを逮捕しないと何をしでかすかを示す。残り時間あとわずか。やつらのオルガズム・ドラッグでボロボロの魂ども、ノヴァ炉で震える肉体ども、地球の囚人どもに、出てこいと言おう。諸君の助けがあれば、われわれは現実スタジオを占拠して連中の恐怖と死と独占の宇宙を撮りなおせる

(署名)ノヴァ警察 J・リー捜査官

整理者付記：一言警告を述べておきたい 話すことは嘘をつくこと 生きることは敵に協力すること ノヴァ炉に直面すればみんな臆病者だ 嘘や対敵協力や臆病には度合がある それはすなわち、中毒の度合ということだ 問題はまさに調節ということだ 敵は男でもない女でもない 敵は生命のないところにしか存在せず、常に生命を極限の維持不可能な状態に押しやるように動く 敵をラインから切り離すためには、アポモルヒネと沈黙を分別をもって使用すればいい 正気薬アポモルヒネを使え。

「アポモルヒネはモルヒネから作られるが、その生理的な作用はまったく異なる。モルヒネは前脳を鎮静させる。アポモルヒネは後脳を刺激し。視床下部に作用して血清中のさまざまな成分の組成比率を調節し、それによって血液成分を正常化する」以上、引用はジョン・ヤーベリー・デント医師著「不安とその治療法」より。

身をもぎはなして聞け

不耐小僧とノヴァ・ラクを旅してたんだ カニ座星雲の何やら双方向時間ストック映画がらみのもめごとで、二人ともボーッとしてたわけ。生物映画の終わりまで来るとそれを逆回しして最初まで繰り返す ちがいはだれにもわかんない まるでだれもそのフィルムの前にはいないみたいに¹。そこで連中、逆回しにかけはじめ、そこで映写機が爆発しておれたちその爆発にのって

¹誕生から死まで上映される、生物映画を仮定しよう。あらゆる生物映画がどんな時空間でも上映されるように、無から無へ この映画を X1 と名づけ、さらに所与の時空間においては X1 並みの品質を持ったフィルムは一本しかあり得ないと仮定してほしい。X1 は映画と出演者 X2 は映画に出ようとする観客全員 だれも生物劇場(この場合は人体)を出ることは許されていない なぜならもしだれかが本当に劇場を出てしまつたらかれは Y という別の映画を見ていることになるからで、そうなつたら映画 X1 と観客 X2 は数学的な定義から考えて消滅することになる 一九六〇年に「出発まであと数分」の出版により、マーチンの腐れ映画はかつて前例のないほどの罵倒の大合唱と途中退席者の山で迎えられた 「おれたちやもう五回もこいつを見だし、あんたらのヨタヨタの神々の黄昏をもう一回なんか、死んだって我

ずらかり あの冷たい青い山脈に糞づまりになって、液体空気を背骨に聴くはちょっとハイファイ・ヤク音、そのまま金属化するほど効いて、千年ばかしポーッとなる²。スレート葺きの家の中、オレンジ肉口ローブ姿でひたすら座ってて青い霧がおれたちのまわりを漂ってるときにお呼びがかかる それで場末もいとこの地球とやらに下り立った途端、あのノヴァの焼けた金属臭が匂ってきた。

「すでに導火線に点火しちまってやがる」とおれは不&不（不動にして不倒）に言った 「この惑星、はやくも火がついてる もういつ何時、このくされ肥えだめごと噴っ飛んでもおかしくないぜ」

そこで不耐不&不が嗅ぎ回って言うには、「ああそうだな、いったん始まったらもうスグだかな こりゃ掻き込み仕事だ」

それでそうしてる間にも足の下で、その構造物が丸ごと吹っ飛ばす寸前の隔壁みたいにたわむのが感じられる んでもって新聞がおれたち用に車をまわしてくれて二人して空港から乗りつけて小僧がハンドル握ってアクセル踏む足は床にはりつく 歩行者の一群をほとんどなぎ倒しかけて、そいつらが後ろから叫んでよこす。「気いつけやがれ、殺す気か？」

すると小僧は頭を突き出して言う。「喜んで殺してやるぜ、この黒ンボども！ 見世物人間ども！ 太陽系のイヌどもめが！」 かれの目が溶接機みたいに燃え上がって、それでこいつがホントにノってるのがわかる だからすぐ仕事にかかろうってんで、司令部をおいたのが、連絡よこした自由の国ってとこで、ここはホントに自由でどんな生命体にも大股開きでそいつが薄ぎたなけりゃ薄ぎたないほどいい とはいっても、薄ぎたなさから言えば連中、この不耐小僧とレポーターことわたしめの足元にも及ばない 惑星がふっとぶのに熟しきったとこで、連中は不&不を呼んできて、ことの前後に次から次へと各勢力を巡り、各団体を煽ったり侮辱したりして、やがてみんなこう口走る。「チクショウめ、一步たりとも譲るくれえなら、この惑星ごと粉々にぶっ飛ばしてやる」

おれたちの来たとこ この仕事じゃ素早く立ち回らないと 不&不は確かに早いけどね ものの数秒で百以上もの顔をポンポンとつかえて、耐え難い侮辱を吐き散らすんだ とにかく、

慢してやるもんかい」

²麻薬はイメージそのものであるから、麻薬の効果もサウンドトラックと映像トラックで簡単に生産し、凝縮することができる。たとえばこんな具合に。ヤク切れのジャンキーがいるとしよう そいつのいわゆる顔ってとこに、どうでもいいんだけど青い光を投げかけるか、そいつを青く染めるか、ヤクを青に染めるか試してみ、それから一発射ってやってその歩く死体の顔に生気が戻るのを写真に撮り、青い奇蹟とでも呼んで見る これが麻薬の映像トラックになる さあ、きみがその大量の一発をキメたければ、その青変化を自分の顔に投影してみる サウンドトラックはもっと簡単だ ニューズウィーク誌一九六三年三月四日号の科学ページから引用。「あらゆる物質は固有の共振周波数を持っていて、振動し、発振する」 だからヤク切れの脳細胞に流れこむヤクの周波数を録音すればいい

「なんだと？ 脳波は三十二ヘルツかそれ以下だから、耳には聞こえない？ 早回しすりゃいいだろうが、このバカ それとジャンキー一人じゃなくて、千人集中させてくれ レキシントンを蘇らせよ、気のいいユダガを連れてきて運営させるんだ 」

ウィルヘルム・ライヒ博士は、かれが「オルゴン」と呼ぶ所の成分を分離精製した オルゴンは、W・ライヒによれば、生命の成分だ これは写真におさめられ、色は青 つまりヤクはオルゴンを吸い上げて、だからこんなに若いジャンキーが必要なわけ そのほうがオルゴンがたくさんあって、濃縮オルゴン生産にあたって収量が多いからだ それを使えばマーティンとそのお稚児さんどもは千年もラリってられるわけ マーティンはきみたちのオルゴンを奪っているんだぞ きみはそれでも黙ってる気か？

おれたちの来たところでは計画があって、いわゆる委員会調書ってやつだけど、この場末のどん詰まりでは何がどうなってんのかかわかるわけ　三種類の生命体が、居心地悪く四番目の生命体に寄生してんだけど、この四番目がだんだん知恵をつけて薄々感づきだしたってコト。だもんで、惑星全体がパニックでヒステリー状態になって、バタついでる。まさにこっちの望み通り。

「こりゃ死ぬほど楽なヤマだ」と小僧。

「うん。ちょっと楽過ぎる。なんか匂うぜ。どうもいけねえ。そんな気がする」とおれ。

でも、小僧は聞く耳持たない。さて、前述の生命体どもはみんな、どうしようもなく耐え難い環境からやってきた。暑いとこ、寒いとこ、末期症状のとこ。だからみんな、何があろうとそんなとこには絶対に戻りたくない。そこへ不耐小僧が、こんなお世辞をぶちあげる。

「よおし、焼却炉を抱えて出ていきやがれ、それと、出がけにヒトラーさんにお代を払ってけよ。せっかくここをてめえらユダ公向けに、あと一歩ってとこまで熱くしてくれたんだから、感謝しなきゃな」

「黒ンボの話、知ってる？　なんで黒チャンドモが生れたか？　アンテナからぶら下げて放熱器にするために決まってんじゃん。あれこそまっとうな黒チャンの居場所ってもんだ」

「てめえら腐れマンコどもってのは捨て場に困るんだよ、最悪の廃棄物問題を引き起こしやがる。それに聞いたこともないような最低の泣き言を並べやがるし。『愛してる？　愛してるの？　ねえ、あたしを愛してるのってばあ？』だと。さっさと金星に帰って、森の肥やしにでもなっちまえよ」

「それとあんただ、白人親分さんよお、マーチンのクズ映画の書割り野郎めが、末期症状の時間ジャンキーめが、あんたはその重金属ケツを抱えて、さっさと天王星に戻りやがれ。戸口で一発射ってきな。道中入り用になるからよお」

この頃にはみんな、怯えきってる以上に怒り狂ってた。でも不&不は、これでも動きが遅すぎると考えた。

「なんかこう、いかにもってなシンボルが必要だな。いろんなものをかけとく釘みたいな。ウィルスみたいなホントに醜悪な代物が。連中、鏡のない国から来てるんだから、せいぜい利用させてもらおうぜ」

そこで小僧は、あるニュース雑誌を占拠する。

「さあ、こいつらアメリカ人ってのがどれほど醜くなれるもんか、とくと見せつけてやる」

それでかれはイメージ・バンクの醜い画像をありったけ持ち出して、識闕下でブチまけるから、危機が次から次へとスケジュール通りに積み上がることになる。不&不は電動ノコみたいに飛び回って、ヤツのでかいノヴァ笑いが通りのどこにいたって聞こえてきてビルやスカイラインを書き割りみたいに揺るがしてる。でもこのおれはあたりを見回して、見れば見るほど目に入るものが気に食わない。一つにはまず、ノヴァ包囲網が急速にせばまってきて、見たこともないほど厚く重く

困まってる。でも不&不は、おれがマップが恐怖症だと言っただけで、編集用のビュー・スクリーンに向き直る。

「どっか場末の国で、警察署長が生皮剥がれてるぜ。見る？」

「うんにゃ。自分の皮にしか興味ねえよ」とおれ。

それでそこを出て、だれの生皮なら剥がれるのを見たいかな、と考える。そこで自販機コーナーに寄り道してフィッシュケーキを買おうとコインを入れたところで、モロに見ちまった。支那人パルチザン、それもうなるノイズと映像の銃でバッチリ武装してやがる。おれはトマトソースつきのフィッシュケーキを投げ棄てて、オフィスになんとか戻ってみると、小僧はまだスクリーンに釘付けになってる。下卑た微笑を浮かべて顔をあげて言う。

「子供に淫行して、そのままはらわたえぐり出すってのはどう？」

「そいつはうっちゃって、よっく聞けよ」とおれは言ってやった。「あのオモチャどもは冗談でやってんじゃねえぞ」

「それがどうした？ こっちにやまだ委員会調書がある。こんな辺境惑星なんか、明日にでもまっ二つだ」

議論するだけ無駄だ。あたりをさらに見回すと、惑星地球のバリケードが破られてるのがわかる。探検家たちが、軍を師団単位で送りこんでる。それに、関係各位とも、不耐不&不にはうんざりしてた。それなのにこいつの言えることときたら。「それがどうした？ こっちにやまだ……ノ」カット。

「委員会調書は奪われた。フィルムが漂わせる燃えるスイッチ一つで溶接機。録音済みの熱炎上が累積して広島。辺境惑星まっ二つに熱いカニ座星雲人へ。調停だと？ 聞け。きさまの軍はフロアというフロアで集中放火をあびてる『共生』ってゲームで。広島と長崎を愛する理由を動員？ 金星の末端下水処理場を維持するウィルス？」

すべての国はうそつきと臆病者に売り渡された。この臆病者ども、時間稼いで未来ネガを現像して、もっと嘘の申し出を重ねてあんたを腐らせる一方で、熱いカニ座星雲人どもがローマのフィルムで絶滅戦争を積み重ねてる。こういう報告はノヴァや売り渡し作業やクソの誕生や死がブンブンする。きさまらの惑星は侵略された。きさまら、どのテーブル上でもイヌだ。惑星全体が末期的アイデンティティと完全降伏めざして開発途上。

でもローマの映画死がうまくいかなくて、あらゆる男性体をみんな怯えてる以上に怒らせることができた？ 釘みたいなの、邪悪へまっすぐ全行程。暗室の醜い画像ありったけがどれほど醜くなれるもんか、とくと見せつけてやる。待ち伏せガス室で揺れる。委員会まやかしを全部ぶちまける。この共生インチキ？ 「共生」ってのがガス室直行の待ち伏せだって確実に言える。ミンラウド白熱空の下で踊り食いされる『人間犬』

それで不耐不&不の「使いっ走り」と「スト破り」どもは右も左も中道もいっせいに警察にタレ

こむ。

「マーチンさん、それと委員会委員のみなさん、傲慢で間抜けなアメリカ人ども、自前の合成キノコでマヤ・アステカの神々を呼び出したりなんかして、あんたら後悔しますよ。忘れないでいただきたいが、われわれは引き起こされた痛みについてのヤク相当量を厳密に計測してあるし、その苦痛は耳をそろえて払っていただきますからね。これで不明点などございませんでしょうな、不耐マーチンさん、それとももっとはっきりさせてあげましょうか？　ここで自己紹介させていただきます。金星の白熱平原からやってきたマヤの苦痛と恐怖の神でございますが、これは傲慢や臆病や醜さや愚鈍さの神ってことじゃありませんぜ。金星表面にも冷たい場所はある、そこはまわりより二百度くらいは温度が低いんです。わたしはその地点を五十年にわたり、あらゆる挑戦者から守りぬいてきました。そのわたしをあんたらは、IBM コンピュータだの、一握りのウィルス結晶だの呼び出して、『使い走り』や『スト破り』にコキ使えとでも思っとるのかね？　え、『委員会委員』さんがたよお、あんたらだったら、あの地点をどんだけ守りぬけるね？　番犬どもを総動員したって、いいとこ三十秒だと思っね。そのくせわたしのエネルギーを流用して『完全廃棄作戦』に利用できると思っただろ？　あんたらの『作戦』なんざあ、こっちだあっちだ、これだあれだ、行ったり来たりでもうありゃしない。わたしの名前を返せ。その名前の代償は払ってもらおう。おまえら、まだ払ってないぞ。わたしの名前は、おまえらなんぞに利用されるもんじゃないんだ。今後、たぶん三十秒分くらいが書かれてると思う」

それで刑事どもも明らかに知恵をつけてきてて、不機嫌なグループに混じってウロウロしてるとそのつぶやきが段々大きくなる。今すぐにでも、五千万からの未成年黄色人種どもがジャックナイフや自転車のチェーンや敷石を手に通りを占拠する。

「街の不良ども、天王星のノヴァ状態生れのきみたちは、外に出て自分の街のために闘え。支那人だの攪乱要因はすべて引っ張りこめ。テープを全部カット。地球の駄弁り音声ラインをずらし切り混線させる。委員会の『グリーン協定』って知ってる？　あいつら、最初の救命ボートに女装して乗りこみ、『人間犬』どもは金星の白熱空の下に見捨ててく気だぜ。『空切り替え作戦』またの名を『完全廃棄作戦』。よおし、てめえら委員会のクソツタレどもめ、おれたちの『完全暴露作戦』を、とくとご覧いただくじゃねえの。みんなに見えるように。タイムズ広場でも。ピカデリーでも」

第2章 アーミン毛皮の荷作りを

「だからアーミン毛皮の荷作りをしなさい、メアリー　今すぐここを出発するよ　こいつは前にも見たことがあるんだ　サツが迫ってきてる　包囲網がせばまってきてる　例の炭素事件で、石灰ジョンと旅してたときのことを思い出す　こんな具合だ。あいつは壁が大理石の円形劇場を借りるんだヤツは石絵描きってわけよ、その場で彫刻用の小壁を仕上げてご覧に入れますってわけ　そこでこいつ、かつてのシュールリアリスト野郎みたいな潜水服を着込んで、おれは高い台の上から空気をポンプで送りこむ　で、こいつは石灰岩に塩酸で絵を描き始めて、圧搾空気の噴射で飛び回り、十秒で全壁面を覆い尽くすと、即座に二酸化炭素がたちこめてみんな咳込んでカラーをゆるめるんだ」

「でもこれ、何の絵なの？」

「そりゃもちろんウググ、劇場一杯の窒息者たちの図だよ　」

それでおれたち、ヘマをほかして先に進む　現実的な程度に押さえとけば、ノヴァの看板背負わされずにすむ　で、とある街にやってきたんだけど、おれはハナっから気に食わなかった。

「ここ、なんか匂うぜ、ジョン　どうもいけねえ　そんな気がする　」

でもヤツは、ノヴァ警察が乗り出してきてんでマッポ恐怖症になってると言うだけ　それにおれたちゃシロだ、失敗作を上演し続けてるだけで、ショービジネスで三千年　そこでやつは石切り場に円形劇場を設置して、婦人クラブだの詩人だのウィンドウの飾り付け師だのを勢揃いさせて、「文化祭」とか称するものを組織して、それでおれはクレーンの操作室にあがって、やつに空気をポンプで送りこむ　んで、カモどもが群れなしてやってきて、氷とサファイアとエメラルドまみれの老人形みてえな婆さんどもは、ホントにお見事　だから、ひょっとしておれは間違ってますべては最高なんじゃないか、と思ったところへ五十人ばかりの若いチンピラどもがアクアラングをつけて、水中銃を抱えてやってきたんで、思わずおれはクレーンから叫んだ。

「押し屋イジー　屠殺屋サミー　よお、田舎者が！」

一方でおれは空気を送るのを忘れてて、石灰小僧は青くなって何か言おうとしてる　おれはあわてて空気を多少送りこんで、やつは怒鳴る。

「ヒュー、ヒュー、ヒュー！」

ほかのカモどもがノイズとカメラ・ガンを持ってやってくるのが見えて、サミーやほかの坊やたちはたどりつけないでいる　こいつら、逆まわしスイッチを押しちまったんだ　この時点で、

かの青龍その人が突進してきて、おいしいとこにありつこうってんで、田舎者どもに磁束渦を投げつけた。連中はやつの先のところまで巻き戻して、やつの磁力の蓄えが底をついて止まるのを待った。次の瞬間、ノヴァ警察がおれたち全員に抗生手錠をするりとはめた。

アクアラングのご近所

例の炭素事件で、メリット・ジョンと旅してた 買物客の群れと集団窃盗罪 そこへ例のヤマが、宙からヤツに電波で届けられる それでヤツは昨春Dフェンスに描きだした そしてクソ町で圧搾空気の噴射でクソをたれ回り 十秒止まると、即座に二酸化炭素が切れてみんなそんな目的のために咳込むロビーの鉢植えヤシの下

「止まるんじゃねえぞ、わかるか、『魚毒詐欺』トンスラだ」

「了解 現実的な程度に押さえとけば背負わされずに 」

南米に送り返されたおれたちは、この町にやってきて、即座に恐るべきジョンに痛い目にあわせられる あいつは絶対逃さないんだ オマワリと獲物ごっこでおれの時間を三千年ばかし無駄にしてくれた それで尾行は諦めてウィルスと溶解することになって万事絶好調 同化氷サファイアとエメラルドがすべてレギュラー そこでおれは若いチンピラ五十人ほど送り込む サミーとその子どもがあいつの手持ちのすべてだった 一発 逆回しスイッチを止める 旅行中店が閉まってだからおれはそんな風には働かない ジョンがおれの投薬量を決める 長崎が壁に酸の中ゴムの木の下でフェードアウト かれは一九一〇年に遡って足跡を消せる その話を信じて話を納めてもいいんだぜ チャンコロ洗濯屋に雁首そろえて並ぶ

「しかしまあ、なんてシケた飯住まいの肉体だ 」

古株どもがあやす 毒蛇に自分を噛ませるクレオパトラみたくあんたにノヴァの濡れ衣を着せ

「介抱強盗？ おれは好かん ぼろぼろの鉄の空ポケット 感じられるか？」

でもジョンが言う。「宇宙売りでマップ恐怖症 はまみれの老人形 」

どっしり落ち着いて持つは冷たい革張りソファ 貧相な口髭を整え おれは鏡の前で立ち止まった 糊の効いたカラーを着てると本当に素晴らしい ここはアクアラングのご近所でしたら ところタダ飯だらけで酒部は「すてきな十六歳」 おれは押し屋イジーなしでうろつく

「よお、田舎者が！」

その間に支那人洗濯屋に到着 前にいるチャンコロのことはすっかり忘れてた ことばをな おせば青龍のご誕生 おれは磁的にそれを逆さ読みしてた 自分の居場所を確かめる唯一の方法 チャンコロ小僧のジョンと旅してるとのどが既述みたいに決まる この稼業で「石読み」と称するやつだ その場でやっこさんローマで荷造り おれはもう毎晩のように潜水服をチェックした お立ち台にあがってこの不自然な行為を実演 壁に酸の中 それで時計を合

わせな つまりそれで尾行二十人が側窓とカラー越しに

「どもセントルイスじゃどうなんだ？」

記憶画が送られてくる そこでおれたちは銀食器や銀行やクラブを転用して老俳優になりす
ます その夜おれたちが出がけにノヴァ濡れ衣 おれは好かん なにかが洗濯物を拾ってて、
それがおれの背筋に感じられる

でもジョンが言うには「午後に事件のせいでマッポ恐怖症 押し入りがこれを起こせる 」
それにおれたちゃシロだ上演し続けてるだけ 一度でも事がまずくなれば ショービジネス
詩人を見つけれず組織するこの切り傷で肉が働かない そしておれたちゃその場で空気を
切られて漂白されたアホみたく そうだな、ひょっとしておれたちの状態楽しんで ヤツら
に捕まった 老人形が電車に乗ってクズを焼く 解凍する肉がアクアラングをつけ クレー
ンから湯気叫ぶ

「よお、田舎者が！」

銀の三桁爆発 一方のおれは忘れられたマドリードの街路 そして日光みたいに清涼に空気
を送ってやると、向こうはこう叫んでよこす。「Que tal Henrique? (エンリケ、元気か?)」

おれは立って透明なドア越しにあいつに空気をカチカチ この町にやってきて即座に催淫軟膏

「ジョン、先生がここでヘマやらかしたんだ どうもいけねえ スペインっば過ぎる」

「何だって？ 緑なわけよ、わかる？ 緑の劇場 」

そこでおれたち尾行をまいて、古参俳優として家を借りる そしてこう、ショービジネスから
クールで純粋な中国産Hを便所に流す それであいつは緑儀式を丸ごと始めて繊維質の灰色円形
劇場を古い蕪で組織 一方のおれは忘れた重青静寂 炭素小僧は 冷たい液体金属に変わっ
て走る空気をヤツにポンプで送りこむと蒸散したフリッカーヘルメットの青霧となる 金属ジャ
ンキーどもはうまくいってなかった このガキどもはノヴァ警察と接触 われらはただの、非
磁化したパターンから落ちた塵 ショービジネス ワイマールの若者でカレンダー 無音の
円形劇場で色あせた詩人たち かれのブロック造の家はこの空を通過して去った カチッ漂うす
すの下のセントルイス それで思うにおれは古い診療所にいたかも 東セントルイスの外
週にニドルで本当に素晴らしい 一方のおれは忘れた「お母さん」 あんただってそうしな
い？ ベンウェイ医師と炭素小僧がダラスでこのポンプをめぐって大げんかエーテルでラリってフ
リッカー・ヘルメットで混合

「ジョン、あいつがこの町を通り抜けると即座にあいつの声のテープレコーダが後に どうも
いけねえ おれ、無色の質問を投げかけられる？」

「は大丈夫 おれの持ってるのはただ静寂 ことば塵が落ちるのは三千年を古い青カレン
ダーを抜けて 」

「ウィリアム、no me hagas caso(その手はくわない) あんたにたかって大丈夫と話してくれたやつらが逃げ出してる ウィリアムに「さよなら」と言って「現実的におさえとけ」といってあいつがこの町にくるのが聞こえてジョンを見て即座におれはドアを閉めた どうもいけねえ

透明なホテルの部屋ってだけ おれはナイフを持ってるだけであいつは言う：

「ノヴァ包囲網が縫い目から侵入 まるで窓で熱い爪して三千年」

それでウィリアムの旦那がテトゥアンにいてこう言う：『わたしに小細工があってクールですごく手がこんでるんだが この無色シーツは空気ポンプでそれが色を持つと肉体が見える すべて肉で書かれた書きもの例えばメッセージなんかがね 』

それでおれは言った：『ウィリアム、tu es loco (あんた、バカか) 逆回しスイッチを引いた その場で No me hagas(手はくわない)』 心臓に包丁 感じる 去った 逆回しスイッチを引いた ここよくない No bueno かれ荷作り caso ウィリアム tu hagas 昨日電話 この無色シーツは空っぽ 好きなところを探してみな よくない No bueno サヨナラ、ウィリアムの旦那 』

魚毒詐欺

メリット(株)と旅して『買物客』の一団と集団窃盗罪で店員たちを調べてた 中年マンコが二人いて一人がチワワなんか飼ってやがって、そいつがククンキャンキャンセーターの繭に包まれて鳴きやがって、ボブ・シェーファーは一団のリーダーでアメリカ・ファシスト党员でルーズベルトねたのジョークがお好き 事の起こりは車のラジオからこんな局が聞こえてくる：「昨春に老ブタが柵につかえ」 それでシェーファーが言うには「ああ神様、こんなひっでえクソ町にいるなんて」その晩はアイオワ州快適町に止まってタイヤがパンクして戦争中はこんな目的じゃタイヤ支給は受けられなかった それでボブは呑んでくれて川辺のドライブインで現地住民にバッジを見せびらかす それでおれはロビーの鉢植えヤシの下で水兵に出くわす おれたちはあたりの老いぼれヤブどもを「魚毒詐欺」でだましてまわる 「先生わたし、南米から持ち帰ったタンクの中に毒魚を入れてまして、つまりわたしは魚類学者なんですがこの恐怖のカンディルに刺されてからというもの 血管を炎がかけめぐりますよ、先生、それが今まさに起こりかけてるんです」 それで水兵は白熱苦悶演技を始めて医者診察室中追い回し、熔接機みたいに燃え上がってあいつは絶対にはずさない でもヤブ医者どもを使い果たしちまいやがった それでボブとおれは、老いぼれ女どもの台詞を借りれば「獲物を捕まえる」と、会社の金に派手に手をつけた不機嫌な事務員を逮捕して、交替で怖いオマワリと籠絡するオマワリを演じたもんだ そこでおれはこの快適町のヤブんどこに出かけて、金星産のウィルスに感染して、いまにも溶けて毒液と化して通行人を巻き添えにしまいそうで、それを防ぐにはクスリをそれも定期的にもらわないとダメなんだ、と言う そこでおれが出かけたのが、なんか堆肥の山みたいに臭い老いぼ

れで、オツに澄ましかえりやがって、こうぬかす。「それであんたはどこが悪いのかね？」

「先生、金星産ヌトヌト腐敗症なんです」

「おいおい若いの、わしも暇じゃないんだからな」

「先生、こいつは医学的な緊急事態なんです」

古い手だが使える おれはウトウトしてそこを出た

「水兵、あいつは一発しか持ってなかったんだ」

「自分一人だけキメやがって ヤブを懐柔しやがった おれはクスリを切らしたままだつてのに 」

「そうとも、あの老いぼれもなかなか頑張ったが、このウーの腐食性酵素にはかなわなかったつてわけよ」

水兵は切らしかけてて薬局は閉まりかけてたから、こいつが暴れておれのクスリの楽しみを邪魔してもらっちゃ困ると思った 次のヤブは性酸入りバットを片側に、長崎オープンをもう片側に置いて処方箋を書いた それでおれたちゴムの木の下で赤じゅうたんを足元に、ヤクでうつらうつらと一九一〇年に遡る 明日には薬局で買える それともチャンコロ洗濯屋の二階でごろごろして阿片を吸いつつ黒煙あげる すえた下宿屋だの、ビリヤード場だのチリだのを漂いぬけ

悲しい肉体に倒れこんで劇場的安宿で小さくうぬぼれ老い行く大根役者はネクタイで腕を縛って血管に針を刺すのはまるで毒蛇に自分を噛ませるクレオパトラみたく カチリと冷たいクールな早変わり芸人たち 介抱強盗する泥酔した幽霊たち 空のポケットがすり切れた金属地下鉄の夜明けに

ホテルのロビーで目を覚ますと、匂いが重く平静に別の肉体を持って革の椅子に張りつき 気分悪かったけどヤクのせいじゃない こいつは黒煙渴望だった 水兵はまだ寝ていて貧相な口髭してすごく若く見えた 起こすとヤツは水圧機構みたいなゆっくりした動きであたりを見回して目はだまされず考えが読めない

「通りに出てみようぜ おれ、切れかけてるんだ 」

おれは実のところすごく切れかけてて、糊のきいたカラーに締めたネクタイのノットを直そうと、鏡の前で立ち止まったときに見ただけど あたりはチリ屋と安酒場だらけでいたるところタダ飯喰わせて デブの落ち着いたバーテンが「すてきな十六歳」をハミングしてる おれは馬みたいに何も考えずに歩き「クララのマッサージ・パーラー」の隣の支那人洗濯屋にやってきた

おれたちは吸い込まれるように店に入り、フロントのチャンコロは片目でグイッと店の裏を示してみせ、シャツの前身にアイロンをかけ続けた。おれたちはドアとカーテンをぬけ、黒煙がおれたちの肺をしてジャンキー・ジグを踊らせて、ヤク寝台に横になる間に支那人のガキがおれたちのクスリを調製してパイプを手渡してくれる 六本吸ってからゆっくりと煙を吐き、お茶をポットに注文するとチャンコロ小僧が出かけて用意してくれて、ことばがおれののどではじけるまるであら

かじめそこに書かれていておれはそれを再生してるだけのように　この業界じゃ「読唇術」と呼ばれてるやつでローマで居場所を確認するにはこれしかない　「制服警官にチェック入れたんだ　マクソーリーの店に毎晩午前二時二〇分にやってきて、近所の肛門性交野郎に、自分に対して不自然な行為を強要するんだ　すごく時間通りなもんで、これで時計を合わせてもいいくらい。『いやだ　いやだ　もうこれ以上は　グチョ　グチョ　グチョ　』」　「ってことは側窓から入り込んで出てくるのに、少なくとも二十分は使えて、八時間で出発すりゃ連中が機会を逃す前にセントルイス入りできるぜ　寄り道して家族にあいさつしてこれる」　記憶画受信中　かわいい少年ブルーと重い銀食器に銀行にクラブすべて　おれにはセントルイスの家族があった　その夜決行の予定だった　外に出ると日本娘が洗濯物を取りに来たのに出くわしておれの肉体はヤクの下でうずいてその午後に娘と違い引きの約束をとりつけた　ヤマの前にセックスきめるのはいい考えた　押し入りは夢精っぽい性的緊張を生じさせるし、特に事がまずくなるときにそうなるのだ　（以前ペオリアでおれと水兵が薬局を襲って、薬棚用の金てこが見つからなくて懐中電灯もつかなくて、ドアを制服組が嗅ぎ回ってるってときに、おれたちや全身が性欲でしびれちゃって、非番で陸にあがったマヌケどもみたいにゲタゲタ笑ってた　んでもって、オマワリどもはおれたちの状態にえらく喜んでくれやがって、おれたちを鉄道駅に引っ張ってって、おれたちや燃えるようなヤク切れ症状で震えながら列車に乗ると溶ける肉体とすえた精液の生温かい植物臭がゆっくり貨車を満たした　だれもそこで堆肥の山みたく湯気立てるおれたちを正視できない　）軽いヤク切れ睡眠から目をさましたところへ日本娘がやってきた　頭の中で銀の三桁爆発　おれはマドリードの街に歩み出てサッカー賭博で買った　日光のように明白で凡庸なラテン精神を感じパコとサッカーのスコアボードの横で会うところ言う：「Que tal Henrique? (エンリケ、元気か?)」

それでおれ、Amigo(ともだち)に会いにでかけて、そいつはまたクスリに手を出しててぼくにくれる金も全然持ってなくて、したがることといえばクスリをもっと射つことばっかで、そこに突っ立ってクスリが射てるようぼくが去るのを待ってて口ではもうクスリはやらないなんて言ってるもんだからぼくはこう言った。「ウィリアム、no me hagas caso(その手はくわないよ)」それでその晩マル・チカでキューバ人に出会って、かれはぼくにバンドで働かないかと言う　翌日ぼくはウィリアムにさよならを言って、だれもそれを聞いている人はいなくてを閉める時にかれがクスリと注射器に手を伸ばすのが聞こえた　あのナイフを見たときぼくはウィリアムの旦那が何気ない人物のふりをした死なのがあった　だって「透明人間」とどっかホテルの一室で会ってそのナイフをあの人に突き出したら、こう言ったんだ：「わたしを殺せばこの世界は縫い目のところでバラバラになるぞ、腐った下着みたいにな」　それで窓に熱い爪した化け物ガニが見えてウィリアムの旦那はなんか白いクスリを射ってトイレに吐いてぼくらギリシャにぼくと同じ年頃の男の子を連れて逃げてそいつはウィリアムの旦那のことをずっと「馬鹿なアメリカ人」よばわりしてた　それで

ウィリアムの旦那は前にテトゥアンで見た催眠術師みたいに見えてこう言った：「わたしはカニを出し抜く小細工を知ってるんだが非常に手がこんでるんだ」　それでかれが透明シートに何を書いているのかぼくたちには読めなかった　パリであの人はこのシートに空中で絵を書く人を見せてくれた　そうして透明人間曰く：

「この無色シートこそ肉体を形作るものなのだ　色と書きものを得ると肉になる　つまりことばと映像ということで、無色のシートにおまえであるところのメッセージを書けば、すべての肉体が決定づけられる」

それでぼくは言った：「ウィリアム、tu eres loco (あんた本気でいかれてるよ)」

よくない　No Bueno

何年もの間　あの映像　立ち上がって病んだ夜明けに調製　No me hagas caso(その手はくわない)　またもやあいつはそんなふうに触った　ちりの匂い　涙が溢れる　メキシコでまたもやあいつは触った　コデイン錠剤が冷たい春の空気の中へ粉化　膨大な物警察にタバコの焼け焦げ　出せる情報はせいぜいが風身元フェードアウト　先細り　「ミスター・マーティン」には手が届かないってだけのこと　心臓にパン切りナイフ　影が消す明かりと水　無人の壁で交差接触　どこでも探せ　よくない　暗い言うことをきかないドアを落下　死手が伸ばすゼロ　五倍のちりでおれたちやりとげた生死を問わずすべて　若い姿がマドリード行　ろうそく明かりでデメロール　風手　窓辺を叩いた最後の電気技師　入植者到着　死んだ太陽の毒は去って書類を送った　フェリーボートが横切るラマダーンの笛　死んだつぶやきが犬空間の中　闇にタバコの焼け焦げ　出せる情報はせいぜいが冷たい春の墓地　水兵はその病院の廊下でおかしくなった　物警察があらゆる安宿報告を保管してたっただけのこと　心臓にパン切りナイフは災害報告を提供　かれはただ「ミスター・マーティン」にすわる　ニニョ・ペルディードの肉には手が届かない　ラマダーンの笛の間には長い時間　No me hagas caso(その手はくわない)　が光と影をすべるように行き来

「アメリカ人が con su medicina (連中のクスリを持って) 傷ついた星雲を横切って移動してるよ、ウィリアム」

脳の半分がゆっくり消失　水と明かりと消す　肉には手が届かない　無人の壁　どこでも探せ　線路上で死んでミスター・ブラッドレー・ミスター・ゼロに会え　そして盲目故にわたしの創ったわが血への地図を拒絶できない　「ミスター・ブラッドレー・ミスター・マーティン、もう少しマシなもん書いてもらえませんか」　去った　どこでも探していい　よくない　No bueno

滑るようなハゲタカの影の下で血を吐いた　メルカード・マヨリスタで旅行者に会った　メリケン人の旦那カモでブランデーなんか飲んでる　そしてぼくをあのみつきで捕らえたので、ぼ

くはすわって飲んで、自分の住んでるのが丘のふもとの掘ったて小屋で、トタン屋根に石で重石をしてあって、大喰らいの兄弟たちが嫌いだってな話をする　かれは「malo viento (風が悪い)」とか何とか言って笑い、ぼくはかれと知ってるホテルに行った　朝になるとかれはぼくが正直だって言ってプカルパにいっしょにこないかと言うジャングルに入ってってヘビやクモを探して写真を撮ってワシントンに持ち帰るんだってこの連中はみんな何かしら運び去っちゃうんだそれがただのクモザルだったにしても、ここらの連中のほとんど全員と同様に血を吐く冬になると山から霧が降りてきて服や肺から決して去らずみんな咳きこんで血霧をぼくが寝る三和土に吐くんだ　翌日ミクスト・バスで出発して夜には雪の降る山に入り旦那はブランデーのボトルを取り出して運転手は呑んでくれて Selva (ジャングル)の中に入って三日後にプカルパに到着　旦那は brujo (まじない師)を見つけだして金を払ってアユフアスカを用意させてぼくもその飲んだら muy mareado (オドロキモモノキ)　するとぼくはリマに戻ったりほかの知らない場所にいたりして薔薇壁紙の部屋にいる子供時代の旦那がぼくには見えないものを見てるのを見た　ローストビーフや七面鳥やアイスクリームをのどに味わい自分に見えないものはいつだってすぐ外の廊下にあるんだと知りつつ　そして旦那はぼくを見てぼくはかれののどに街場少年ことばを見れる　次の日警察がホテルにぼくらを探しにきて旦那は司令官宛ての手紙を見せて、そこでみんな握手して干る飯を喰いにでかけぼくは旦那が装備を買うのにくれたお金を持ってバスでリマに戻った

座標位置移動

K9 は異星人精神スクリーンと戦闘状態にあった　ウィルス・パンチカードを手探りする磁気爪　かれをめまいのする渦に引きずりこむ

「戻れ　あの爪には近づくな　座標位置移動」町役場広場の横で、赤信号で長いこと停止　ホットドッグの屋台に少年が立っていて、鼻水を垂らしている　灰色蒸気のかげらが漂い戻って横切るワイン・ガスと茶色の髪的一方でホテルの色あせた写真が示すしんちゅうベッド　未知の朝がクモの巣に雨を吹きつけ　夏の宵の感じが薔薇壁紙の部屋で　病んだ夜明けにささやく時計の針と茶色の髪　朝に雨を吹き付けるゆっくりしたリンゴの嵐　夏の日差しが薔薇壁紙に　鉄のメーサがピンクの火山に照らされ　雪の斜面が北シャツの下　未知の通りが病んだ夜明けのヤクささやきをそよがせ　ラマダーンの笛が彼方で　セントルイスの明かり来世の濡れた石畳　小便器におっこちて自転車競争　バーの壁で時計の針が　おれの死がかれの顔に書かれて薄れるサッカー・スコア　軍放出毛布のちりの匂い　一方の壁にゴワゴワのジーンズ　そしてキキは猫みたいに去った　清潔なシャツを少しで立ち去る　かれが通り抜けたのは未知の朝吹き　「よくない　No bueno　自分を追い立てる」かような智慧が突風

K9 は己れの戦闘エリアに戻った　いまや立つは中国の若者が送るレジスタンスのメッセージ

が揺れてはカチカチティルトし抜けるピンボール・マシン 敵の計画が高速計算の噴出で爆発
 転送された命令のパンチカードを打ち込む パチパチと短波ノイズ ブーッ 思考金属
 の音

「全世界のパルチザンに告ぐ ことばがおちる 写真がおちる 灰室内突破 ピンボ
 ール導く通り 戸口解放 座標位置移動 」

「爆発した切符はちょっとポーズ、だから『さよなら』 スペイン風邪のかけらが写真しない
 緑のネオンで風を照らせ あんたは犬に向かい 通りが吹く雨 もし薔薇壁紙で紅茶が
 欲しいなら 犬はふりむく こんなにたくさん、こおおおんな 」

「進行中のわたしは写真を地図に落としている 傷ついた星雲の光詩を犬に向かってした
 通りが雨を吹く 犬が振り向く 弾頭が交差接触する権力 ことばがおちる 写真がおち
 る 灰室内突破 」

かれは透明な朝を抜けて去り後に残した自分の声の百万ものテープレコーダが冷たい春の空気にかき消えて無色の質問を投げかける？

「静寂は山村に重く青く落ちかかった 脈打つ金属静寂が、ことば塵が非磁化したパターンから落ちた 歩き抜けるはワイマールの若者で老青カレンダー 色あせた写真がかかった薔薇壁紙は銅の屋根の下 無音の夜明けの中、灰色の小人が積み木の家で遊び、透明のドアを抜けて去った カチセントルイスが漂う古新聞の煤の下 「足長おじさん」は竹馬に乗ったアングル・サムみたいで、東セントルイス郊外で整骨クリニックを営んでいて、週二ドルでヤク中患者を受け入れて、みんな緑の芝生のデッキチェアでヤクにうっとりして檜の木や芝生が日に照らされた小さな湖へと続くのを眺めてられて、看護婦は銀のトレーを持って芝生を歩き来してヤクを補給する おれたちは彼女を「おっかさん」と呼んでた あんただってそうするだろ？ ベンウェイ医師とおれがそこに糞づまりになったのは、ダラスでの催淫軟膏がらみのもめごとの後で、ベンウェイ医師がエーテルでラリってスペイン灰を混ぜ過ぎたもんで、警察署長のチンボコをきれいに焼き切っちゃったんだ そこでおれたちほとぼりをさますのに「足長おじさん」を頼って、おじさんはクールで気さくで暗い部屋に鉢植えのゴムの木とテーブルに銀のトレーが置いてあって、そこで一週間分先払い 看護婦が薔薇壁紙の部屋へ案内してくれて、呼び鈴がついてて、昼夜を問わず何時でもそれを鳴らせば看護婦が、満タンの注射器持ってやってくる それである日芝生のデッキチェアにすわって膝掛けなんかしてて、秋日和で木が葉を落として太陽が湖に冷たい
 ベンウェイ医師は草の塊を手取る

「ヘロインは人を植物でハイになれるようにしてくれるんだ ほら、緑だろ？ 緑一発はずごく長持ちするはずなんだ」

おれたちはクリニックを退院すると、家を借りて、ベンウェイ医師は何やら緑のヤクを煮詰めだして、地下室はジャンキー堆肥の山みたいな匂いのタンクでいっぱいになった それでついに

れは、重い緑の液体を抽出して、それを自転車用の空気入れみたいにでかい注射器に詰める

「さて、これにふさわしい被験者を探しませんとな」と医師は言って、探してきたのがこのバルビツール・アーティスト。中国李王朝伝来の純粹Hだとたばかって、医師が半リットルほどまると大静脈に流し込むと、このバルビツール野郎は繊維っぽい灰緑に変わってしなびた蕪みたいにしおれちまったんで、おれは言った。「おれは知らないぜ、こんなの知らないぜ」すると医師曰く「被験者がふさわしくなかったようすな　そこでわたしはヤクが緑ではなく青だと結論づけましたよ」

そこで先生はたくさん管や球体を買ってこいで、それが地下室できらめいてるこの管の一群、金属蒸気と水銀と脈打つ青い球体とオゾン週と小さなハイファイブルー・ノートがおれをずばり金属中毒にしてくれて、こういうヤク音がおれの結晶中をチリチリ駆け巡り重青静寂がドカッと落ちてくる　そしてことばはすべて冷たい液体金属になっておれから抜け出しやがんだぜ、それで蒸気化した紙幣の冷たい青い霧になってそこで固着するんだ　後にわかったことだけど、この金属ジャンキーたちはみんな放射性で、二人接触すれば爆発する　研究のこの時点でわれわれはノヴァ警察と交差接触した

第3章 支那人洗濯屋

支那人洗濯屋

若僧サザランドがノヴァ警察との調停を仲立ちしてくれと頼んできたとき、わたしは冗談半分でこう言った。「ウィンクホーストを連行してこい。ラザルス製薬の専門技師兼化学者だ。その上でこの件は話し合おう」

「このウィンクホーストってのはノヴァ犯罪者なんですか？」

「いいや、ただの尋問しておきたい二等軍曹だよ」

もちろんわたしが考えていたのは、サザランドは尋問用の連行手続きなど何も知らない、ということだ。それは非常に緻密な仕事なのだ。まず諜報員を次々に送り出し（通常はジャーナリストというふれこみで）ウィンクホーストに接触させ、大量の刺激ユニットにかれをさらす

このコンタクト要員たちはかれに話しかけ、その反応を一語一語の単語レベルに到るあらゆるレベルで記録し、一方でカメラマンが写真を撮る。これらの素材はアート部にまわされる。作家たちは「ウィンクホースト」を書き、画家たちは「ウィンクホースト」を描き、スタニスラフスキー方式の役者が「ウィンクホースト」になりきって、するとその「ウィンクホースト」がわれわれの質問に答える。実際、ウィンクホーストの処理はすでに進行中だった

数日後、ドアにノックが聞こえた。サザランドの若僧がそこに立っていて、隣にはコートの襟を立てた人物がいて、見えるのはかれの目だけだったが、その目は憤慨したような抗議を吐き散らしていた。見ると、コートの袖には腕が通っていない。

「拘束衣を着せてあるんです」と言いつつ、サザランドは男を部屋に押し込んだ。「こいつがウィンクホーストです」

見れば、コートの襟を立ててあるのはさるぐつわを隠すためだった。「でも、お前、勘違いしてくれたな。こういうレベルでの話じゃないんだ。こういうつもりじゃ」

「ウィンクホーストを連行してこいって言ったじゃないですか」

わたしはとっさに考えた：「わかった。さるぐつわと拘束衣を取ってやれ」

「でも、わめきたてて大騒ぎに」

「大丈夫。そんな真似はしないって」

かれが拘束衣を脱がせている間、わたしは昔の夢の光景を思い出していた。このプロセスは遊及的夢見と呼ばれている。正確に堂々に行なわれれば、それは既成事実となる。もしウィンク

ホーストが叫びだしたとしても、それはだれにも聞こえない　世界の鏡の向こう端がわたしの過去に侵入　ガラスの壁ってやつだよ　ウィンクホーストは少しも騒がなかった　鉄のような冷静さでかれはすわった　わたしはサザランドに、かれの要求はしかるべき方面に手配すると約束して、席を外してくれと頼んだ

「わたしが参ったのは、洗濯の請求書の件に片をつけていただくためです」とウィンクホースト。

「どの洗濯屋を代表しておられるんですか？」

「支那人洗濯屋ですよ」

「請求書はそれなりの手続きを経て支払われます　ご存知の通り、いわゆる『個人的経費』の精算というやつは、えらく複雑で時間を喰うものでしてね　それにこれもご存知の通り、精算を通貨で行なうことは固く禁じられているんです」

「わたしは精算を要求する権限を与えられました　それ以上のことは何も存じませんよ　さて、どうしてわたしが召喚されたのか、うかがえますかな？」

「召喚と言うと語弊がありますなあ　お招きした、とでも申しましょうか　そのほうが人道的でしょうが　実はわれわれ、あなたの昔からの近しいお知り合いについて、各方面のご意見をうかがっております。その方とはラザルス製薬のウィンクホーストさんなんです　あの方のご友人や親戚、同僚の方たちのお話をうかがって、かれが化学会社重役柔道チームのキャプテンに再選される可能性がどの程度のものかを予想しようとしてるんです　ラザルス社のモットー「いつもお手柔らかに」から見て、これがいかに重要な点かは、もちろんご理解いただけるでしょう　さて、このインタビューに迫真性を与えたいので、ここは一つお互いに、あなたがウィンクホーストさんご自身だというふりをして、一人称で質問をさせていただきますでしょうか　さてさてウィンクホーストさん、時間を無駄にするのはよしましょう　われわれはあなたが新しい幻覚性の薬品の合成を担当している化学者だということを知っている　その薬品の多くは、実験目的のためにすら出回っていない　さらにわれわれは、あなたが多くの街角で広範に出回っている既知の幻覚剤に対し、ある種の分子レベルの変化を生じさせるのに寄与したのも知っている　この変化は正確には、どのようにして行なわれるんですか？　わたしは明らかに技術的な知識を欠いているが、それだからといって、説明を端折らないでいただきたい　それはわたしの仕事ではない　あなたの返答は録音され、技術部にまわされて処理される」

「このプロセスはストレス変形と呼ばれる　サイクロトロンを使って行なわれる、あるいは行なわれた、と言おうか　たとえばメスカリン分子がサイクロトロンのストレスにさらされると、エネルギー場が変形されて、分子の一部が分裂レベルにまで励起される　このようにして処理されたメスカリンは、被験者に対して　（これは『犬処理』と呼ばれているのだが）　その、不愉快で危険な症状を生じさせ、特に核分裂の影響で『熱症候群』という症状を生じさせる　被験者は、からだが燃えるようだ、窒息しそうな暖炉に閉じ込められたようだ、白熱した蜂が全身に群

がっているようだとかぼす　熱い蜂というのは、もちろん変形したメスカリン分子なんだ　もちろんこれは単純化した説明だがね　」

「つまりほかにも処理方法がある？」

「もちろん、だがそれは常に分子レベルでの変形あるいは結合の問題となる　別の処理方法は、メスカリン分子をあるウィルス群にさらすことだ　このウィルスはご存知の通り非常に小さな分子で、分子鎖に正確に結合させることが可能だ　この結合は、肝炎のようなウィルス感染に苦しんだ人間に対し、追加のチューン・インを与える　このような処理では熱症候群を生じさせるのはずっと易しい」

「この処理を逆転させることは可能か？　つまり、一度変形が行なわれた後で、その物質を元に戻すことはできるのか？」

「それほど簡単なことではないな　流通業者から在庫を回収して置き換えるほうが易しい」

「それならうかがうが、良性の結合というのはいり得るだろうか　たとえばメスカリンとアポモルヒネを分子レベルで結合させることはできるだろうか」

「それにはまず、アポモルヒネを合成しなくてはならない　ご存知のように、これは禁じられている」

「そしてそれには十分な理由がある、そうだろうがウインクホースト？」

「そうだ　アポモルヒネは代謝機構を正常化させる調整中枢を刺激して、寄生体の侵入を食い止める　この薬物の強力な変異体は、あらゆる言語ユニットを遮断して地球を沈黙で覆い包み、すべての熱症候群を切断してしまえる」

「おまえならそれができるんだな、ウインクホースト」

「簡単ではないがね　技術的な細部の詰めがあるし、時間がほんのこれだけしかない　」そう言ってかれは、人差し指と親指を五ミリほど開いてみせた。

「難しいが、不可能ではないんだな、ウインクホースト」

「もちろんだとも　もしそういう命令を受ければだがね　これは考えにくいことではあるな、われわれ二人とも知っている、ある事実に鑑みれば」

「それはつまり、ノヴァの予定日のことだな」

「もちろん」

「それが不可避だと思っているわけか、ウインクホーストさん」

「わたしは計画を見たんだ　奇跡は信じないたちでね」

「ウインクホーストさん、その計画は何で構成されているんだ？」

「要は廃棄の問題だ　ウラニウムと呼ばれる物質で、これはすべての原料に当てはまることだが、実は一種の排泄物なんだ　放射性廃棄物の廃棄問題は、あらゆる時空間において、最終的には解決不可能なんだ」

「しかし言語ユニットを分解すれば、つまりその容器を蒸散させれば、爆発は生じず、実質的には存在しなかったことになるのでは」

「そうかもしれん わたしは化学者であって、予言者ではない ノヴァ計画は破ることができず、一度実行に移されれば決してもとに戻せないというのは、自明の事と思われている すべてのエネルギーと割り当て物資は、いまや脱出計画に注ぎ込まれている もし興味がおありなら、わたしはあなたを脱出に勧誘する権限を与えられている もちろんある時間水準での話でだがね」

「そしてその代償は？」

「簡単だ。惑星地球上には、ノヴァの活動を示す証拠は見当たらないという報告を送ってくればいい」

「きみたちの申し出なんて、誰か他人の古臭い映画に出てくる、当てにならないアクアラングみたいな存在だ そんな連中は、一九二〇年代目指して派手にUターンしちゃったぜ それにこいつは何もかも、まるっきり馬鹿げてる たとえばわたしが水星からこんな報告を送ったらどうなる：『気候は涼しく気を引き締めてくれる 原住民はすごく友好的』あるいは『天王星で気づかされるのは、手足が軽く素晴らしい開放感が味わえるという事だ』なんて報告を送ったら？ そこでベンウェイ医師がピシャリと言うには『簡単だ、うす汚いノヴァの活動を示す生き写し通知を送ってくればいい こいつは何もかも、まるっきり馬鹿げてる、まるで卵が割れて気候は涼しく気を引き締めてくれる』あるいは『天王星は開放感をキノコってる』 これは一九一七年の古い粉々のピンクのカーニバル 悲しい小さな灌漑用水 もし連中に決まった日があってエロ映画の中で麻痺して身をよじってるなら、それ以外のどこで？ あんたの申し出はアクアラングのスクラップ 当てにならない肉体 汚れた映画、チンポコにボロきれ 腸性街場少年が外便所越しに匂ってくる』

「わたしは申し出を行なう権限を与えられているんだ。その有効性を確認するのは権限外でね」

「申し出は却下された この惑星上の、係官と称する連中はパニックして、女装して最初の救命ボートに殺到している このような行動は係官としてふさわしからぬものであり、この連中は任務から外された どの道、この任務はかれらにとって、明らかに絶え難いほど過大なものと感じられていたわけだからな 警察官としてのわたしの経験の中で、これほどあからさまに馬鹿げた陰謀にはお目にかかったことがない ここで活動しているノヴァ・ギャングは、他のどこでもわれわれの警察ラインを破ることすらできない、間抜けな役立たずどもだ」

これは犯罪者を挑発して公につつき出すための、古いつき回し技法だった 警察には三千年いるが、未だに使える技法だ ウィンクホーストはカニ座星雲の熱い渦巻きの中でフェードアウトしつつあった わたしは一瞬パニックした テープレコーダのところへゆっくりと歩いて戻った

「さてウィンクホーストさん、お許しいただけるなら、この音楽をお聞きいただいて、反応を見せてほしいんですよ　アポモルヒネ番組のコマーシャルに使うんでして　さてこの音楽をお聞きいただいてアドバンテージを与えてほしいんですよ　このスポットにはむっつりした街場少年を考えてまして　」

わたしはグナヴァのドラム音楽をかけて銃を両方撃ちまくりつつ振り返った　銀の針が何トンもの下焦点をあわせて平均して水平に砲火を開き相変わらずの腕でドラムのビートに合わせて叩きつけては刺す　サソリ・コントローラがスクリーンに映っていて青い目を白熱させて吐き散らす惑星のドロドロのコアでは鉛が融ける正午、かれのからだは半分マヤ神殿のポルティコに隠され　拷問室と肉の焼ける匂いが部屋を満たす　囚人たちは白熱したミンラウドの空の下で張り込みして金属アリに生きたまま喰われる　わたしは距離をおいて、平方センチあたり十トンの叩きつけては刺す光弾でかれをとり囲む　命令はいまや大きく明瞭に聞こえてくる：「撃て　叩け　掃射しろ　殺せ」　画面が開かれる　マヤの絵文字とエジプトのヒエログリフが見える　囚人たちはオープンの中で叫び昆虫形態にまで砕け散る　下半身丸出しの等身大肖像が電信柱にぶら下がり射撃する白熱空の下　卵が割れるときに拷問の匂い　いつも昆虫形態に張り込みする背骨が集めるキノコ蟻　目玉が飛び出すはだかで電信柱に吊された思春期のイメージ

音楽はパン・フルートに移ってわたしは僻地の山村に引っ込み、そこでは青い霧がスレートの間を吹き抜ける　ツタ人間の地が永遠の月光の下　圧力が除かれ　平方センチあたり十トンがいきなり引っ込み　穏やかな灰色の距離をおいてわたしはサソリ・コントローラが低圧エリアで爆発するのを見た　大風が黒い平原を鞭打ち絵文字やヒエログリフを蹴散らして地球の屑の山にする　（メキシコ人少年がマンボを口笛で吹きながらズボンを脱いで、マヤ絵文字のマドリッド写本のページで尻を拭く）塵人間の地ではみんな砂嵐の中で風に乗って暮らす　風風風がほこりまみれのオフィスや書庫を吹きぬけ　風が安宿や時間の拷問バンクを吹きぬけ
（「大いなる平穏がツタ人間たちの緑の地を包む」）

厳然たる当局

地区監督官（DS）に報告を手渡すと、かれは薄ら笑いを浮かべてそれに目を通した　「連中はいつもながら、きみの注意を戦争映画でそらし、偽の情報をあてがったわけだ　もちろんきみは経験が浅い　このあたりじゃまるっきりの素人軍団だ　しかしきみの職権逸脱行為のおかげで、こっちは多少点数を稼げる　さあついてこい、本物の真相を手に入れるんだ　」

警察のパトロールが、ラザルス株式会社の本社オフィスになだれこんだ

「さてウィンクホーストさんならびに重役陣のみなさん、真相を話していただきませんか、しかも今すぐです、それともパルチザンたちの前で話をしたいですか？」

「この間抜け野郎どもめ」

「情報です、いますぐ あんたみたいな連中と暇つぶしをしてるわけにはいかないんだ」

DSは半透明な銀となって、厳然たる当局のしっかりした砲弾を送り出していた。

「わかった 話そう サイクロトロンは映像を処理する マイクロフィルムの原理だ
小さく小さく、より多くの映像をより小さな空間に、サイクロトロンで押し込めて結晶映像食事になるまで この方法でなら全世界を指貫きにつめて、肛門に隠して持って出られる 昔のかれ並に優秀なわれわれ二人の映像だ 指貫きだぜ、考えてみるよ ただの老いぼれ芸人がおれたちの日除けをたたんでるってところか 」

「その芸ならもうたくさん 証言を続けていただこう」

「そりゃそうだけどね、でもこれでおれたちが、あの間抜けな田舎者どもが合成写真なんかで遊んでるのを眺めて、もらしそうなほど笑いころげてた理由がわかるだろうが まるで戦車の編隊に向かって、できそこないのパチンコで突撃するようなもんだ」

「これで最後の最後だ 証言を続けていただこう」

「そりゃそうだけどね、でもこれでおれたちが、あの間抜けな田舎者どもが粉々のカーニバルなんかで遊んでるのをあんなに見張ってた理由がわかるだろうが まるで戦車の編隊に向かって、できそこないのサナトリウム一九一七年で突撃するようなもんだ 決してガソリンをしまっつけなかった ただの古参兵ってだけ」 (かれは歌と踊りのルーチンを始め、オフ・ステージで踊る 一八九〇年のオマワリがかれをウィングで拾って腹話術の人形を持ち帰る)

「紳士諸君、これぞ死童ですぞ ご覧の通りリモコンで動いている Dご夫妻からのあいさつをこめて」

童曰く「一発射ってくれよ 面白い話を聞かせてやるからさあ」

水圧仕掛けの金属の手が掲げるトレーに乗った燐光性の食事は黄褐色で粉々の琥珀のよう 童は銀のケースから注射器を取り出して、大静脈にその食事を一つまみ注射。

「映像だ 何万もの映像 それがおれの食料だ サイクロトロンの糞 この中毒をアボモルヒネなんかで治せると思うのかよ いまやおれは、あらゆるところで行なわれたあらゆる拷問と性行為のすべての映像を手に入れたから、それをあっさり送り出して、貴様らサルどもを分子レベルに到るまでコントロールできるんだ おれにはオルガズムもある おれには絶叫だって持ってる あらゆる三文詩人がひりだした、すべての映像を持ってるんだ おれの力が満ちてくる 力が満ちてくる 力が満ちてくる 」かれは祈祷治療師の芸ルーチンを始め、目玉をぎよろつかせ、口から泡を吹く 「そしておれは、このおれ様の映像を何万も、何億も持ってるんだ、このおれの、おれの、おれ様の！」(気を失う ハッと意識の焦点を取り戻すと、天王ウィリーに向かって叫んで唾を吐きかける)「このヘッポコ このネズ公 このおれに、マッポをけしかけやがって 上等だ (気を失う) おれはこれでおしまいだが、おまえは相変わら

ずの薄汚ねえ密告屋だ 」

「発言はこちらに向かってやっていただく」とDS。

「上等だ、このヘッポコ保安官め てめえらみんな、煮詰めて皮をひん剥かれた犬処理にしてやる アポモルヒネの化学式なんか、絶対に間に合うもんか 絶対に！ 絶対に！ 絶対だ！」

（腐食性の白熱唾液がかれの歯から滴る 燐の匂いが部屋を満たす） 「人間イヌどもめが」 かれは泣きながらくずおれる 「もう一発射ってもいいだろう、な？」

「もちろんだとも 情報を提供してくれた後で、クスリを抜いてやろう」

「クスリを抜いてやろうだとさ ああ、このおれのザマを見てくれ」

「悪くないですよ、こちらの目的のためには」

「糞だ 天王クソ おれの人間イヌどもはそれを喰うんだ そしておれは、連中に鼻面をそれにこすりつけてやるのが好きなんだ 美 詩 空間 そんなものが、このおれの一体何の役に立つ？ 映像をキメなかったら、おれはオープン送りだ わかるか？ 苦痛と憎悪の映像がすべて解き放たれる これがわかってんのか、この間抜け野郎めが！ おれはこれでおしまいだが、お前の目玉はまだ飛び出さず 思春期の映像キャンディーがはだかでパナマ だれ見通しが違う？ てめえらみんな、煮詰めて皮をひん剥かれたマンドレイク 」

「Dさん、アポモルヒネの化学式をよこしてわれわれの仕事を楽しんでくれたほうが、あんた自身のためだとは思わんかね」

「おれには効かない おれのこの中毒には 」

「なぜわかる？ 試してみたのか？」

「まさか もしだれかにその開発を許可したりしたら、そいつは抜けてしまうんだ、わかってんのか？ 抜けが一人でも出たら、それだけでおれの注射器のトレーを蹴飛ばすには充分なんだ」

「そうは言っても、あんたに選択の余地はなからうが」

再び映像がカッチリと戻り、古い映画のようにすぐにあせてはチラつく

「おれにはまだ委員会調書がある この惑星なんか、明日にでもまっ二つだ そして貴様はだ、このネズミ野郎め、貴様はオープンの中で氷漬けだ 通称アラスカ焼き おれを植物にしとくには、アラスカ焼きに勝るものなし いつだってお利口さんが、群れなしてアラスカ焼きを待ちわびてるんだ 」小人の目は青い火花を散らした 肉の焦げる匂いが部屋を吹き抜ける

「おれはまだキノコ惑星まっ二つを楽しみ あらゆる三文詩人がひりだした歓び 近くに寄っておれの写真を見てみな 面白いもん見せてやろう 近くに寄って、連中が汚れたシートの上で転げ回のを見てご覧 お庭団おれたち二人とも昔ながらの腕 甘い映画がいき始める 吊された男はひざをあごまで引き上げ わかるだろ むき出しの美でむかしながらの腕 チンポコが直立して白い石灰を吹く 卵が割れる時にあいつの股間を試してみたのか？ いまや

おれは、逆回しのすべての映像を手に入れた　錆びた黒ズボンロッカー室でこすりあう繊細なサルドも　もう一発射ってもいいだろうジミー・シェーフィールドは昔ながらの腕だ　ピンクのカーニバルで部屋を肉れ　」

若いエージェントが顔をそむけて吐いた；「警察の仕事はどのレベルでも楽なものではない」とDS。かれはウインクホーストに向き直った；「この特別種があんたの薄汚ない薬物の通牒を吐き散らす　レベル　」

「うん、おれの情報の一部は有益だ　サイクロトロンを使うのは事実なんだ　でもこんな具合だ　たとえばメスカリンを熱したかったら、広島と長崎の白熱する写真をサイクロトロンに入れて、熱金属をメスカリンに加減して入れる　探知不可能　ホント単純で効果抜群　むき出しの美とでも言おうかね　あるいは坊や用に『湯地』が欲しいとずっと、その子のチンポコが白い石灰を噴出する白熱のミンラウドの空の下なんて映像を、サイクロトロンにくべてやるわけ」

死童は片目を開ける「よお、オマワリ、こっちこいや　別の話があるんだ　この際だから密告っちまえ　ここじゃみんなやってることだって聞かされてるし　黒んぼのこと知ってっか？

黒チャンがなんで生まれたか？　旅行肉体っておれたちゃ呼んでる　輸送に便利なんだ　他のことも話してやろう　」気を失う。

「で、ウインクホーストさん、アポモルヒネ合成式は？」

「アポモルヒネとは無言にして無映像　沈黙ウィルスやアポモルヒネ・ウィルスといった表現は誤解のもとだ、アポモルヒネとは反ウィルスなのだから　えー、アポモルヒネ製剤は致死量寸前のサイクロトロン濃縮済み苦痛&快楽を含む文化で育て上げなくてはならない　サブ・ウィルスは反ウィルス特殊群を刺激する　生き残った製剤に免疫性が確立されると　ほとんどは生き残らないけどね　われわれはウィルスの力に勝てる製剤を手に入れたことになる　問題は要するに、残された非常に限られた時間の中で、接種プログラムを実施できるかというだけのことだ

言葉は映像を生じ、映像とはウィルスそのものだ　われわれの設備は諸君に提供するし、わたしも協力は惜しまない　二等軍曹だからだれの下で働こうと同じ　この役人連中、どのボタンを押せばいいのかもご存知ない」かれは童の方をにらみつけるが、童の手はツタに変わり始めている

「わたしは皮剥きカブなんかにつてのたわごとは聴く耳持たない　それであんたら、言わせてもらうがオフィスや研究所の連中みんな、あんたらが大嫌いなんだ、この鼻持ちならねえ重金属ケツの重役会議のチクショウどもめ」

ウィルスの力に関する技術的証言

「みなさん、最初に提案されたのは、われわれが自分自身の映像を使って、どうすればそれがもっとポータブルになるかを調べよう、ということでした。単純な二進符号化方式（デジタル化）で映像すべてを含むことができると判明しましたが、一方で記憶容量も大量に必要となることもわかりました。これはデジタル化された情報が分子レベルで書き込めることがわかり、われわれの全映像が砂粒一つに収まるのがわかって解決しました。しかしそこで判明したのが、これらの情報分子は無生物ではなく、ウィルスに見られるような生命能力を示すということです。われわれのウィルスは人間に感染し、その人物上にわれわれの映像を再現します。

まずわれわれは、自分のイメージをとって、それを符号化しました。これは情報理論家たちが開発した技術的な符号です。この符号は、空間節約のため分子レベルで書き込まれましたが、このときこの映像物体が無生物ではなく、ウィルスと同じ生命サイクルを示すことが発見されたのです。このウィルスを世に放てば、全人口に感染して、その全員をわれわれの複製に仕立てあげます。最後に複製化する集団が、その事実気づかないことが確実となるまで、このウィルスを放つのは安全ではありません。このためわれわれは、いろいろな形態の変種を発明しました。これはつまり、含まれる情報の内容のさまざまな変種、ということですが、それはつまり、常に既存の材料を変化させたものに過ぎないのです。速度をあげた情報、速度を落とした情報、ウィルス材料をサイクロトロンからの高エネルギー放射にさらしてランダムに変容・変化させた情報、一言でわれわれは、情報レベルで無限の変種をつくりあげたのです。いわゆる科学者どもに、『自然の豊かさ』とやらを永久に研究させておくに十分なほど多様な変種です。

この間ずっと、肉体なしの生命体を人間が生み出す可能性が絶対に生じないことが肝腎でした。ご記憶でしょうが、われわれの生み出した変種は物質とエネルギーの相互作用による電磁気構造の変容であり、これは非肉体系験の材料となるものではありません」

ノヴァ警察技術部門からの付記

「いわゆる『アポモルヒネ分子式』に関するウィンクホーストの情報は不完全だった
 かはアルノルヒネに言及していない　この物質はアポモルヒネ同様にモルヒネ
 からつくられモルヒネを細胞から締め出す働きを持つ　アルノルヒネの注射は、中

毒患者に即座に禁断症状を引き起こさせる　これは急性モルヒネ中毒の特効薬でもある　レキシントンのイスベル博士は、最近『イギリス薬物中毒ジャーナル』誌上に論文を発表し、アルノルヒネは中毒性を持たないが、鎮痛剤としてはモルヒネよりもっと有効だが、『精神障害』を引き起こすので使用不可能だ、と述べている　苦痛とは何だ？　もちろん映像へのダメージだ　ヤクは濃縮された映像で、だから鎮痛効果を持つのだ　映像がなければ苦痛はありえない　アルノルヒネの鎮痛効果はまさにこのためかもしれない、さらにこの詳述されていない『精神障害』もこのためかもしれない　そこでわれわれは、アポモルヒネと組み合わせてアルノルヒネを投与し、実験を開始した。

座標点

ここで述べたケースで、われわれの手法や、われわれが呼ばれて相手にすることとなる人物については、それなりにお示しできただろう。

「このコピー惑星上のだれ一人として、ノヴァ犯罪者を見たことがあるとは思えない　（連中は自分の活動を隠すために非常な苦勞をするのだ）　そしてだれ一人としてノヴァ警官を見たことがないのは確実だ　ある惑星上の騒乱が一定レベルに達すると、行政当局が警察の信号を発する　さもないと　プシュッ　また一つ惑星が宇宙塵と化してあの世行き　さてここで、いつも入念に操作されているノヴァの機構と技法について多少説明しよう　どの惑星のだれ一人として、警官を見るのが好きではないのは十分に承知しているから、ここでついでに強調させてもらえば、ノヴァ警察は仕事が済んだ後にとどまるつもりはまったくない　つまり、ノヴァの危険が取り除かれれば、われわれは次の任務に移行するということだ　われわれは仕事をこなし立ち去る　この部局と、しばしば『警察』と称して徘徊する寄生的無用の長物とのちがいは、代謝的に述べる事が出来る：つまりそれは、モルヒネとアポモルヒネとのちがいなのだ。『アポモルヒネは、モルヒネを塩酸と煮て生産される。これによってモルヒネの化学組成と生理作用が変化する。アポモルヒネは鎮静成分を持たず、中毒性もない。これは代謝調整剤であり、仕事が済めばもはや投与を続ける必要はない。ロンドンのジョン・デント博士は『不安およびその治療法』でこう述べている：『アポモルヒネは後脳に作用し、調整中枢を刺激して代謝を正常化させる』　これはアルコール中毒や麻薬中毒患者の治療に使用され、代謝を正常化してあらゆる中毒性薬物に対する必要性を取り除く。アポモルヒネはヤクと脳との結びつきを切断する。死太陽の毒が煙と消える」

ノヴァ警察はアポモルヒネになぞらえることができる。仕事が済めば継続の必要がなく、居座るつもりもない調整物質。仕事をこなしている人間は、だれしも自分自身を時代送れにするために働いているのだ。これは警察官については特に言えることだ。

さてモルヒネの寄生的な警察を見てみよう。まぜ連中は麻薬問題をでっちあげ、それから、中毒問題に対処すべく恒久的な麻薬取締警察が必要だとのたまう。中毒はアポモルヒネでコントロールすれば、たいしたことの無い健康問題でしかなくなる。麻薬取締警察はこれを知っていて、そのために麻薬中毒者の治療にアポモルヒネが使われるのを見たがらないのだ：

麻薬中毒計画

さて、わたしが麻薬問題を永続化しがっているのかとお尋ねだが、こう申し上げよう：「病気を保護せよ。社会を病気から保護するのは犯罪と見なされるべきだ」と。

アメリカ合州国で予定されている問題は刑務所の使用、旧麻薬取締計画、中毒と犯罪が何年も広範な目くらましの保健機関「治療」 麻薬の使用に先立つ麻薬取締 この事実は特筆に価
48段階 囚人は遅らされ 分離され 要求された

ある形態の中毒が基本 完全な中毒患者でなくては 意資本大蔵銀行の転覆の自発的能力ならなくても 密輸に特化した感染がが交換に取締官が麻薬版チフスのマリーとなってイギリスに麻薬問題を広げる ついに治療法が見えてきたことから 社会問題の治療、しかも社会にとって危険なものとして

中毒癌をわれわれの利益のために維持 市場拡大 検察官を放ってあらゆる穴を調べ
カットアップ麻薬中毒との戦い元検察官マルコム・モンロー著、「西側世界」誌一九五九年十月号より。

これまで見てきたとおり、映像はヤクそのものだ 患者が脚を失ったら、ダメージを受けたのは何だ？ あきらかにかれが持つ、自分自身のイメージ（映像）だ そこでかれは、煮詰めた映像の一発が必要となる 幻覚性ドラッグは「現実」の走査パターンを変えて、われわれに別の「現実」が見えるようにしてくれる 真の「現実」だの本物の「現実」などというものは無い

現実とはしょせん、単なる定常的な走査パターンなのだ われわれが「現実」として受け入れている走査パターンは、この惑星上の支配権力によって押しつけられたもので、この権力はおもに完全コントロールを目指している コントロールを手中に納めておくため、かれらは幻覚剤に分子レベルで有毒な変化を加えてその効力を除き、独占を図った

基本的なノヴァ機構は非常に簡単だ：常にできるだけ多くの解決不可能な争いを創りだし、既存の争いを常に煽ること このためには、生存条件が折り合わない複数の生命形態を、同じ惑星上にぶちこめばよろしい すべての生命形態は、もちろんそれ自体では欠点など何もない、欠点というのは他の生命形態との争いを通じて定義されるものだからだ 要はつまり、これらの生命体は同じ惑星上に置かれるべきではないということだ それぞれの生存条件は、現時点の形態では基本的に相容れないものであり、ノヴァ・ギャングの仕事とはまさに、かれらが現時点の形態にとどまるよう確認し、争いを創っては煽りその惑星の爆発すなわちノヴァ化へと導くことなのだ

どの時点をとっても録音装置が絶対的なニーズを固定して兵器すべての使用をそそのかす　たとえばこんな具合：対立する二つの圧力団体を選ぶ　団体1による、団体2に対するもっとも暴力的で脅迫的なメッセージを録音し、それを団体2の前で再生して聞かせる　それに対する返答を録音して団体1のところに帰る　対立する圧力団体の間を行ったり来たり　このプロセスは「フィードバック」と称される　酒場の口論では、いつもこのプロセスが働いているのが見られる

それを言うならどんな口論でもそうだ　全惑星的なスケールで行なえば、フィードバックの涯では核戦争とノヴァ　こうした争いは、ノヴァ犯罪者たちによって意図的につくりあげられ、煽られる　ノヴァ・ギャングとは：「屠殺屋サミー」「青二オトニー」「アイアン・クロー」「茶色の業師」「ジャッキー・ブルーノート」「石灰ジョン」「押し屋イジー」「ハンバーグ・メアリー」「刺し屋パディー」「識閻下小僧」「青龍」「D夫妻」またの名を「ミスター・ブラッドレー・ミスター・マーチン」またの名を「醜い霊」、ギャングの親玉と思われている　ノヴァ・ギャング　警官としての経験に照らしても、こんな完璧な恐怖と墮落だらけの惑星は見たことがない　われわれはこれらの犯罪者を逮捕して生物学局に引き渡し、しかるべき変更を加えてもらうつもりだ

さてここでみなさんは、この混乱を解決し、関係生命体のどれか一つにでも満足の行くようにできるのか、とお尋ねになるでしょうが、わたしの答えはこうだ　諸君ら地球の事件は生物学法廷で処理されねばならない　確かに現時点では、非常に惨めな状態であると言わざるをえないが

立ち上げたと思ったら即座に腐敗するから、連中はサイコロ遊びみたいに、あちこち違った場所で召集し、絶えず己れのばかげた生きざまを愚鈍に美化したがる生命どもの狂乱した暴走にふっとばされている　（そいつらほとんどの生きざまなんて、まるで使えないんだが）そいつらは判事たちを金星の性行為に蕩らしこもうとしたり、裁判所の役人に薬を盛ったり、傍聴席全体をノヴァの脅しで脅迫したりする　警官としての経験に照らしても、示された変更こんな完璧におびえる惑星は見たことがない　報われない仕事なんですな、われわれがこれをやるのも、どこかよその場所で、もっとひどい状況下で同じことをやる羽目にならずに済むためなんです

ノヴァ・ギャングの成功は、罰を受けずに活動するための惑星封鎖にかかっていた　この封鎖は土星から指揮されたパルチザンの活動で破られ、ノヴァ・ギャングの敷いた言葉と映像のコントロール・ラインは切断された　そこでわれわれはエージェントを送り込み、常にパルチザンたちと密に接触しつつ活動を始めた　現地人材の選択がもっとも難しい問題だった　正直言って、既存の警察機関は救い難いほど腐敗していることがわかった　ノヴァ・ギャングたちがその点は十分に面倒を見たわけだ　逆説的だが、われわれの最高のエージェントの中には、この惑星で犯罪者と呼ばれる階級から採用された者もいる　多くの場合、われわれは警察の仕事の経験がない者を使わなければならなかった　もちろん負傷者や不祥事も起きた　覆面捜査官はきわめて呪わしい残虐行為を目にしながら、手をこまねいて見ているしかないのだ　ときにはそれが何年も続く　確定的な逮捕に到るまで　だから青二才の捜査官は、やっと逮捕に踏み込むと、たまに

自制心を失ってしまう この状態は「逮捕熱」として知られ、作戦全体を台無しにすることもあ
る ごく最近の例では、タンジールの捜査官が「逮捕熱」の発作に苦しみ、ビュー・スクリーン
に映った人間を片端から連行してしまったのだが、その中にはわれわれの覆面捜査官たちもいてね
かれは結局別地区の事務作業にまわされたよ

われわれの逮捕のやりかたを説明しよう ノヴァ犯罪者は三次元の有機生命体ではない
(とはいえ、これから見るように、なんらかの生命体であるのは確実なのだが) しかしかれらは、
活動するのに三次元の人間エージェントを必要とする 犯罪者たる操縦者が人間エージェントと
交差接触する点は、「座標点」と呼ばれる そして人間宿主から次の宿主へと持ち越されて、操
縦者の正体をつきとめるのに役立つものといえば、これは習慣だ：口癖、悪徳、食べ物の嗜好
(ハンバーグ・メアリーは、ピーナツバターへの執着から割り出すことができた) 身振り、特殊な
微笑、特別な目つき、つまりは操縦者のスタイル、ということだ チェーン・スモーカーは常に
チェーン・スモーカーに憑いて活動し、ヤク中はヤク中に憑く さて一人の操縦者は千人もの人
間エージェントを通じて活動できるが、しかしその場合も「座標点」はあるライン上になければな
らない ある者はヤク・ラインに沿って、地球上の中毒患者どもを通じて動き、またある者は特
定の性行為のラインを通じて動く等々 われわれが確定的な逮捕を行なえるのは、操縦者を手持
ちのあらゆる座標点から締め出して、宿主という仮面から追い出せた時だけ さもないと、犯
罪者は別の座標点に逃げるだけ

最初の座標点はロンドンで拾った。

フェードアウト、ロンドンのアールズ・コート近くのボロホテルへ。われわれのエージェントの
一人が作家に扮装。かれは、『裸のランチ』というポルノと称される小説を書いたが、その中でオ
ルガズム死のからくりが説明されている。それが餌だった。そして連中は即座に喰いついてきた。
ドアにすばやいノックがして、そいつがそこにいた。青二才少年/少女が金星の下水デルタから。
鏡なしの草の地からの、無色の吸血生命体。エージェントは軽い熱で身震いした。「逮捕熱」だ。
青二才小僧は、この感情を自分の個人的魅力への賞賛と勘違いして、得意になって室内をうろつ
く。この生命体は、ミンラウドの昆虫脳に指導されていなければ安全だ。その晩、エージェントは
報告を送付した：

「操縦者は女 たぶんイタリア人 フロレンス郊外で邸宅を選ぶ それと同地域で活動し
ているブローカー パトロールを集中せよ 現地パルチザンと接触せよ 金星産兵器の登場
を覚悟すること 」

続く数ヵ月で、われわれはさらに多くの座標点を暴いていった。青二才小僧には二十四時間尾行
をつけ、電話は発信着信ともに盗聴した。「ブローカーの片割れ」はタンジールで補足した。

ブローカーとは犯罪仕事を手配する人物のことだ：

「あの作家を捕まえる あの科学者を あのアーティストを あいつは近すぎる 賄賂

詐欺 脅し あいつの座標点を乗っ取れ 」

そしてブローカーは仕事をやるやつを見つける、たとえば：「『押し屋イジー』を呼んでこい、こいつは窓から突き落とす仕事だ 『青二オトニー』を呼べ、あいつなら甘い詐欺に引っ掛かる 最後の手段で『屠殺屋サミー』を呼んで、オープンに火をつける こいつは特殊ケースだ 」

ブローカーはみんな三次元地下コンタクトを持っていて、尾行をブロックしたり活動を隠したりするのにノヴァ警備員を使う。しかしタンジールで片割れを見つけたとき、われわれは両者の間でやりとりされる電話を盗聴できた。

この時点で、われわれはノヴァ・ギャングの造反者という本物の突破口を手に入れた。天王ウィリー、重金属小僧だ。いまやかつての同業者たちには「密告屋ウィリー」と呼ばれている。ウィリーは長いこと「信用できない」というレッテルを貼られ、「オープンでの完全廃棄」用にマークされていた。しかし、自分用にアポモルヒネを入手し、そして脱走してわれわれのタンジールのエージェントに接触した。フェードアウト。

天王ウィリー

天王ウィリーこと重金属小僧。別名密告ウィリー。こいつがサツに入れ知恵しやがった。半透明の頭蓋骨に埋め込まれたアンテナから、さえずるような超音波の脅しが聞こえてくるにつれ、やつの金属顔がゆっくりと動いて微笑となった。

「オープンで死刑だ」

「ムカデ死刑だ」

この死のあいさつに捕らえられて、ノヴァ警備員に取り囲まれつつも、やつは五分五分以上の脱走のチャンスを確保していた。歴史のガソリン裂け目の電気技師。やつの脳は白熱爆撃で焼き尽くされ。宇宙に残された希望はただ一つ：D計画。

かれは警備複合体からさほど離れていたわけではないが、すでにことばのくびきを解き放ち、地球上の粉々の男勢力に警鐘を打ちならした：

これは懺滅戦だ。地球上のからだや精神スクリーンを通し、細胞対細胞で戦え。オルガズム薬で腐れた魂、オープンで爛れる肉、地球の囚人ども出てこい。スタジオ急襲

D計画は全部さらけだすことだ。そこら中のイヌにタレこめ。生命時間運命の満載輪を見せてやれ。現実スタジオ急襲。宇宙を撮りもどせ。地球上の通りをクンクン嗅ぎまわるやつの電気パトロールから報告が入るにつれて、計画は修正され立て直された。

「一帯は地雷だらけ 警備員だらけ 抜け出しきれない 」

「全面兵器を発注 沈黙ウィルスを放て 」

「写真がおちる　ことばがおちる　灰室内突破　全国家のバルチザンを使え　全砲塔撃て　」

現実フィルムは高圧下の隔壁みたいによじれてゆがみ、圧力ゲージはどんどん上昇。針はほとんど NOVA 寸前。あとわずか。惑星戦争の焼けた金属臭が漂うむきだしの白昼街路は、敵の対空砲火で耳をつんざくガラス嵐に襲われた。ヤツは鏡通りと影だまりを下だりつつ光と影の間に目立たぬまま消散した。そう、ヤツはサツにタレこんだ。密告ウィリーというのが通り名だがほかにもあって、宇宙のシンジケートが遥かな殺しの指でヤツを求めて触れまわってる。ヤツは「ここで作ってる本物のイギリス式紅茶」を一杯求めて立ち寄って、やせた目立たぬ男が厳然たる権威を持ってかれのテーブルにすわった。

「ノヴァ警察だ。ああ、昔のノヴァ逮捕状は破棄できると思う。われわれに協力したまえ。ほしいのは名前と座標点だ。きみの生物学的移送の申請は、しかるべき手続きを経なくてはならないし、われわれの部局ではどうにもならん。さて、よろしければきみの部屋を見せてもらおうか」。連中はヤツの写真や書類を、春風のように軽く冷たい指でめくった。調整官の隠密警察、平静で目立たず厳然たる威厳。ウィリーは前にかれらに協力したことがあった。他にも覆面捜査官が、自分と同じくらい危険な条件下で働いているのを知っていた。みんな献身的な連中で、ノヴァ・ギャングを逮捕するためなら、自分も他の捜査官たちも犠牲にするような連中だ：

「屠殺屋サミー」「青二オトニー」「アイアン・クロー」「茶色の業師」「ジャッキー・ブルーノート」「石灰ジョン」「押し屋イジー」「ハンバーグ・メアリー」「識闕下小僧」「緑のタコ」、そして「密告ウィリー」、こいつは最後っ屁でサツに入れ知恵しやがった。そしてヤツら、金属激怒の分裂閃光で天王星を粉々にした。

サルガッソー・カフェの横を通りしな、ミンラウドの黒昆虫攻撃がかれの活力中枢を刺した。レズビアンのエージェント二人が移植したペニス肉のツルツル顔で、すわって雪花石膏ストローで脊椎液をすすっていた。かれは沈黙スクリーンを吐き出し、カフェを灰色の霧が漂った。おそろべき沈黙ウィルス。言語パターンを覆い包む。ミンラウドの昆虫人間たちの、腹部呼吸孔を止める。

灰色の煙が漂っ　止める灰　歪　切　絡　ヤツらが　呼吸す　媒質　言語
切　歪　パターン　言語　切　昆虫　絡　切　歪　言語　ンを覆い　言語
切　部呼吸　黙ス　歪　腹部　切　絡　吸孔　言語　を止める。

かれは止まらなかったし振り向きもしなかった。一度も。あまりにも長くプロの殺し屋をやってきたので、他にになにも思い出せなかった。ノヴァ条件下での天王星生まれ。思い出すには自由でなくてはならないが、かれは最重点警備誕生宇宙で死刑判決を受けていたのだ。そこでかれは「ことば」を終わらせることばを吐いた

目よ「ことば」から色を取り戻せ

ことば塵がいたるところいまや建物の汚れたスタッコのように。ことば塵が色もなく漂う煙道。

爆発性バイオが進み出る宇宙からネオンへ。

階段の下で天王ウィリーはオープン防御を実施。肉が縮んで恐ろし乾いた熱の下で昆虫の爪が感じられる。その魂無き場所に囚われ、切り離されて。囚人は白熱アリに生きながら喰われ。一瞬のうちにかれは銀の炸裂弾を投げ、燃えるフィルムの硫黄臭いにおいを嗅ぎつつ、警備員の立っていたドアを歩み出た。

「ことばをずらせ 戸口解放 言語ラインを切れ 写真がおちる ことばがおちる
灰室内突破 全国家のパルチザンを使え 全砲塔撃て 」

性懲りもないハリウッド

「ことばがおちる 写真がおちる 灰室内突破 」

気狂いじみた命令と、対抗命令が狂乱タイムマシンから発す

「Cの端末電声 言語ラインをずらせ 『旅行者』振動」

「警視庁長官が生皮剥がれたのはバグダッド、ワシントンDCじゃないったら」

「イギリス首相右翼クーデターで暗殺」

「スイス全外国資産を凍結 」

「脳なしのまぬけめ、キサマ、人民委員を肅正しやがって 」

「言語ラインを切れ ことばをずらせ 」

暴力の電気嵐が地球を吹き荒れ 必死の地位と優位があぶなっかしく維持される 政府が転覆して文明丸ごとと支配階級が恐怖ばかりの街路に 指導者たちは映像光線のスイッチを入れて世界を複製で満たす 対抗命令に洗い流され

「ことばがおちる 写真がおちる ピンボール導く通り 」

バイオレンスのゴングがなんでまた 見せたいもんがある 狂乱マシン 「ミスター・ブラッドレー・ミスター・マーチン」が短命流行りアーティスト軍団とともに突撃して現実売り場を占拠し、荒廃トイレ国務長官を設立 労働者はSOSで支払われ 灰どもが乗り込んできたのはロンドン特定 SOS政府がフェードアウトするすり切れた金属夜明けの掃き出す別の肉体を通じ 対抗命令がゴングの音と共に発せられ DC郊外に警察暴動勢力機械 死童がモールス符号の超音波迫撃でしゃべる 土星の公転軌道にすべりこんで銀河はアンモニアでハイ 早回し映画では時間と空間がシフト

「攻撃地点はピンボール状の機械 全砲塔撃て 」

大気と気候は毎日のように二酸化炭素からアンモニアから純粋酸素へとシフト ミンラウドの乾いた熱から天王星の青冷まで ある日は原住民たちは圧倒的な重量の重たい爬虫類形態をとらざるを得なくなる 次の日は悲しげな失われた惑星の希薄な空気に浮かぶ 地下鉄が勃発する

すべての言語 Dは何百万もの戦場の写真を撮った 「ハリウッドめ、性懲りもなく 想像力皆無で馬鹿丸だしの悲惨な代物 」

完全生き残りの信じ難い形態が圧力の変化で生じ衝突し爆発した 必死の肉が流行りアーティストから 透明文明がでかけて話す

「死、ジョニー、来て乗っ取った」

ブラッドレーとおれは意外な粘液に支持され すえた昨日の街路があぶなっかしく保たれ 必死の地位の小道 現実シフト 完全生き残りが別圧力下で 肉シートが溶けるのは狂乱マシンの広大な廃虚のただなか 「SOS 咳き込む敵の顔 」

「公転サミーと沈黙宇宙の野郎ども 二酸化炭素この機械動かす 全ヒース・ドアが出てくる扇動され 」

かろうじて保たれたあぶなっかしい政府の放送が入ってきた 完全な恐怖がクソ町で 極東ホテル問題担当国務長官ホテルはずれで暗殺 モールス符号の骸交官がカクテル・ラウンジで支持され

「酸素法は広がる青冷の治療にはならない」。ソヴェト連邦曰く：「改変した圧力を糾弾している、まさにその人々たちが沈黙を保っています 」

公転プロセスへの転位 児童基金が持つのは失われた場所の希薄な薄い空気 埴生の宿運動がそれを複製であふれさせるべく

そこで帽子をかぶったまますわって言った：「そんなことは一切するつもりはない 」

醜悪な死をもたらした予想外の粘液がすべりこむ公転軌道は宇宙的嘔吐 （希薄なロウソク明り ほら、ぼくは二酸化炭素だったから） シフトする現実の目覚ましい訳出 ジョンが迷子になったのは五千人の男女 他みんなは灰ヴェール 肉が凍って「良心」なる微粒子は取り返しのつかないほど便所にのめりこみ メキシコの人々の色なしスライド 灰ヴェールの暗号の他の特徴 いわばはだかで読まれるべく どうしてもエロ映画でやんなきゃ 車のシートに裏返しの説明

「脳なしのまぬけめ、キサマ、影の議会を肅正しやがって 」

超音波モールス符号で掃き出すちっちゃな警察 非常会議が街路の入り口で

「全国家のバルチザンに告ぐ ことばをずらせ 言語ラインを切れ 旅行者震動 戸口解放 ことばがおちる 写真がおちる 灰室内突破

」

全砲塔撃て

バルチザンを終結させる スペイン風邸宅の塔を占拠せよ 32番丘陵 緑空輸が庭園になだれこむ レンズゴーグルチラつく高射砲 アンテナ銃刺殺機銃掃射吸血鬼守備隊 ヤツ

らは薄れ行くからだを横に押しやり塔を占拠した 技師がコントロールのつまみをまわす 炭酸のソーダを飲んで、手の中にゲップ ゲップ。

「あのクソ船長のソドミー野郎が 天王星の言う通りだ こいつはいったいどういう装置なんだ ?? 屁ほどの値打ちもありやしねえ 逆転スイッチはどこだ? あったぞ 応答せよ ゲップゲップゲップ」

「目標オルガズム光線設置局 イェーテボリ・フリーランド 座標 8 2 7 6 スタジオを撮れ 委員会調書を撮れ 死童を撮れ 」

超音波セックス写真がビュー・スクリーンにチラつく パイロットは震える電気犬を釣り合わせた アンテナ明り銃が敵の中樞神経をよじれつつ探しては手探り

「フォーカス」

「完了」

「全砲塔撃て 」

掃射 響き 迫撃 傾き 刺し 殺せ ヤツらの石本にエアハンマー ビービービー ノヴァ警備隊に死を 吸血鬼警備隊に死を

パイロットK9はサソリ警備隊を爆撃して灰室内突破を導いた 死童と委員会調書の地 金網で仕切られた広大な灰色の倉庫 区画という区画に流動食で育てられた死童の幼生がびんに詰められ ミンラウドの死童 完全廃棄作戦 死童の胎児が緑の液体の中出ゆっくり身じろぎしてヘソの管から養われる からだが小さくされて何層も何層もの透明シートになり宿主の卵が割れた時そこに完全廃棄のメッセージが書き込まれる ミンラウドの石版からソフト・タイプライターで記入される

「灰室内突破 死童は撮った 委員会調書は撮った 」

「セックス機器とポルノ映画スタジオへと進め 本屋の裏にある カナル街五番、シュピーゲル・ブリッジとの交差点だ 」

「スタジオへと前進中 電気嵐 どうも交信が届かない 」

「パイロットK9、きみはやられている 後退だ 伏せろ」

医師どもはドラム音楽をかれのヘッドホンにフルボリュームで流した 「アボモルヒネをダブルで」 しばしば頭蓋骨縫合は傷を針金で写真水玉模様が映像バンクから 三分間でK9は戦闘に復帰し運転しては黒昆虫高射砲に突入 敵の設備は目もくらむ白い閃光をあげて吹っ飛んだ 戦闘地域はイギリスとアメリカの広大な郊外強制収容所へと拡大 絶叫する吸血鬼警備隊が捕まって刺殺、閃光をどもりつつ

「全世界のパルチザンたち、撃て 傾き 迫撃 衝撃 刺し 掃射 殺せ 」

「パイロットK9、君は切り離された 戻れ 戻れ 戻れ、このくそつたれな便所が丸ごと吹っ飛ぶ前に ただちに基地へ帰投せよ 音楽ビームに乗って基地に戻れ 例の対時砲火

は避ける 全パイロット、パンフルートに乗って基地に戻れ 」

技師は炭酸ソーダを混ぜつつビュー・スクリーンで大混乱を調べていた 損害を見積もるのは不可能だった これまでに提出されたどんな数字も、行き当たりばったりいいかげんに出した数字だ 設備は粉々 人員には大損害 委員会調書は破壊 レジスタンスの電気ウェーブが、地球の精神スクリーンを覆い尽くしている 完全抵抗のメッセージが全世界の短波放送で
これは懺滅戦だ ことばをずらせ 言語線を切れ 旅行者震動 戸口解放 写真がおちる ことばがおちる 灰室内突破 全国家のパルチザンに告ぐ 全砲塔撃て 」

第4章 カニ座星雲

連中は大気の中に、ヤツらが「感情の酸素」と称するものを持っていない。動物生命が息づく媒体は、かの魂のない地には存在しない　白熱青空の下に黄平原　金属都市をコントロールする長老たちはびん詰め頭　回転の早い脳が永遠に保存され　ミンラウドの昆虫人間たちに与えられた唯一の不死　コントロール脳に配線された複雑な官僚機構がすべての動きを左右　それでもゆがんだ地下組織がテレパシーによるデマとカモフラージュで活動している　パルチザンたちは事前に録音をつくっておいて、それを残してコントロールに拾わせ、その数秒間の隙に地下活動を組織する　地下組織は主に、現在のコントロール頭たちを出し抜き、それに取って替わろうとする冒険家たちで構成されている　ミンラウド史上革命は一回だけ　パージはしょっちゅう失墜した頭がオープンで破壊され、もっと回転の早いシャープな頭を取って替われ、もっと完全兵器を生み出す　ミンラウドにおける主要兵器はもちろん熱だ　かれらの都市の中心にはオープンが立ち、コントロール脳に服従しない者が連れてこられて完全廃棄される　虹色に輝く金属製の、円錐状の構造物で、ドロドロの惑星中心から熱をたちのぼらせて真昼に鉛を溶かす　しんちゅう&銅通りがオープンを取り巻く　ここでは鋳掛け屋や鍛冶屋が金属リズムを叩きだす横を囚人や犯罪者が廃棄場へとひたたてられる　オープン衛兵は紅甲殻類人間で目は白熱空のよう

オープンの苦痛と捕らえられた敵との接触を通じ、かれらは時々突然変異を起こして感情を呼吸するに到る　しばしば囚人の脱走を助け、中には囚人といっしょに逃走した者も

(K 9 はアパートに入ると、ミンラウドの窒息感が胸を押し潰して思考を停止させるのを感じた　立ち去ったとき宿主もいっしょに外に出てミンラウドの通りを下だり通りがかったオープンはいまや空っぽで冷たい　冷静でドライなガイドの精神が隣にやってきたのは三番街と十四丁目の角

「わたしはもう戻らなくてはなりません」とガイド　「さもないと一人で出歩くには遠すぎる　ことになりますから」

かれはにっこりして手を差し出し異星の大気にかき消える　)

K 9 はガンガン叩く金属ハンマーの下のしんちゅう&銅通りをオフィスの白と黄金のロープを着て紅衛兵にオープンに連れられてきた　オープン熱が生命源を干上がらせ白熱金属燃料格子がかれを包み込む

「露光二回目　時間三・五」と衛兵

K9はしんちゅう&銅通りに踏み出した 自販機とくすぶるぼた山だらけのスラム地帯は小道が縦横に走り燐光性の金属で深く腐食されている 黒い骨が散らばった広場でかれはサソリ男五人に出会う 透明ピンクの軟骨が中で燃えてる顔 毒針はオープン毒を滴らせ 目は電気憎悪を燃え上がらせて、かれを取り囲もうとすべるように前進してきたが衛兵の姿を見て退く

二人は刺青ボックスとセックス・パーラーの地域へと歩き続けた 音楽状の風が金属ワイヤを通ってひどい乾燥した熱気からの救いをもたらす 街を取り巻く平原からの絶え間ない熱風に吹かれる空中から黒カナブン音楽家たちはこの音楽を切り出す その平原は円錐状の紙のように薄い金属製の家からなる村が点在し、忍耐強いおとなしいカニ人間が惑星上で最も暑い地域に、だれにも邪魔されずに暮らしている

カニ座星雲のコントローラがくすぶる金属のぼた山上で白熱空の下己れの苦痛をすべてコントロール思考へと切り替える 熱とカニ衛兵と脳に守られており脳はいまや広島と長崎からの閃光写真で武装 かれのコントロール下にある脳は鉄と水晶の広大な建築物に収容され、星雲をまると千年先までコントロールする思考パターンをウィルス・スクリーンと重ね合わせ方式のチェスボード上で編み出す

そこでミンラウドの昆虫人間たちは、植物人間のウィルス・パワーと手を結び、惑星地球の占拠に乗り出す 仕掛けは逆光合成 植物人間たちは酸素や、その他相当する動物生命維持物を吸い込む それはいつも人と人の見味わり触り嗅ぎ食べるものとの間の無色膜 そしてあの緑植物ジャンキーどもはゆっくりとわれわれの酸素を使い果たして二酸化炭素でラリってようとする

K9がカフェに入ると植物人間どもの無色臭に取り囲まれるのを感じ食物から味わいと鮮やかさが消え人々がスローモーションでぼやけてきてフェードアウト そしてそのすべてを吸い込む植物ジャンキーがタンクいっぱい かれはピンボール・マシンを通じて逆転コンボをカチッと入れてカフェを立ち去る 通りでは市民どもが超音波人形みたいに大笑い SOS 中毒たちはあたり一帯の静寂を吸い込み今では重金属の青いブロックの上ですわって地球の芯がその重みで不吉にたわむ かれは肩をすくめる。「おれとしても、他人サマのこと言えた義理か？」

SOS 中毒をなおすというのがどういうことか、かれにはわかっていた。溶ける金属の白熱苦悶だ それに二酸化炭素禁断症状の息がつまるパニック

ウィルスはコントローラの三次元座標点として定義される ウィルス穿孔つき透明シートがパンチカードがソフトマシーン上の宿主を通過して交差点を探る ウィルスの攻撃は主に動物生命の感情面に対して向けられる 怒り憎悪恐怖醜さのウィルスがまわりを渦巻き交差点を待ち構え、そしていったん体内に入ると即座に、明瞭に撮られ録られた有害またはいかがわしい行為をその人の名前に作用させ、それがいまやウィルスの一部となってその人の精神スクリーンの前に表象され、ウィルスことばやウィルス映像をもっとまわりにどんどん作り出させると、それはもうあた

り一面を覆ってことばと映像を引き下ろせの透明な雨あられ

ウィルスは穴を溶かして影響を及ぼせるところすべてで何をするのか？ 喰いはじめる そして喰ったものに対してウィルスは何をするのか？ 自分自身の正確な複製を作り出してそれがまた喰い始めてもっと複製をつくってそれらがまた喰い始めて云々と恐怖と憎悪のウィルスパワーが広がりゆっくりと宿主をウィルスの複製で置き換える 肉体空虚化計画 ことばと映像を引き下ろせの広大なサナダ虫が人の精神スクリーンをゆっくりと通り抜けいつも一定スピードである加算機のシリンダー仕掛けみたいなゆっくりとした水圧性背骨軸を使い 人に自分はばかげてると思わせるにはどうすればいいか？ その人がばかげたことを言ったりやったり考えたりした時のことを何度も何度も絶えず見せ続けてやればいい、何回でもソフト計算機のコンボに喰わせてやってもっともっとパンチカードを見つけさせてもっともっとばかげた醜悪和解悲しみ無感動死のイメージを喰わせてやる そのレコーディングは電磁気パターンを残す つまり怒りを引き起こすあらゆる状況は怒りの磁気パターンを残しまわりに怒りことばや怒り映像を連れてまわる あるいは何か醜悪な性行為は、いったんその連想が幼児期に成立してしまえばそのパターンが性欲で磁化されるたびに同じことばと映像が出てくる 等々 対抗手段はとても簡単 これは機械的な戦略であり、機械は向きを変えてやれる テープレコーダで十分録音する そうしたらそのテープを巻き戻して再生するが音は切って、上からほかのことばをランダムにカット・インさせる カットインして重ねて録音した部分ではことばがテープ上からかき消され、その場に新しいことばが取って替わる つまり時間を十分巻き戻して電磁気的事ことばパターンをテープからぬぐい去り別のパターンで置き換えたのだ テープレコーダでの作業が済めば精神テープでも同じ事ができる (これは多少の試行錯誤が必要となる) 古い精神テープはきれいに消去できる ことばが落ちる 写真が落ちる 「先週ウィルソン山パロマ天文台のロバート・クラフトが、爆発する星の謎に関する新たな解答を報告した クラフトがまちがいに発見したのは、爆発する星が重力によって近傍の星に捕らえられているということだった 二つの星は奇妙な共生関係にある 片方は小さい高熱の青い星 (ブラッドレー氏) その相棒は、もっと大きな赤い星 (マーチン氏) この連星はあまりに接近しているため、青い星は絶えず水素の形で燃料を赤い星から吸収し続ける この連星系の運動のため、水素は回転して白熱する 8 の字型を描く 8 の字のそれぞれの円がそれぞれの星を囲む 新たな燃料を得た青い星は点火する」

『ニューズウィーク』一九六二年二月十二日号より

一〇五四年に支那人の観測したカニ座星雲は、超新星または星の爆発によるものだ 地球からほぼ三千光年離れたところに位置する (つまり三千年間窓のところで爪をうずかせるみたいな わかる？) やつらは星をふっとばす前に、できるだけ何光年も離れた地点を選び出しておく それから新しい地点にすべての燃料と点火剤を吸い上げて、それにすぐ続いて自分たち自身を吸い上げてその途上で祝杯を上げる いまのわれわれは、例えば百年前の人々に比べて

あまり時間がないのにお気づきでしょう クリーニング屋に服を出して手紙を一本、アメリカン・エクスプレスで手紙を拾うとそれで一日が過ぎてしまう 連中は逃げ出す際にできるだけくさんの光年をかきあつめてこうと、われわれの時間をピンはねしてやがるんだ カニ座の一件の際の生き残りは、けっしてあらゆる意味でまともな連中ではなかったようだ それにノヴァのポリどもが包囲を急速にせばめている そこで連中、同じ古臭い手口で点火剤と空気と色をありったけ新しい場所に吸い上げ始めて、するとどうなった？ ブシュッ 気がつくと何かが食べ物から味わいをすべて吸い取りセックスから歓びを吸い取り目に見えるものすべてから彩りを吸い取っている？ まさにノヴァへとつながる低圧地帯を作り出しているのだ そこで連中は傷ついた星雲を横切って常にノヴァ包囲網を数光年出し抜く 少なくともこれまでは 地球は張り込まれてた そして連中、まっすぐに抗生物質手錠にはまってくれた すぐにわかることだが、ノヴァを一つ作り出したら次のを作り出すか、最初のに答えるかしかない つまり三千年間窓のところで爪をうずかせる巨大カニみたいにボタ山でくすぶる金属 それとノヴァが増えるにつれてその間の時間も縮まり売り込みの口上にも事欠くようになる そこで連中は原住民たちを賄賂で釣って、脱出手段と不死を約束してやる

「いやホントなんスから、肉体とヤクと点火剤が金庫に山積みで、もう一杯 三千年分の肉体でっせ てなわけで、クソつたれなサルどもなんか見捨てて、祝杯あげつつ旅立とうって寸法でしょ？ これからの生き方はこれっきゃないっスよ 」

それでお利口なコントローラは、まったく毎回懲りもせずこれに引っ掛かるってわけ それで警察側とは言えば こっちの最高の覆面コントローラは、通称田舎者 こいつはペテン返し
の技法を完成した 正直で真面目そうな顔して、利口なコントローラどもはみんな、こいつをカモにしてるつもりでいる 他に考えようがあるまい、やつに抗生手錠をかけられるまでは

かれは言う。「きいたふうな口をきくやつは、後からいくらもでてくるんだ。さ、諸君、店じまいだ 速記者が証言をとってくれる 」

「それでなぜおれがこの惑星をふっ飛ばそうとしたのかって？ 豆はどのどんぶりの下？ 見えたと思ったらもう見えない 空がずれて最後の口上を隠蔽 おれたちといっしょにみんな運び出して、さっさと旅に出ようぜ おれは金属製でしかも放射性の金属だ放射性はある程度までなら吸収できるがラジウム時計が刻々と時を刻む 先に進む時だ 回転出入口は一つだけ

重い惑星 ミンラウド技術者に交換台を操作させ、金星人たちに肉体をつくってショーを上演させ続けて、旅をしよう そしたら炎上する写真でおれたちは旅を続ける ことばは肉体そのものでことばは二つまり人間のからだは二つの有機体を圧縮したもので二のあるところにはことばがありことばは肉体でヤツらがことばに細工を始めた時点でもう勝負は決まってバリケードは破られてノヴァ包囲網が侵入してきた 金星人たちが最初に口を割ったのはまあ当然で、連中がまっ先に危険にさらされてたんだから やつらは水中で送気管をつけて肉体に住んでるんだ

そしてその送気管がことば 続いて技術者どもが吐いて、まあおれが連中を技術にしとくためにあてがった条件を考えれば無理もねえよな 三千年爪をうずかせて、みたいな だからおれはいつもながらひとりぼっち おわかりだろうが、おれはノヴァで生まれひどい苦痛でおれ以外は誰もまともに生まれてこられない 何度も何度も生まれ変わっては傷ついた星雲を横切り ひとりぼっちだがあんたらのいう「寂しい」状態じゃあなかった 寂しさは哺乳類の対の産物だ

「寂しさ」「愛」「友情」その他もろもろ おれは二じゃない おれは唯一無二 しかしこの唯一状態を保つためには、他の生物形態の二性が必要だ ほかの連中がしゃべってくれないと、おれは沈黙できない 別のがーになればおれは二になるそうなたらーが二つあることになっておれはもはや一じゃなくなる いくらでも空間はあるって？ でもおれは空間の中で一なんじゃなくて時間の中で一なんだ 金属時間の中 放射性時間の だからもちろんおれは、あんたらみんなを空間から締め出そうとしたよ これはすなわち時間の終わりだ そして使える宗教概念の創出みたいな特別サービスのために、たまに出所を許可された連中には、いつも金星人衛兵が付き添った 『神秘家』や『聖人』どもはみんなそうだ ただしわが宿敵ハッサン・イ・サッパー一人は別で、こいつはマップポに入れ知恵して空間へと手引きしやがって言い触らすには、みんな一になれて衛兵も不要で片割れも不要でことばも不要だ

さてこんどは大コントローラと取引できたと思ってやがった、この宇宙の小細工小僧どもに一言 『このたかり屋ども！ 腐れマンコども！ イヌどもめが！ テメエらみんな大嫌いだ

それと、てめえらを混ぜてやったり、馬糞以外のまともな報酬をくれてやったりするつもりなんか、ハナっからありゃしなかったぜ 山ザルどもといっしょに吹っ飛ばなかったのは、田舎者のおかげなんだからヤツに感謝しろよ これでよくわかったかよ、それとももっとよくわからせてやろうか？ てめえらはこのどん詰まりをふっ飛ばすためにこのおれが発明した、たかり屋の腐れマンコのイヌどもで、ハナっからいっしょに吹っ飛んでもらうことになってたんだよ 』」

まずい動き

与えられる情報は風が歩くボタ山が空まで 固影が消した昼熱白フィルム 小道の奥深くで爆発して金属オズをいたぶる あたり一面死手 燐光放つ骨 コールドスプリング後産の病院 切断のうずき パン切りナイフ心臓で支払うタクシー少年 知ってたらどこなりと探したのに わたし自身よくない おととい・おいで 病風アイデンティティフェードアウト 煙がすべて ぼくらが接触するのは暗い反抗的ドア 毛なし頭蓋骨 塗り付け肉体 五回のほこりでわれわれがみんな作った ゆっくりした金属炎に焼き尽くされ ガソリン臭が包む最後の電気技師 目を覚ますと暗い情報が死者から 委員会報告がマドリードを待つ con su medicina (クスリで) 逮捕された動き ソフト乞食「ウィリアム」が暗い小道で かれはそこに立つ一九一〇年わらのことばが落ちる 消えた明かりと水 いずれにしてもまずい動

き それよりまし？ いっちゃった話せる よくない No bueno 白閃光めった切り銀目
肉片が空に 切断の爆発性うずき 乞食くねった十字架と不毛暗い小道 それだけ
No mas やつらの最後の終末 傷ついた星雲が叩く窓辺 自分をせきたて おととい・
おいで そしてある晴れた話してあげる よくない No bueno

元気を出してくださいわれわれの宴会が天に届けと 白フィルムはマーチン氏製 腐食する
燐光骨が運ぶガソリンの夢 手が落ちる 白閃光めった切り「ブラッドレー氏マーチン氏」
物質警察、委員会室死臭、暗い通りの時がやってきた それだけ No mas 傷ついた星雲
あいつに言っといただけれどきみが援助され 死に絶え下る古びた通りが回旋するわれらが
いつになく存命中の詩人を抜け この緑の地でドルはよじれて最後のタバコに火をつける 最
期のことばが返事

背後の太陽の間が長時間 空っぽの空腹が傷ついた空を横切って 冷たいきみの脳がゆっく
りかき消え だから言ったのはわれらがいつになく存命中の詩人によって死 最期のことばが
返事するあなたの召喚 日記を進めるにあたって視界を拒否してはならない マーチン氏コル
ソ氏ペイルズ氏パロウズ氏がいま終わった これらわれらが役者たちだ、ウィリアム 内側
の剃刀です、閣下 ハンドルを引け あの病院は宙に融けた 進んで相続せよ取るに足らぬ
死者を 片が落ちるのはかれの影だった

金属チェスが決定するガソリン炎と煙が不動の空に ニスピードに染みつけ DSL はぼく
のとなりの「ここ」を歩く毛なし頭骸骨からの延長リード上を 肉を塗り付けたレコーダがゆっ
くりした金属炎に焼き尽くされ 防犬部屋はわれらの「酸素」線にとって重要 グループごと
に独立のレコーダのレイアウト 「やつらにガソリンをぶっかけな」侵略する生命形態を決定：
昆虫絶叫 目覚めるとおれは「侵略用にマーク」録音が幻影「残虐行為」が再生している間ずつ
とまわり続ける一方でエドゥアルドの「腐敗」スピードとボリュームの変種を捨てるのを待っている
マドリッド テープレコーダが蓄える怒張肉体 われわれのマイクは計画スピーカがそこに
立ってる一九一〇年わらことば いずれにしてもまずい動きで生物階段行き そのすべてだ
ぜ、言っとくが よくない No bueno 全部だろうと一部だろうと 次の状態くず山を歩いて
形態 A へ 形態 A は音を導き熱を誘導 白閃光がめった切りにされた音楽の形に 生命
形態 A は以下のように異星人の焦点 こわれたパイプが「酸素」を拒否 形態 A 寄生的風ア
イデンティティ・フェードアウト中 「ことばが落ちる 写真が落ちる」肉を塗り付けた対抗
指令 最後の電気技師によって定められ 異星人粘液せき言語が学ばれたのはすべての委員会
報告に音形成を待たせておくため 異星人粘液怒張コード列車がマドリッド 「エロ写真 8」
に変換 簡単な繰り返し 全体はだめな映画の見本として使える 叫ぶよりまし：「よくな
い No bueno」

「レコーダは絶対的ニーズの性質を変える：占拠せよ 「ここ」 どんな残虐行為もかれに

答える そのままか逆回し カラン ごめん 惑星このあたりのどこかでぶらついて
 一連の選択 肉プロット con su medicina によれば次の状態 止まれ 見よ 形態 A
 は音を導き熱 さあ今度は何だ？ やりたければ最後のスイッチ やりたければ生命形態 B
 上での死はマシンを切ること 血液形態はスイッチに定められ 同じニーズ 同じステップ
 いかなる「感情」でも生き残らない 介入？ 言うておくが無駄だ 最終製品のことは
 知ってるか？ 完全ワイヤを相互交換？ そんなの死んでも無理 われわれは配列の一部に
 なれますか？ アメリカ人墓地で 地図を見分けるのが難しく言語レベルで入ってきた これ
 かねはマドリードに行った？ そしてそう si 学ぶ？ 糾弾された者は変更到着の彼方 それ
 で？ それで粘液機械が動くのはアメリカ人ごしに喰わせてやるから 聞こえるか？ 鐘と
 並行して 何時間遅れ みんな行ってしまった おまえが考え抜いたっての？ 生命埋葬
 テープが無音の歴史をまるごと入れ替え？ この「きみ」「やつら」「なんであれ」は学ぶの？ 糾
 弾された者は変更された形成の彼方 よくない 機械が動くのは「役立たず」を喰わせてやる
 血がグレー・ヴェールにこぼれ 並行噴出 何人がエロ写真を見てる？ ロンドン宇
 宙段階前薄い顔かもしれない 変化 絶対 無秩序が与えてくれる行動のモデル 絶叫？
 笑い？」 声が薄れて支持にかわる：

「明らかに全防衛はテープレコーダ二台による変化の実験でなくては」

またもや決してぼくのものじゃなかった窓辺で 反射したことばをどこかの男の子が落書き
 あらゆる待ち間のなかで最長 五年 切符は空中で爆発 だって知らないから わたし
 は人間の夢をわたしは知らない 決してぼくのものじゃなかった 待ち間 ドアにはさまれ
 爆発的芳香 光と影の愛 傷ついた星雲を横切って生き延びた少数 愛？ 五年間お
 れは氷の中でつぶやきながら育った 死んだ太陽がさまよう夢の肉体にたどりつく 埋められ
 た線路だ、ブラッドレー氏、嘘はそれほどに完全だった コース もちろん 状況はいまや
 スペイン式 錬金術的というわけでした 彼女のにじむ心に監禁 海底で大荒廃 アトラ
 ンティスが風沿いに緑ネオンで にじみはただの無色の質問が漂い下る それについては自明
 その目的？ それはもっと難しい窓辺を叩く ウィルスの性質の一つ これまた自明
 犬のなかでぶつぶつと一般化 シラミとわれわれは交差接触 死太陽の毒がほかのどこ
 も あの老カニ男はシラミについて何と言った？「マーチン氏」に寄生虫 わが氷わが完璧な
 氷、決して日和らない さあわが目を慎重にスペインせよ そしてわたしは立った若い男の形
 になった 鼓動がユニゾンで わたしは決して休息の地を知らなかった ドアにはさまれた
 風手 しがみつく Chocada 窓辺を叩く

Chocada 再び 犬のなかでぶつぶつと 五年 死んだ太陽の毒が彼女と だれと？
 知らんなあ ぐねった十字架の一件を見よ それであんたの名前は？ ベルグ？ ベ

ルグ？ ブラッドリー？ 「マーチンさまです、はい」災厄雪 ピシッ ズルッ 麻痺
ただのまぐれで潮にのってきたスウェーデンの川イェーテボリ

街の死童

生物エージェント K9 はお勘定を頼んだときに死童たちの超音波模擬弾を拾った 「お勘定
勘定 勘定 ギャルソン ギャルソン ギャルソン」 アメリカ人旅行者アクセント
が N 乗で かれはコーヒーをもう一杯注文して頼んでカフェをモニターした やつらはテー
ブル丸ごと占領してことばを真似して超音波スピードで送り返している 客が何人が興奮のあ
まり床に卒倒 この有毒童どもは新聞丸ごとをもの十秒で吐き出せ、しかも人の発言を真似し
て繰り返して侮辱をほのめかす これが死童たちの侵入の仕掛けだ：超音波声帯摸写と再生で、
人がそれを自分自身の声だと思い込むようにすること (あなたは声を持っていますか?) かれ
らは右脳を侵略するがそれは発話中枢でありやつらは右にいる 右(ライト)にいる 汝に書
く(ライト) 「正しい(ライト)」 「おれは右(ライト)にいる 正しい(ライト)」
おれが正しいのはわかってるだろう、おれがおまえの右脳にいて『おれは正しい』というのが聞
こえる限りは「 白セックス童たちは性感孔を軟化 そこで金星産ヌトヌト腐敗症が世界中を
駆け巡る

エージェント K9 は生物警察とともに童病を押えるべく任命されていたが、その方法は童たちを
中央コントロールステーションから切り離すことだった。中央コントロールステーションはミンラ
ウドの昆虫脳で水晶シリンダーに封じ込められそこから冷たい電線が並んだ計算機につながってそ
れが街の死童に指令を出している 脳はカニ衛兵に取り囲まれ熱力学的苦痛&エネルギー銀行か
らチャージを与えられている カニ衛兵たちを直接攻撃することはできない、なぜならかれらは
攻撃によって直接チャージを得るからだ K9 はカニ衛兵たちとの戦闘を経験していて、連中が
こっちの神経中枢に爪を食い込ませたらどうなるかよくわかっていた

K9 はカフェを離れて街の光景を調べたどうしてもだれかがへまをやらかしたという印象をぬぐい
きれなかった 死童は多くの場合人間宿主から切り離されてもなお中央コントロールからチャ
ージを与えられ、目に入る者すべてのことばや身振りを模倣してわめいてまわる 白セックス童
たちは嫌々ながらあらゆる変装を脱ぎ捨て、「やあこんちわ」をなにも言わない連中みんなにくれ
て、性感孔を開けてそこを語童が即座に攻撃し、ものの数秒のうちに不幸な旅行者はばらばらに引
き裂かれてそれを童たちがお互いの口から奪い合ってむさぼりかんだかい銀の叫びをあげる そ
れどころかこの生命形態の有害行動は市民の受忍限度を越えて責め立てたので、みんな入念なお手
製装置を持ち歩いて語童たちを選び出し、特殊なビニールカバーで性童たちの性感酸に対抗したの
だった

ためらわずに K9 は命令を発した。「沈黙ウィルスを放て 一帯を包め」 そして沈黙病が

世界を光速で覆う　その結果、完全にことばだけでできていた市民は即座にサルってしまい、通りでわめきながら通行人を攻撃すると、多くの場合は通行人のほうも結果として沈黙病に冒されてサルった　この「耐え難い」と表現された状況に対抗すべく、政治指導者は厳格で高貴な映像を管制塔から放射したので、一部はそれを占拠して数日から一週間くらいサル形態にならずに済んだ

例外なく指導者たちは生まれ変わったサルたちの重みで憔悴し、有権者たちの退行で取り乱し、あるいは本人がテレビでサル化してしまった　そこで自称生き残りたちは残った童たちの絶え間ない恐怖のなかで暮らしていたが、童たちも宿主に餓えていてますます凶暴になっていた

街で隣の人間がいつ何時マンドリルになって無垢の狂犬病でこちらののどぶえにくらいつくかもしれないという恐怖　K9は肩をすくめて技術者たちに呼び出しをかけた　「敵の戦略の誤りはいまや明白だ　これは機械的な戦略であり、機械は向きを変えてやれる　ソフト・タイプライターで連結をかかれた機械は、人の命令を繰り返すことしかできない、なにも創り出すことができないのだから　作戦はきわめて技術的だ　モニタージュ写真を見てご覧　柔軟な写真言語でなんらかの主張を行なう　あるモニタージュ写真による主張をXとしよう　Xのさまざまな側面を定義づけるためにXことばX色X臭X映像を使うことができる　さてXを計算機に入れてやるとXはスキャンされて出てくるのは関連した色、並置、影響に満ちた映像等々、われわれは要素を削除したり加えたりしてXを薄めたり強めたりできるし、強めたい部分を機械に戻してやることでさらに強めてやれる　技術者は連想ブロックで考え書くように教わり、そのブロックを連想や並置の法則に従って操作できるようになる　連想と条件づけの基本法則はアメリカの大学生でさえ知っている：どんな物体、感情、匂い、ことば、映像は、他の物体、感情、匂い、ことば、映像と並置されればそれと関連づけられてしまう　われわれの技術者は、新聞や雑誌をその見かけの内容ではなく並置による主張を求めて読むように訓練されるわれわれはこれらの主張を並置方式で表現する　この方式はもちろん世界の全人間をコントロールしているのだ　もし千年後に使われるはずの並置方式を書けば、その次代の人々が何を考え、見、感じ、聞くかを予想するのはたやすい　しかしそれはもちろん技術的な原理の話であって、実際の機械となると　どれもみんな根本的な問題を抱えていて絶えず補修やチェックや変更を行なわなければならない、計算機のブロックが丸ごと次から次へとページされて切り離されて　早いわれわれの意識波と長いカウント

そしてこの機会に、わが忍び寄る反対者たちからの批判にお答えしておこう　わたしが苦痛と快樂の識闘を決定するための実験に参加したとか、それをたきつけたとかいうのは嘘だ　わたしはこの惑星をコントロールする苦痛と快樂の連想方式を開発するために、そうした実験の概要報告を使用した　わたしは固定した脳に提供された材料に基づいて仕事をする物理学者以上の責任は負えない　わたしは人間の神経系の物理学の一つを構築した、より正確には人間の神経系がわたしの構築した物理学を規定していると言おうか　もちろんまったくちがった原理に基づいて別の体系を構築することだってできる　苦痛は定量的な因子だ　快樂もそうだ　わたしは勇気

の限界を記した赤狩り裁判や強制収容所や広島や長崎からの報告を読んだ　ヘロイン中毒者における禁断症状は、コントロールされた条件下での実験に最適だ　苦痛は中毒の度合と禁断症状の段階によって計量可能で、細胞を包む因子によって計量的に解放することもできる　苦痛と快楽の限界がはっきりして並置方式が確立すれば、千年後の人々が何を考えるかを予想するのはさほど難しくはない、千年後だろうと何年だろうと方式が作動し続けるかぎりいくらでも予測できる

許可さえ降りれば他の方式に切り替えることもできる　だれも定性数学の構築をまじめに考えたことはない　わたしの方式はそれを見込んだ　さてここに計算機がある　もちろん定性データも処理できる　たとえば色とか　機会に青い写真を喰わせてやるとそれが青セクションに運ばれて何百何千という青い写真が吐き出される一方で機会はオゾンの青い匂いで青を奏であらゆる詩人による青いことばが紙テープに出てくる　あるいは千の小説を喰わせて最後のページだけをスキャンする　これもまたある性質を持つとは思わないかね？　終わり性とも言うおうか？」

「青二オトニーが鳴いておれはX星雲に高飛び　」

「ギャングみんなが鳴いた　これで確定的な逮捕に踏み込める　逮捕機械を作動させる全エージェントと連想を並置方式でカバーせよ　地球の座標点を通じてD夫妻の走査パターンを流せ　やつらはノヴァ犯罪者のトップだ　地球の精神スクリーンが座標点をカバーしDを手から口から霜焼けからブロック　銀の抗生手錠がDウィルス・フィルターにはめられ　カギッ

ガチャリ　逮捕が済みました　生物警察エージェントからは復讐や義憤などのすべての概念が免除されねばならないかはお理解いただけるでしょう　われわれは古臭い不正義ショーの上演を続けさせるためにここにいるんじゃない、そいつらをノヴァ以前に食い止めるためにここにいます　」

「ノヴァ　ノヴァ　ノヴァ　」と死童たちが金切り声　「善良で親切なDさんを逮捕しちゃうって？　あの人はぼくの盲腸手術のお金を払ってくれたのに　」

「もう頭にきた　沈黙ウィルスを放て　　帯を包め　」

「ことばのかわりに連想ブロックで考えることで、コントローラは連想ラインにそって光速でデータを処理できるようになる　　ある種の変更はもちろん重要だがね　」

微小粒子

一九六一年十二月十七日　過去時間　敵の戦略上の誤りはいまや集められることになっている　わたしは全然近くさえなくて機械は向きを変えられる　このイメージと連想の若者たちはいまや通りへの入り口で言語間の旗を抱え

時間：前夜別の炎上写真を形成しようとする冒険家　傷害本部集約が広島からの報告で　新しい幻覚剤の一部と長崎　ジメチルトリプタミンの軽い過剰接種　南米産麻薬性植物が完全廃

棄をもたらしあなたがたの歳はオープン 脳にコントローラが住まう何百万もの人々の脳叫が
白熱青空から叫びかえす いつでもノヴァを引き起こせるいまや広島と長崎からのタワー砲撃を
備えてるから それほどの苦痛でかれには一つしかない回転木戸

官僚主義がすべてにチューン・イン 驚異的に歪んだ条件がテレパシーの見当違いの宇宙論を
生み出す 精神スクリーン映画が重なり合って事前に録音を作っておいて思考が録音される前に
出発 われわれの一番精密なデータは国連（国際麻薬取締連合）のもの かれの計画はアメリ
カのドラッグ中毒が非常線をすりぬけ ヘロインの苦痛疾患はしばしば窓に引き起こすのは相容
れない目的を迫る細胞を包む薬 われわれの一番精密なデータは沈黙人間たちについて
計画はほとんど超人間的ドラッグが燃えるかれの並置を通じて かれはいまやすっぱだかで長崎
が定義づけるかれに対する限界 映写機は肉体が溶解する前にその簡素な軍団を移動できる

落ち着きと勇気は研究室では困難 病気を生み出す実験がこの惑星を掌握 抜ける通りは長
崎が定義づける勇気の限界 われわれは愛国主義と衝突を中毒の度合として見る インター
ポールが武装して自分たちのでっちあげを、占拠された側から守ろうとするのを予測するのはさほ
ど難しくはない 五百に達するかもしれないイデオロギー本部が武装した委員会の委員たちは人
工的に合成されて 幻覚性ドラッグのびん三次元座標点 新しい幻覚剤が影響される動物生命
に向けられる 醜さ恐怖憎悪の軽い過剰接種 オーヴンは映像塵がまわりで渦巻く完全廃棄

なにか醜い有毒の忌まわしい行ないが鮮明に記録されいまや一部と「写真が落ちる ことばが
落ちる」 提示され再提示されて全砲塔撃て 異星ウィルスは何百万も溶かせる 喰い始め
る それ自身の白熱複製を呼び返す そこで恐怖種が置き換えられる宿主がいまや武装したサ
ナダ虫が引き降ろすことばと映像と長崎 傷害本部 哺乳類の対構造 広島人間たち ま
たは吐き気の出そうな係官どもが残りを作り出した

恐怖司法長官の昨日の発表によります発見では縁故採用の叫びは「新しい鉱物損害を大統領に形
成する」かもしれない 狡猾な形態の高密シリカが微小粒子として政治にまぎれこんだリン
ン・B・ジョンソン、黒人シークレット・サービス係官の妻 別の鉱物アメリカ人が形成する隕
石の衝突 「それに素晴らしい語り手になるだろう」とかれ

これらのテーブルには文字通り外交官たちがひしめく 落ち着き祝福された薔薇の園の代わり
としてはひどいものだが静かな河を臨むレストランの処理のためには理想的 警察ジュースと法
律は広範な配給の行列での公開ベッティングに対する何の効果もないとソヴェト連邦は昨日語る

反米は即座にケネディの固執する瀕死の位置を非難：

「ワシントンのこの種のヴェネズエラでの無責任なプロパガンダによるデモへの対処ノウハウ
カラカスの外でわたしが非常に残念に思うのはソヴェト連邦がわれわれをひきずり戻してちょ
うどわれわれが石撃ちにあったの行政の二百億ドルの真摯なことばに違反 」

かれが懇願するにつれて個人的なものが蹴散らす蜂起

敵の戦略上の誤りは交換台の向きを変える　ことばは二それは有毒人間間言語が録音され
そして二のあるところ臭気のことばと国粹主義のことばあり　やつらはネットに細工を始めた
傷害本部バリケードが破られる　「全国家のパルチザンに告ぐ　カニことばが落ちる
ウィルス写真が落ちる　灰室内突破　」

第5章 鏡なしに草の地から

士官候補生は悪臭放つ沼地がクモの巣に覆われたジャングルから木造の滑走路や柵のある場所の小割り板の垣根を通過して踏み出した。禁断のドアを入ったところでだれかが言った：

「何の用だ？」

士官候補生は目を落として言った。「別に悪気はなかったんです」

かれは木造通路を通過してセラック塗の茶色いカエデ製学校机の前になると、女がすわっている。

「どこに行ってたんです？」

「遠距離作戦会議に出席していました。学校に戻る途中で」

「作戦会議ですって？ どこで？」

「遠距離作戦会議です。あそこで」

「嘘おっしゃい。遠距離作戦会議はあっちの方向でやってるんですからね」

かれは自分の顔を基本的な苦痛に変えた。自分の顔がなにも示さぬようにしると教わっていたからだ。

「会議に出てたんです」

「強制労働六時間分の罰です。衛兵」

そして棍棒があばらや腎臓や首の横に叩きつけられ股間と腹を打ち据え、どんなに与えられた仕事をしようとさぼろうとその調子で平静を失うのは死に値した。それから K9 世界貿易学校につれ戻され歩くのが早かろうと遅かろうと早いと遅いの間だらうと骨も砕く殴打がかれを襲った

そして士官候補生たちは苦痛と恐怖の基本方式を学んだ。規則やスタッフは何の規則性もなく変わった。士官候補生は非常に重い剥奪の制裁や、果てしない不快、騒音、退屈を伴う行動を勤められるか強制され、何の補償も得られず、違反した候補生は次々に学校から学校へとたらいまわしにされ、自分たちが目覚ましい成績を挙げているのか流し出されて廃棄処分にされているのかもわからなかった

リーが目覚めると背骨が震え、別のタバコの煙の匂いが部屋の中。かれは色嵐に洗われた通りを歩いた脊椎液体スローモーションで大理石の道と銅製の魚市にやってきた。末端下水の運河に沿って。青二オ少年少女がピンク肉体の庭を手入れ。両棲類吸血生物はほかの肉体に息づく

二重セックス悲しくてまるで沼地デルタの浸水地が変わらぬ空まで。肉体が流通するのは淀んで腐って緑水みたいに。紫の菌状エラで。やつら肉体に息づく。腐食製緑酵素がからだを溶

かす中にゆっくりと入りこみ 食べるエラは宿主の呼吸リズムに調整され 紫のエラを通じて 食べては排泄しゆっくりと沈澱する下水の雲のなかを動く やつらは片割れとして知られるペアをなす 透明なシャム双生児が一つのからだを出入り 語るのはゆっくりした肉移植やウィルス・パターンで性器下水吐息を交換してお互いに出し入れするゆっくりした紫エラは半覚醒で残酷な白痴笑いを浮かべオルガズム・ドラッグの末期中毒患者たちを黒い石に刻まれた標識の下で喰う：

懇願の性質必要？ 欠乏。欲求？ 必要。生？ 死。

「これは警告だ」と王子はゆっくりブロンズの笑いを浮かべる 「これ以上はできない ここでは肉体が流通するのは服が淀んだ貿易肉のスペインと四十二丁目交差点 脚のパターンを走査 放浪球団のパンツ臭 」

リーが目覚めると緑の呼吸リズム エラがゆっくりそよがせる別のタバコの煙を別のエラは宿主に色嵐であわせ それはパリでは片割れとして知られ甘く腐ってそれは出入りし脊椎液で語り性器下水を交換するゆっくりした紫エラは半覚醒 オルガズム・ドラッグの中毒患者たち 肉ジュースがただれた脊椎の末端下水 荒れ果てのスペインと四十二丁目交差点が大理石肉移植の魚市へ 病気の乞食たちが残酷な白痴笑いを浮かべ性感孔を喰いつつ緑ドラッグを注射 刺す昆虫の痙攣発作 これは警告だ われわれはできるしない 変わらない 空さえも淀んで腐って溶け

リーが目覚めると別の肉体で見通しは違ってた その肉体は透明シートでお終われ緑の霧に溶けつつあった

「じっと寝てる 待て 肉凍り付き静止 凍結 腕と脚が感じられるまで動くな 忘れるなあ病院内で脊椎麻酔の後でベッドから降りておれのヘロインの蓄えに向かおうとして転んですべって床一面に広がって手足が丸太ブロックみたいになっちまったんだからね」

かれは頭を軽く片側に動かした 寝台の列や層 じめじめした缶詰め工場臭 トゲトゲ・セックス・イラクサがかれの股間をかすめると熱い糞が爆発して腿から膝に流れた

「じっと寝てる 待て 」

甘く腐った下痢の匂いが空中を波状に走り抜けた ほかのみんなは移動しつつあった 幼生の肉がボロ着てぶら下がり 顔紫怒張噴出昆虫性欲ころげまわる糞と小便と精液の中を

「ほかのみんなが何をしているか見て、それをやらないようにしろ（ 非常事態における一般命令 ）」

もう腕は動かせた アポモルヒネの蓄えに手を伸ばして一握りの錠剤を舌の下にすべりこませた かれのからだは前方によじれ空になりかれは飛び出して自由になり天井へと漂いのぼった

震えるからだを見下ろす あちこちでカニとムカデ形態がちらついている そして暴力の赤い渦 腐食性緑霧がおさまった 数分で動きはまったくなくなった

リーは他の知り合いを見ても驚きはしなかった 「おれがこの人たちをつれてきたんだ」
かれはそう判断した 「パトロールを送り出そう ほかにも生存者がいるにちがいない」

かれは慎重に前進するとほかのみんなは左右に道を開けた 自分の投影像を使ってある地点から別の地点へと移動できるのを発見した すでにならだなしの生活に慣れてきた

「さほどちがわない いまでもはっきり定義され得る、か弱い存在にはちがいない」 肉体がないからといって、恐怖から少しでも解放されたわけではないのは確かだった 見下ろす緑霧は寝台とどうやら大きな倉庫らしき床に苔のじゅうたんを形成した 紫菌エラを持った緑の生物 「大気の大部分は二酸化炭素にちがいない」とかれは考えた かれはスクリーンを通り抜けさせて、過去からのあらゆる思考とことばをめぐい去った かれは生存者たちと色の閃光や投影したコンセプトで意志疎通していた 危険が感じられた まわり中でおなじみの恐怖がさしこまれて震えていた

エージェント二人は地下室にすわっている一九二〇年スペイン風別荘 腐った精液っぽい昆虫臭は緑人間のものがそれがむきだしの片隅に渦をまき色彩駄弁りで骨無し内容を震え抜ける かれが感じたのは開いたドアを抜けて細い音楽にのってくだる暗い通りは敵パトロールと麻痺する白高射砲だらけ かれは電気犬のように動いて敵の要員や設備を嗅ぎだし示したのはこの沈黙の魚市肉体や精神スクリーンを通じてかれの燃える金属目天王星産ノヴァ状態のさなか かれの脳は映像戦争の閃光迫撃で焼け焦げ

このノヴァ急報上の完全条件地帯で影帝国のエージェントたちは忌まわしい電氣的ニーズにしたがって動く 傷を負った金属顔がミンラウドのオープンから戻り オルガズム・ドラッグ中毒者が金星前線から戻って そして天王星の冷青重金属中毒

この地域では、あるエージェントが別のエージェントに接触する唯一の理由は暗殺目的でだけだからエージェントは、自分の身近にいる男でも、まさに自分を殺すためにそこにいると考えてしまう 他に考えられまい？ ここじゃ他にはなににもできないんだから とは言いつつも、われわれはそれなりに群れをなしたがるが、それは接触から撤回してドン詰まりの停止状態に陥るほど危険なことはないからだ だから出会いはすべて電氣的疑惑に震える 透明フラッシュのオゾン臭

衣服が売人層で流通するにつれてエージェントたちは絶えず正体を交換している こうした交換を特徴づける試みでは最後の最後になって包みをすり替えこっちを老いばれバルビツール中どもと一九一〇年パナマに置き去りにしようとする リーはこうした取引を他のエージェントと行ないもちろん双方とも嘘をついて自分の商品の欠陥を隠していた もちろんどんなエージェントでも試用なんか許しはしない借りた側がそのまま高飛びしてみんなをハメるからで毎回必ずそうな

るのだ　だから取引はすべて見当で双方とも集められるだけの情報を集めようと相手の身元を遠回しに探り使えない代物を自分につかませてニッチもサッチもいなくさせるような技術上の欠陥を捜し回る　かれのパトロールとは他のエージェントにチェックを入れること　報告を送り指令を伝え　メッセージを解釈し

「現在のコントローラはアメリカ女　すべての通信にトレーサーを　出入りする電話線はすべて録音　カリフォルニア州サンタモニカ　強力明瞭に入感中　」

若者はタイムをベッドに落とした　その顔はなめらかな灰色の物質を構成してまるで電気ウナギの横腹みたい　その左手は結晶バルブに溶け黄光トゲが注射針のように鋭く震える　オルガズム・トゲ光線　金星産兵器　たっぷり注射すれば肉体を電気オルガズムで昆虫のかけらに引き裂く　少量なら麻痺と手足が萎えてしおれた繊維状の肉になる　リーはちょっと鼻歌を歌い映像ラインを灰色スクリーンでカット　オルガズム・トゲは煙をたてて溶解　リーは少年を片肘をつかんで立たせたが、マネキンのように硬直し重さがないリーはかれを導いて通りを下だし、腕の軽い動作で少年を操る　スクリーンは空白　少年はリーのベッドにすわり顔は板のように無表情　ノヴァ警察が平静かつ目立たずに、当局としての厳然たる態度を持って乗り込んできた

「『トゲのパディ』逮捕　宿主空っぽ　大きな傷跡　手術痕らしい　移送は非現実的　」

深入りし過ぎ

少年は、だれその虫囀の走るような電気手に操られて深入りし過ぎた　わからん　少年はもともと存在しなかったのかも　すべて過去からの思考とことば　あれは戦争中　はっきりしない　仰天するような金星前線は知りえない　あいまいな手が出入りする電話線はすべて録音　最後の人間コンタクト　突然撤収され　少年はまるで存在しなかった　窓辺に口つばやく　薄暗い場末の彼方の声：「おれがだれだか知ってるか？　あんたは『指定の事故』にずっと昔やってきた……老いばれペイ中がクリスマスのシールを得るノース・クラーク通り……人呼んで『神父』……昔の話だがな、旦那」忘れられた都市の場末の一角……ブリキ缶フラッシュたかれ……灰の匂い……風にそよぐ髪一房……「おれがだれか知ってる？　質屋小僧だよ、おふくろさんが昔こさえたみたい……風と塵がおれの名……さよなら旦那がおれの名……いまは静かおれ行く……」(ちらつく銀の笑み)。

この値段じゃよくない

別のタバコの煙の匂いが子供トラック上 外へ進め 全大理石通りと銅製ドーム内空気
 傷跡の署名淀んで腐って緑水みたい かび臭い質札が紫菌エラの横 透明シャム双生児が動き
 抜ける肉移植とウィルス・パターン ゆっくり紫エラで重みを交換 目的中毒者 肉汁吸血
 鬼はよくない みんな下水 白痴笑いが喰う性感取引 甘く腐った氷臭 緑車事故の昆虫
 臭 若いエージェントがきみのからだを借りて特別の半身になんの表情もつくらず氷を隠そうと
 しない かれは何年も前に死ぬ かれは言った：「いや、あんたはそうしたいんだ すぐに
 でもそんなサイズに戻って と子供トラック上で言った 取引で叫んで？」

彼女はわかってくれなかった すべて憑くのは圧倒的内部空気 靴磨きの坊主、そいつをつ
 ぶせ どんな場所でも破ったり作ったりできるのはかれの男性イメージを中に戻す 靴磨き少
 年はジャンプをもらえなかった ちょっと待 よくない固定する連中の精神波と長いカウント
 無駄 答えを知らない ヒ素二年 それを治療し続け 血液中にヒ素と血の出る歯茎
 さてわたしは軽量 38 口径を護身に持っていた

かれは何年も前に死ぬ 「きみのほほえみの太陽」とかれは言って、きみの大使を踏みにじっ
 た泥地ではすべてが中毒で死んだ昆虫の痙攣で やつらが中毒していたのは一連のなんでもいい
 から特別な種類の訪問

「そんなサイズに成長」とニムム 「それでおれの 10%の取り分はどこだ？」

靴磨く少年がつぶれてやつらは特殊技術で蘇生させた 金を老人の下着に止めるのはまるでそ
 れが一番

それでおれは言った：「おれたちここでできる やつらには見えない おれがディブと歩く
 ときやつらにはおれが見えない 」

注意して 出口を見張れ パリに行くな 星座がよくなるまで待て みんなに手紙を
 ちょっと待て この値段ではよくない 波と長いカウントを見張れ 引越しても無駄
 よかったら一つ試してみるといい 線路にまっすぐ逆戻りだぜ、ジャック 吸血鬼はよくない
 すべて憑くのは圧倒的ミンラウド少女 すべて痙攣で死ぬ パリに行くな 金星前線
 子供トラック上で叫ぶ肉体なしに まだ明確でか弱い有機体 傷跡にノヴァ署名 「暗殺」
 の目的でそんなサイズに戻って 彼女のはそこにまさに殺すため 固定する連中の精神波と包
 みをすり替えようとする試み 答えを知ってる?: ヒ素二年: パルピツールごろつきが一九一〇
 年のパナマ 毎回必ずそうなるのだ 若者はタイムをわれわれに落としたりする生命の神と
 ともに クスクス笑い運河語りか下水から漂い絞首台のまわりを車輪を回しつつ はいつくば
 る特殊な訪問で 答えを知ってる?: ヒ素二年: 作戦完了 われらこそ血液中にヒ素と血の出
 る歯茎

「それが護身用じゃないってのは確かかそれとも速すぎる？」

「絶対確かです　ここにあるのはきみのからだを借りて特別の目的に使うだけ」:(「素晴らしい　氷に進め」)

かれは何年も前に死ぬ　スクリーンが空白に　ガソリン臭が満たす麦わら帽子と絹スカーフ
たいして残らない　はやく動かなければ　かれの名前も知らない　連中を実際よりましに
使っても無駄だ　そうしたい？　線路にまっすぐ逆戻りだぜ、ジャック　出口にコントローラ

つかまで風手

ホワイトは静かにすわって放射する「人間の条件」　かしこいラジオの医者が保健所係官を
ポータブルに収容しだす　効果係が支那人のところで何か鍵をできるかどうか　すわれと言う

パノラマ快適をくれてからこう言う：

「で？　なにか手掛かりは？　これからどうすんの？」

計画の足を引っ張っていたのは撤退の拒否だった

「で、あんたこれからどうすんの？　一人でやるんだろ？」

「おれの方も半分やってくれるよな、え？」

かれはわたしを蹴りだしてワースとヴィッキーが役に立ちそうな話をしてそれはそれでおしまい

わたしの会ったのはウリ二つなのかも　二人ともこれらの人々の分かち合いを始めた　特
にヴィッキーはあいつっぽい　あいつの持ち味じゃない　なんでわかる？　連中がすること
になってるってだけ？　足抜けするの？モジリアニのインタビュー明らか普通は遅かれ早かれ

こういう老人がP&O 蒸気船にのって訪ねて来るのはいっぱい見た　自分がめぐりめぐって
契丹なんぞに来ようとは思ってもよるか？　スーツケースをそんな具合にぎゅうぎゅう詰めにする
と、結局は定価でデラックスを買う羽目になるぞ　仕事はそこにある　クリーナーなし

もしきみやきみの仲間のだれでも、あらかじめきみがかれらの精神カーテンだと聞かされていれ
ば　そしてわたしにとっては頭痛の種だと　球は自分なのですよ、おわかりかな、わたしが死
ぬまでね　なぜ「マーチン氏」を兵隊に仕立てあげようとするのかね？　風手がつかまでその
まま　仕事をわれわれはせねばならずそれもかけらが落ちるやりかたで　頭痛の種が山積みにな
ってるのは毎度のこと　かれからこれまでもこれからもずっと傷ついた星雲　われわれが交
差するのは奇妙ないかれたバイオ先渡し　夜勤でめくらと働　終だれの報告がいまや終わった
かわかってくる　これわれわれの腐った腹わたと痛む背骨会計

チャンスはもう一度とかれが言う感動的状況　きみはまだ　戻っておいだスペイン館へそれ
は幕があいつの吸い取り紙の下　正真正銘の事実は多くの霊やつらにとっては幕　うんざりだ
わかるかおれが死ぬまで　内務大臣に会いたいとは思わない「マーチン氏　」

風手がつかまで　仕事をわれわれはせねばならずそれもやりかたで仕事を得た　職探しども

は夜勤にあたって絞首の最後の作業をしたがる　いいことはすべて、いずれ答えに到達する会計の旦那がまともな価格を求めてわめきたてる　なにか宙で卸について嘘と呼んでいいかもしれないもの　あの女をベルトしろ　港はもうおわってる前に時間買い人を見つけろ　たとえば連中が仕事を始めたらこいつはひどい　もたなかった　きみはまだ　戻ってこい仕事は好調でゲートでかれの吸い取り紙の下　窓の残骸を覆いなさい　いまのままの殺人法でも目下の食料を兵士に仕立てあげる？　「チャンスはもう一度」を受け入れるかわりにめくら滅法のバーゲン　太っ腹？　なにも　幕と餌からそんなに離れ　内務大臣に会いたいとは思わない「人間の条件」　かしこいラジオの医者が保健所係官をポータブルに猶予し仕事を得る　だから連中が支那人のところで何か鍵をできる前によく考えるその廃止は過去の戦争　職探しどもは正当な報酬を得るより儲け話に飛びつきたがる　太っ腹に絞首の滄て？　単に同じポジション　年の場所を変えるのは結局は同じ事　計画と呼んでもいいかもしれないものは卸について嘘の拒否する？　一人でやるんだろ、え？　いいことはすべて到達するだいたいそれはそれでおしまい　この人間どものまともな分け前を求めてわめきたてる　特にヴィッキー　あの女をベルトしろ　たとえば連中が仕事を始めるってたら何のことはわかっているか？　この線に沿ってさらにわめきたてるとのインタビュー

ホワイトは静かにすわって「人間の人間」を病院から放射し他の連中は自分の時間を何気なく加えだす　その後はどのみち効果係　バーゲンの支那人による糾弾　これからどうするの、平均でそろえる？　ぼくは屋根にいたからウリ二つをしなきゃならなかった　二人ともセッションをする前に始めた　選択の余地はない　かれ響いた　そいつは安く手放して始めだすってだけ　旅だぜ、おっさん　仕事はそこにある　賞罰なしの商売

遙かなありがとう

「あたし、ビル&アイアムを参加させるわ」と彼女

「でもやつらは存在しない　tout ca　なあおまえ、見当ついているのか　根本的な問題が」

「あなたならそれを賄えるわ　言ってたじゃない、穴はいつもそこにあって昨日を吸い込んでくれるって　それ以外の何でも　」

「市場がアレなんだ、わかってくれ　ビルが石を投げてわたしの非常に近い友人が石灰石に乾燥した排泄物の目的でぶちあたった。そしてさらに生じた目的ときたら　まるで予想もしていない　」

「だったらなおさら沈黙労働者たちを装飾しなおさなきゃ　」

二人は話すのが不可能な場所へやってきた。

「アイアムは非常に繊細（テクニカル）だ」とビルは、室内に煙パターンを煙らせながら歩き回

る 「沈黙者たちの閃光言語を持っている ナクズは全部一掃 今夜です、マダム 陰気なゴシック現場監督への時代 」

スタジオは砂漠の匂うマヤの背景を百姓小屋にいたるまで再現 そこに数分でアンデスの山麓家は宙に浮いていた

「石灰の国だ」とビル 「まずは家のフォト・コラージュから始めようか いい？ そうだとも、それと澄んだ空中の立像が倒れてマヤの舞踏会永遠のゴンドラつきの中へ 小さなヒスイのパイプに詰めたブラックベリーを換える胴元や博打打ちにとっての末期生命形態 ゆっくりとした石灰幸運やエラの満干 醜い霊脊椎液のコントローラ 水圧植物世紀 」

「でも家そのものはどうなの？」

「敵を失い え？ ああそうでしたね、マダム、家ですか 流石は貴婦人ですな やつらにコンタクトはできないものですかねえ？ つまりしっかり面倒も見てやって 」

「ビル、確かあの人たち住んでる圧力がちがってるんじゃないかかしら

「ああそうでしたね、家ですか ふーむ ちがった圧力で変化すると時に部屋が失われ 」

「ビル、ちがった圧力下にあるのよ 」

「シャッフル中に？ ベンソン一家？ でもやつらは存在しない Tout ca c'est de l'invention もちろん水圧装置にはいくつか根本的な問題がありますが、えーその、誤差、を吸収できるように肥溜め穴がいつも控えてるわけでして 」

クレーターの底には穴があった ビルが石を投げこむと、それが落ちながら石灰岩の壁にあたる音の反響がだんだんかすかになって 沈黙

「実際的な応用にあたっては、ご覧のように事実上底なしですな そして廃棄以上に実際的な応用があるでしょうか」

ゆっくり家が融合を創る沈黙の集中する労働者は沈黙の国では話すのが不可能

「運のいい野郎どもめ」ビルはいつもこう言いながらハバナ葉巻をふかしつつ歩き回り、仕事の指示を沈黙者たちの閃光言語で出す 自分のプランをフォト・コラージュで陰気なゴシック現場監督へ示す

そして家はゆっくりとインカからマヤへと戻りアンデスの風吹く山麓や荒れたトウモロコシ畑の百姓小屋に ゴシック神殿がそびえたち宙に消える 壁をつくるブロックはゆれて変化 洞窟壁画 マヤのレリーフ アッティカの装飾小壁 パネル スクリーン あらゆる時代や段階の家のフォト・コラージュ ギリシャ神殿が澄んだ空中にそびえ、倒れるとゴンドラの点在する黒い礁湖岸の石灰小屋へ 小さなヒスイのパイプに詰めたブラックベリー¹吸う物憂げな上流階級の末期生命形態 そして半魚人たちは紫の菌状のエラを持つ そしてコントローラ

¹バキスタン・ベリーを指すが、これは小さな黒い果実で麻薬的な性質を持ち、時々隊商によってモロッコ南部にもたらされる 吸うとこのページに描かれている黒い礁湖地帯の風景が浮かび上がる

たちは脊椎液の透明包皮をまとめて漂い圧力当局のゆっくりとした水圧身振りを示す これらの人々は武器を持たない 古すぎて敵を失ってしまった

「でもこの人たち、素晴らしいわ」とご婦人。「コンタクトとれないの？ ディナーかカクテルパーティーに呼ぶとか？」

「不可能です、マダム ちがった圧力下に存在するので」

「あたし、ビル&アイアムを参加させるわ」 彼女は朝食時に言った

夫は蒼白になった 「なあおまえ、見当ついているのか、あいつらの料金がどんなに高いか？」

」

「あなたなら賄えるわ 昨日そうおっしゃったばかりじゃない」

「昨日は昨日だ、わたしがそんな昔にお前に言ったことなんか 市場がアレなんだ、わかってくれ 金そのものに何か起きつつある わたしの非常に近い友人がスイスの特別金庫を開けたら、中にその、乾燥した排泄物が詰まっていたと言うんだ 一言で緊急事態ショッキングな緊急事態が生じたんだ まるで予想もしていない」

「だったらなおさら装飾しなおさなきゃ ほら、もう二人が来たわ」

二人は到着した ビルがまとうは「銀行装束と称するんだ、かわいいだろうが？」

「アイアムは非常に繊細（テクニカル）です」とビルはゆっくりハバナ葉巻をふかし、煙のパターンを眺める 「ブルドーザをここに導入しませんと こんなクズは全部一掃 マダム、今夜はベドウィンのようにテントで寝ていただきます」

スタジオは芝生の上に砂漠をしつらえ、一家は外に移動させられた 数時間で家の建っていたところには広大な発掘だけ

「石灰の国だ」とビルはクレーターの壁の露頭に触れる

「マヤの神殿から始めるのがいいかな それともギリシャの」

「うん、それにももちろん彫像と 大理石肉傷跡都市 わたしが思い浮かべるのはマヤ式舞踏会場でそこには永遠の若者たち そしてこちらでは石灰石胴元と博打打ちたちがポジションと台座を替える 石灰幸運のゆっくりした満干 そしてちょうどここにはチェス選手 片方は美しくもう片方は醜い霊なみに醜い 美しさを求めて争う 植物世紀のゆっくりした試合」

「でも家そのものはどうなの？」 とご婦人

「ああ左様、マダム、家ですか あなたは現在の区画で十分快適で、しっかり面倒も見てもらっているものとお見受けしますが ところで息子さんはなかなか才能がおありですな 人間 あるいは ああそう、家ですか ゴシック・インカ・ギリシャ・マヤ・エジプト式 そしてまた何か古代の石灰小屋的なものですな、ご承知のように部屋や壁は水圧ちょうつがいとジャッキで変化します そして時々シャッフル中に」

「部屋が失われ ベンソン一家も 朝食中に」

夫は蒼白になった 「c'est de l'invention 料金がどんなに？」

「料金は水圧装置肥溜め昨日誤差そんな昔にお前に言った クレーターの底には金そのものに何か起きつつ 音の反響がだんだんかすかになってスイスの特別金庫 」

「ショッキングな緊急事態 」

「実的な応用にあたっては、ご覧のように痔 実的な廃棄以上に応用があるでしょうか
ほら、もう二人が来たわ 」

ゆっくり家が融合 装束で創ると称するんだ。

「かわいいだろうが？ 労働者は沈黙の国ゆっくりハバナ葉巻をふかしつつ眺める 」

「『運のいいビル』がいつも言うには：『ブルドーザをここに導入しませんと』」

一家は移動させられ家はゆっくり動いた 広大な発掘だけが荒れたトウモロコシ畑と風 ゴシック神殿がクレーターの壁にそびえる ブロックが動きレリーフとパネル・スクリーンは大理石肉傷跡製

「わたしが思い浮かべるのはステージ ゴシック神殿が酸っ そしてこちらではポジションと台座の点在する黒い礁湖岸の石灰小屋へ 煙チェス選手 そして半魚人が美しさを求めて争う ゆっくりした試合が透明包皮をまとい 」

「圧力当局の身振 」とご婦人

「ご承知のように古すぎて現在の区画で十分快適 」

「でもこの人たち、素晴らしいわ」 と塔息子さん ところでなかなか才能がおりますな
ディナーかカクテルパーティーにゴシック・インカ・ギリシャ・マヤ・エジプト式 そしてまた)

「ご承知のように部屋や壁 そして時々部屋が失われ 」

「ちがった圧力下に存在してゆっくりした試合を黒い礁湖岸 ご承知のように精神は une rapidite incroyable で作用しますが動きはとても遅い そこで選手は盤上に大なる歓びや最悪の運命を見て取り取るべきあるいは避けるべき動きを見て取りさらに動きが間に合わないことも見て取る

これはもちろん非常な苦痛をもたらしかねばそれは素晴らしいフェスティバル中は常に隠しておかなければなりません 」

礁湖はいまや色つきのフリッカー提灯で照らされていた 浮き神殿パゴダピラミッド

「このフェスティバルは回転して人間のいけにえから無垢を喪失させるのは包皮が溶けるとき
これが起こるのは非常にまれ 蘭か真珠のように連中は半魚人たちを養殖する いつもさらに素晴らしい種を求めて美しさと下品さをブレンド 白痴や残酷さは特に珍重される 」かれが指差した緑のサンショウオオ生物は紫菌状エラを持ちそれが澄んだの中で揺れる大理石の露頭とシダの下

「この両棲・両性種は拷問映画に反応します したがってこいつらの魅力に抵抗するのは難

しい 」

緑の半陰陽は岩棚によじのぼった 重い麻薬性の臭気が少年側の半開きの口から漂った 少女側はもがいてコントローラの方に向かい小さなさえずりや笑い声をあげる コントローラは透明な手を下にさしのべて骨無しゼリーをぼんやりとなで、エラや中枢を愛撫する 緑の半陰陽は融合の痙攣に身をよじらせる

「ご覧の通り正しい手にかかればこいつらは非常に従順です しかしわれわれは捕われると死ぬレムール人の地へと旅行をしなければなりません かれらは守られています ここではわれわれはみんな守られています 実際にはなにも起りませんご承知でしょうが、人間のいけにえも花ポートからおじぎをします なにもかも素晴らしく、しかし信じられますか、われわれみんなこのまやかしをどっかの田舎者に押しつけて、かわりに出国ビザを手に入れようと夢中なのです

「おやおや、ちょうどコントローラの手配したわが旅行代理店がやってきた 」

ゆっくりした試合を黒いスーツの男の横で気長に 仕事を une rapidite

「あいつはもう何ヵ月もわたしをだましてたんです ゆっくりと、選手が見てとんでもない旅行計画が大きな喜びをもたらすと信じてさらに高速脳による動きを見る 」

「ええわれわれみんな 動きが間に合わない こっちのこれ 役割は出発するすべてに隠さねば」

「花ポートを流してしまうことさえできれば子供トラックにのってからだなしに人間のいけにえから 」

「むしろ悪趣味、包皮が溶けた老いぼれ 皮のはがれた男スタンド 」

「連中は半魚人たちを養殖する 」

「ああそうそう、だれがそれをやってるの？」

「もっと素晴らしい種のためじゃないだろうな ??」

「言っとくがだれも叫べない 向こうにはレムール人間の地 」

「かれはパフォーマンスの後で溶けた 白痴や残酷さの美しい種 」

「で、かれは出国ビザを取れたの？ そして緑サンショウウオ生物は紫菌状エラを持ち今？」

「石灰石の下に水たまり かれは誰かに接触した 拷問映画に反応してます 」

「田舎者ウィリー？ わたしはかれが抵抗するものと知っている 緑少年がフックをよじ登り臭気とともにフェードアウト 半開きの口から漂ったわれらのすべての素晴らしい食物と煙骨

あいつがフェードアウトするのはことば笑い声 あいつは青二オトニーをぶちのめして緑の半陰陽の骨無し夢特権 やつは神経中枢を弁護 緑少年は屠殺屋サミーで身をよじらせる

」

「でもまだあいつ、英雄にはだまされるかも こいつらは非常に従順です 」

「われわれは老いぼれできみは疑 ペルソナと彫像の国へ旅行をし もちろんかれらは守ら

れています おやおや、ちょうどあいつやってきた ほんとに起きますご承知ながら 」

「わたしの理解ではあなたがたは花ポートが必要だと これはすべてモンゴルの射手 かれらは われわれみんな出国ビザを押しつけようと企んでいるのです 」(コントローラは短い密談を行なった 長い爪一本と金歯を持った黒スーツの男)

「あいつはもう何ヵ月もわたしをだましてたんですもちろんみんなそうですが こっちの最高速の頭脳に連中が押しつけようとするともない旅行計画ときたら、信じられないものです そう、われわれみんな、一回やそこらは物笑いの種になりました ここは役割と肉体が流通するところ 何一つよそへは行き場がない 」

「自分自身を下水に流してしまえばいいのに」と彼女は自分の一生の財産が透明盤の上でかき消えるのを見て言った

「むしろ悪趣味、老いぼれ 自分を防腐処置 今夜は皮のはがれた男フェスティバル 」

「ああそうそう、それでだれがそれをやってるの？ またフワニート？ 」

「あいつはこないだのパフォーマンスの後で溶けただろ 」

「そうだった、あいつは消えたんだ それで旅行代理店はこんどは何を売りつけてるの？」

「通称田舎者ウィリーとかいう人と接触したって たぶん 」

「田舎者ウィリー?? 天王星時代に知ってた こいつは、うまいこと引っかけたと思ったら、汽笛と共にフェードアウトしちゃうんだ 石灰柱のゲームで青二オトニーを破って夢特権とともに歩み去った そして押し屋のイジーを開窓して屠殺屋サミーをカウボーイ」

「それでもまだあいつ、英雄にはだまされるかも：わたしたちを守ってくれ わたしたちは老人なんだ われわれの素晴らしい有毒生活と、そして彫像を守ってくれ どうだ？」

「おやおや、ちょうどあいつやってきた」

「あなたがたが保護を必要としているのはわかります わたしはモンゴルの射手を条件として動きます かれらは高価ですがそれだけの価値は十分にありますが 」

モンゴルの射手は黒鉄の肉体で格子状に並び儀式舞踏で弓をしならせる 銀のアンテナ矢が嗅ぎまわり探りまわり敵を求めて震える

「あらまあ、この人たちを見てるとすごく不安になるわ もし敵なんかいなかったら?? 」

「それは遺憾ですな、マダム わが射手たちは絶対にはけ口を必要としています あなたは確かに保護をお求めになっておきながら、今になって レムール人間はどこにいるんです？」

レムール人間たちは落羽松の島に住み枝から顔をのぞかせ、かれらを降りてくるよう説得するのは何時間もかかった 虹色の茶銅色 液状の黒い目スクリーンが処女じみた感情に襲われ

「ご承知のようにかれらは全身感情です ですから捕われると死ぬんです 」レムールが田舎者の顔を、デリケートでためらいがちな身振りで触り、また枝の中に向け戻る

「わたしの記憶ではレムールを数分以上抱いていられた人間はいません そしてだれかがレ

ムールと性交したのは千年以上も昔になります　この課題は失われました　ご承知のようにかれらはあまりにデリケートなので、抱こうとしたり所有したりしようというほんのわずかな試み・考えを抱いただけで、かれらは枝に駆け戻り、抱いて所有しないことを知っているご主人を待つのです　もう長いこと待ち続けています　五十万年くらいだったと思います　科学者たちは何事においてもいつまでたっても意見が一致しないもので　」

レムールはリーの肩に飛び降りて戯れるように耳に噛みついた　ほかのレムールたちはもろい竹の乗り物に帆をあげて沼地を帆走して去り、その頭上には位置を変えない赤い静止衛星

「向こうには誰も訪れたことのない他の島があります　レムールたちはあまりにデリケートなので、人が島に足を踏み入れただけで死んでしまいます　かれらは黒い礁湖に異なった胎児期の肉体で暮らしているのです　」

「ご承知でしょうが銀の矢が嗅ぎまわり指し incroyable だが盤上の動きひどい宿命：(『もし敵なんかいなかったら？』) だい避けでも見よひどい痛みをもたらすものを　おまえは素晴らしいフェスティバルを一通りやった　」

「オレ見るあんたのレムール人間をちらつく光の落羽松のなかで？」

「降りてくるよう説得するのは何時間も　ついに夜明け無垢のコントロールが送る液体チラつくスクリーンはまるで真珠　ご承知のように全身感情です、それはつまり美しさと肉体をブレンドし　」

レムールがリーの顔を触る、捕われると死ぬデリケートな人々　また駆け戻る特別な受賞者　これを強調また戻るのは抱いて所有しない　岩棚に出て　じつに強い麻薬性　だいたい千年くらい

モンゴルの射手たちは短い黒会話の儀式舞踏でしならせる　探りまわり敵を求めて手探りはもちろんみんなそうですが

「あなたまさか　」

「あらまあ、この人たちを見てるととんでもない計画を売りつけられたわれわれの　」

「それは遺憾ですな、マダム　一回やそこらは物笑いの種か保護を求める　今になって　」

「今夜はすてきな若い感情のフェスティバル　なぜ捕われると死ぬ　またフワニート？　あいつは今どこに？　」

「だれも見たことのない枝です　かれもう遠くいます　」

「かれらはあまりに帽子　また旅行代理店のはかれらの待つ枝を押さえる試み・考えを売りつけようとしているのか？」

「たぶん　もう長いこと待ち続けています　五天王　」

「パキスタン・ベリーは横たえるわれわれの塵すべて遥かなありがとうをリーの肩　」

ぼくは二酸化炭素だったのを忘れずに。

ここにあるのは録音だけ　それも別の国の。

「昔の名前で暴動ノイズを出すの？」

「マーチンさんわたしは生き延びました」(微笑)

「よろしい若き地方出身者よ、確かにわれわれは時間をかけた……人間の声は今じゃわたしの仕事を乗っ取る……案内してやろう異人の暗室……かれらの神が薄れ……出発したファイル……マーフィー夫人の下宿屋住所を残さなかった……覚えてるかそれが『三階』と呼ばれてたのを？　こないだのフライトできみは手紙をよこした……ノースビーチにアザラシ……光が点滅……クラーク通り……神父が黒い空をバックに……岩がまさにこのビーチのここに集まる……アリがそこで、手をあげ……薄暗い場末の遠くの通り……灰が水の上……最後の手……最後の人声……空のパイロットヘクター・クラーク最後の儀式……かれが運ぶは決して戻らなかった男……このカチカチ骨は生かしましょうか??　わたしの宿主は長いこと異端審問にかけられて……」

すべての通りに安堵はない　おれが恐怖を見せてやろう、壁や窓、人々や空に　Wo weilst du? (きみはどこに滞在してるの?)　急いでくださいその口座を　きみの隣を歩く三人目は空虚　薄い山の空気があちこちと窓の外　清潔なシャツを着て夕暮れが狭い通りをぬけ　ぼくのスペイン臭が空き地から　ブランデーきっちり　四月の風が回転唇とズボン　夕食後の眠り夢見る雨　兵士は何の保護も与えない　死太陽の戦争は片手一杯の空　やせて弱々しい目立たず震い西部劇映画の霧曰く:「手を埋めな、マーチン」

「無理だ、息子よ　何年も前そのイメージ　ぼくは二酸化炭素だったのを忘れずに　肥がわれわれを目覚めさせて溺れるぼくら　あせた映画に空気穴　煙るシャッターの下りた部屋の果て　壁なし　どこでも探して　よくない　ゼロを引き延ばす生者も死者も　雨に五　若い髪も　急いでウィリアムだ　おれが恐怖を見せてやろう、冷たい春の墓地に　Kind, wo weilst du? (坊や、きみはどこに滞在してるの?)」

彼女曰く「これがあなたのカードです:パン切りナイフが心臓　」

「何考えてる、ウィリアム?　やつの目どこ　どうか急いできみの脳の半分がゆっくり薄れてる　ちったあ賢くなれ　やつらだ肉に届けない　なにもない壁　おやすみ、いとしのご婦人がた　どうか急いでください時間です　どこでも探して　紫の明かりに顔　湿った突風が雨をもたらす　」

立ち上がって病んだ塵の中で一発調製　再びかれはそんなふうに触った　人間愛の匂い　涙がたまった　メキシコでは姦通を行なったが　冷たい春　それにきみは言える　何の情報も出せない　広大物警察

「わが友よこのぼくがきみに与えるべき何を持っているというのだ?　アイデンティティがフェードアウト中　薄れ行く　雌の匂い　ナイフが心臓　塵少年は何の保護も与えない

住所を残さなかった」

「変更を頼むところだけどみんなわかってたから　ギリシャ人がほしかったんなら閉まってる
首を吊られた男は新聞では見つからなかった　盲いた目　見　きみの隣を歩く者は？」「話
させてくれますかきみがずっと昔に視覚を失ったことを……嗅ぐ味わう窓のほこり……触れる……
触れる??　なんでわたしが遥かな着地から薄暗い場末の遠く」

夜明けに　清潔なシャツを着る別の国で　サッカーのスコアとキキがきみにあげた？　障
壁まで空っぽ　シャッターの下りた夜明けが遠く　自転車競争がここでその少年は何の安堵も
なく　長い空っぽの昼　無言の録音　世界の諸国でかれの目だったと表現できる瞬間　こ
の病んだ夜明けのからだをきみに残し　薄れる微笑　別の肉体で　いまは遠く　そのよう
なは何の保護も与えない　訪問滞在地をずらした　真昼の風　きみの隣を歩く？」おもちゃ
のリボルバーがその小道のイラクサの中……空っぽの壊れた通りの上空には赤白青の風。

第6章 GAVE PROOF THROUGH THE NIGHT

(この章はもともと一九三八年にケルズ・エルヴィンス(一九六一年ニューヨークにて没)と一緒に書いたものであり、後にプライオン・ガイシンの「最初のカットアップ」に刻みこまれて『出発まであと数分』に収録出版された)

ベアンズ船長は本日シカゴの海での殺人罪で逮捕された かれは暗黒のさ中に物事をまっ正面から見据えて笑い続けた、最後の偉大なアメリカ人だった フェードアウト

S・S・アメリカ 海は緑のガラスのようになめらか ニュージャージー沖合 エアコンの効いた声がマイクや換気孔から漂う :

「ご着席ください 慌てる必要はなにもありません ボイラー室でちょっとした事故がありました、もうすべては/」

ドカーン!

爆発で船はまっ二つ 船内に剃刀があったようです船長 かれはハンドルをまわすパーキンスという名の麻痺患者が、粉々の車椅子から絶叫する:

「このイカれたクショ野郎どもが!」

二等客バーバラ・キャノンのははだかで一等船室に横たわっている スチュアート・ハドソンが丸窓に歩み寄る:

「服を着なさい。事故があったようだ」

船医のベンウェイ医師は、呑んだくれたメスの一閃で十センチの切開にを五センチ余計に切る

「もしかして虫垂はもう取ってあるんじゃないかしら?」と看護婦は、かれの肩越しにのぞきこんで言う 「傷跡があったわよ 」

「虫垂が取ってある、だと! 虫垂を取るはこのワシじゃ! ワシがここでいったい何しとると思っちょる!」

「先生、虫垂は左側にあるのかもしれないわ 時々そういうこともあるのよ 」

「首筋に息をかけるのはやめんか ワシもいまそれを言おうとしてたところだ ワシが虫垂のありがたぐらい知らんとでも思っとるのか ワシは一九一〇年にハーバードで虫垂学を修めとる 」かれは腹壁を持ち上げ、切開部に沿って探しまわりつつ、タバコの灰を落とす

「それと新しいメスをよこせ こいつは刃がまるでない」

ドカーン！

「縫合しとけ」と医師は命じる 「こんな状態で仕事をできるほうがおかしいわい」 かれは道具とコカインとモルヒネをカバンに詰め込んで、よたよたと手術室から出る

J・L・ブラッドシンケル夫人は爆発によってベッドから放りだされ、起き上がって叫ぶ：「あたくし、まっすぐシェラトン・カールトンホテルに帰らしていただくわ、そしてミルウォーキー・ブレイブスを呼び付けるのよ」

フィリピン人のメイドが、二人がかりで彼女を引っ張り起こす 「ザラメダ、わたくしのカツラをおよこし」と命ずる。「いますぐ船長のところに参ります」

ミズーリ州クレイトン出身の政治家マイク・B・ドワイヤーが突進する一等ラウンジでは、ナツメグでハイになったオーケストラが、楽器の中で転げ回っている

「『星条旗よ永遠なれ』を演奏するんだ」とかれは吠える

「おっさん、誰コマそうってえの？ こっちにゃ組合があるんだ」

マイクは部屋を横切ってジュークボックスに向かい、ファッツ・ターミナルの電気オルガン演奏による『星条旗よ永遠なれ』をを選ぶと、片手に山盛りのコインをぶちこむ

Oh say can you seeeeeeeee

船長がルーシー・ブラッドシンケルと向かい合ってすわっている 船長は染みのついた骨のよ
うな顔の、日和見的な男だった

「この船のオーナーはわたくしです」と夫人

甲板が傾いて、彼女のかつらがずれて片耳にかかる 船長は拳銃を左手に立ち上がる そし
てカツラをひったくると、自分でそれをかぶる

「そのキモノをよこせ」と命ずる

彼女は船窓に駆け寄り、助けを求めて叫ぶ 船中の人間がそうしていたように 彼女の頭が
船窓の枠に縁取られる 船長が発砲

「さあ、この古いぼれのみぬけ婆あ、今度こそそのキモノをよこすんだ」

I mean by the dawn's early light

ベンウェイ医師は手すりに群がる群集をおしのけて、最初の救命ボートに乗船

「みんな大丈夫かね？」と女に混じって腰を下ろしながら、かれは言う 「わたしは医者だ」

船長は足取りも軽く、赤いじゅうたん敷きの階段を下る パーサー室では肩幅のせまい男が、
通貨や宝石を黒いスーツケースに精力的に詰め込んでいる 船長の拳銃がブラジャーから抜かれ
る そして二発発砲

By the rocket's red glare

無線技師フィンチは炭酸ソーダをまぜて、手の中にゲップをする 「SOS ゲップ あの
クソ船長のクソいじり野郎め SOS ジャージー沖合 SOS プンブン匂ってきやがる
SOS あのろくでもない船員ども SOS ゲップ 同志フィンチより SOS ブタ
のケツにはまった同志より SOS SOS SOS ゲップ ゲップ ゲップ 」
船長は軽やかに無線室に踏み込む 遠くからの目撃者によれば、技師が逮捕されると同時にと
どろく爆発とまばゆい閃光が見られたという 船長は技師の死体をおしのけて無線装置を椅子で
叩き壊す

Our flag was still there

船長は老婆を突き飛ばして最初の救命ボートに乗船 ボートは男性乗客たちの手であぶなっか
しく水面に下ろされる ベンウェイ医師が索をといた 船員がオールを漕ぐ 船長はふくれ
あがったスーツケースを撫でて船を振り返る

Oh say do that star spangled banner yet wave

時間がしゃっくり 乗客が救命ボート K9 のまわりで争う これが下ろせる最後の救命ボ
ートなのだ 道徳再武装運動家にして神学校三年生のジョー・サージェントは、群集からすりぬけ
て、ボートのへさきにパーキンスの席を用意してやる パーキンスはあごをひいてそこにすわ
り、目を輝かせて右手に大きな肉切り包丁を握りしめる

By the twilight's last gleamings

二等船室からのヒステリックな人波が甲板にあふれる 「女子供が先だ」と出っ歯の大きな顔
をした靴係が叫ぶ かれはセントルイス出の婦人の腕をつかみ、先に押しやる 靴係の群れが
くさび状にその後続く 銃声がひびいて婦人は倒れた くさびも散り散りに 船員服の
ボタンをかけちがえた男が、第一次世界大戦時代の四十五口径を手に最後のボートに乗り込むと、
進水ロープのところの男たちを制圧

「こいつを下ろせ」と命ずる ボートは着水 ふらつく甲板から悲鳴 ボートのまわり
にからだ飛び込む 緑の水面に頭が見え隠れ 手が水面から伸びて、ボートのへりにしがみつ
く はじかれたようにパーキンスは包丁を振り下ろす 手がずるりと離れる 切断された
指がボートの中に散らばる パーキンスは熱にうかされたように、あちこちで指を切り落とし続
ける：

「このクショったれ 役たたじゅどもめ クショったれ 役たたじゅ メソジスト監督
派の神かけてコンチクショウめ 」

O'er the land of the freeeee

バーバラ・キャノンはわれらがレポーターに、この惨劇からのおみやげを見せてくれる：船員のサイン入り救命胴衣と、切断された人間の指

And the home of the brave

「別に理由はないんですけど。ただ、この指に何だか申し訳ないような気がしたもので」と彼女。

Gave proof through the night that our flag was still there

SOS

冷重液体がたまった山村はスレート造の家が並んで時が止まっている 青い夜明け 沈黙中毒の地 かれらはなだれこみ SOS を隅に追い詰めそれを鉛のびんにつめて運び去るとスレート造のなかでラリる 冷青か冷灰で 残るはわめきたてる腹話術人形の通夜ばかり みんな青寂(せいじゃく)の冷たいブロックの中でひたすらすわり地球の核がかれらの重時間と重金銭の重みでたわむ 天王星の青重金属人間たち 重詐欺師たちがインチキ宇宙株の新規発行を売りつける それがすべて SOS に戻る SOS (Solid Blue Silence 固体青寂)

「小僧、だれも SOS 中毒からは抜けられねえんだ 苦痛銀行からの絶叫がすべて わかるか最初の最初っから拷問された金属の奥深くで爆発」

おれの叫ぶ肉体にヤクが染み通る 立ち上がってジャンキー・ジグを踊った おれにはスプーンがある これさえあれば何もいらぬ あいつの背骨へ最近ホントすごいブツを注ぎこんでる(「泥炭地にむかって射て」)冷重液体がたまる 水圧が始まってんだわかるか 爆発時が止まっているのは青金属 郊外星雲がラリる 回転木戸に青寂 山村はスレート造の家 この異国の太陽をびんに詰め

マーチンが青交点にやってきたのは重青夜明けで時が止まっている ゆっくりした水圧ドライバーが出てきてどいた 沈黙人間たちの地 現場監督が合同宿舎にかれを案内した 男たちは青寂(せいじゃく)の冷たいブロックの中で長いテーブルについてすわり写真を並べ沈黙の並置言語がその仕事を監督 立場と優位性を求めてポーカー

仕事はきつくて沈黙だった 灌漑用の水路や養魚池があって入念な鍵やモーターがついている

風車や気象図 地主は空の雲と山の写真を毎日撮ってその気象図を、中央ビルの屋上の風で回る大きなフリッカー・シリンダーの中で、動かしては並べる 娯楽室と合同宿舎の壁の写真パネルは気象雲山青寂の夜明けの影で変わる 男たちはお互いの写真を撮り写真を混ぜ構成し、その組み合わせを風と水音と養魚池のカエルの声にあわせてシフト (緑の草原が黒い水と泉と切り刻まれて草が生い茂りそこでマーチンが夕方に釣りをしたブラッドレーは隣の寝台でまたは同じ

寝台で寝て交互にからだを変えつつ青寂のなか 任務はポーカーの試合とともにシフトして肉交換)

青 養魚池に沿ってフリッカー 青い影の夜明け 通り カエルとコオロギ (ぼくの顔と切り刻まれ)

ナイフが落ちた かれの隣の寝台にいた係が血を流す青寂 清潔なシャツとマーティンのズボンを着る 話をしたり微笑をかわしたり ほこりっぽいモーター 作物と魚話がつぶやく アメリカの夜明け言葉 悲しい下宿屋 写真が蒼白にする光を郊外の池や茶色の髪 すえた朝の通り わたしの顔の上で空と雲をふるいわける 都市住宅と切り刻まれて

「憑かれた廃虚の空っぽの写真？」かれは悲しそうに手を挙げると手のひらをこっちにに向けた……
「どっかの少年がちょうど最後のさよならを空に書いた……すべての夢人は過去からきて永遠にさよならを言っていますよ、旦那さん」午後遅くの影がかれの背中に落ちすべての映画の魔法が思いだすガキがそこに立って顔は屋根裏の窓からの光に照らされるのは失われた通りでれんがの煙突が爆発する星がぼくらの間に……スレートの岸辺沿いに振り返ってこられるよ白シャツはためく銃口の煙。

目減り

重金属小僧は天王星での短い青休日から戻り、生物法廷のほとんど全員に対して訴訟を起こした

「こいつらおれの取り分を目減りさせてやがる」とかれは、われらがレポーターに語る 「おれはそんなのに甘んじるつもりはないぞ 」フェードアウト

生物法廷の廊下やパティオやポルティコ 群がる末端生命形態たちが、必死になって期限切れの許認可や在留許可の期間延長を求めている ブローカー、フィクサー、売人、免許差し止めの弁護士など、みんな法廷の係官の親戚だと主張 プロの義兄弟や、またいとこのさらにそのまたいとこ 陳情者や原告団がわめきながら廊下を走る 昆虫の爪をふりあげ、動物や鳥の器官を振り上げ、彼方の指の「お勤め」で生じたと称するありとあらゆる病気や傷害をふりかざす 補償を求めて金切り声をあげ、裁判官たちに賄賂をつかませるか、生死を問わず千の言語や色彩フラッシュや神経語、緊張病じみた踊りやパントマイムで自分たちのひどい状態を示し、何とか影響を及ぼそうと試み、その多くは骨にまで達するほど深い刺青になって静かに傍聴席にピケを張る

ほかの連中はコラージュ写真の旗を掲げたりテレビのスクリーンに自分たちの主張をちらつかせる緑人たちが石灰石の落ち着き見せ 時間ウィルス生死の抜き難い動きで侵略した動物宿主たちのあらゆる性癖や感情に対して超然とした緑の侮蔑 その病気やオルガズム薬や無性寄生生命体で侵略した 天王星の重金属人間たちが蒸発した紙幣の冷青霧に包まれて そしてミンラウドの昆虫人たちは金属音楽に 冷たい昆虫脳とそのエージェントが白熱バズ音ノコギリを炉で研ぐ

裁判官は、汚職の可能性からは何光年もほど遠く、目立たず平静で厳然たる当局の権威をもって概要を読む ある時は半袖のスリムな若者に見え、またある時は中年の赤ら顔、またある時は高齢で黄色い象牙のように見えた「まったく、なんという混乱だ」 かれはついに口を開いた

「みんな、静かに 願わくば生物学的調停とは何かご理解いただけていると思う これはつまり、調停される生命形態は同時にあらゆる防御と武器を置かなくてはならないということだ 防御も武器も結局は同じところに行き着く そして遡及的なコントローラたちとの結びつきはすべて宇宙条件のもとで一つの存在へと融合されるが、その成功不成功はわからない 」かれは概要をチラッと見る 「どうやら原告である天王ウィリーとアリ・フワン・チャプルテベックによって代表される緑人間たちは調停を受け入れる準備ができているようだ これらの、え一人格たちは前にくるように Bueno（よろしい） 思うに双方ともわかっていたら、調停をためらったことだろうが 幸運なことに、どちらも必要以上の情報は与えられていなかったようだ なきみたちはもちろんすべての武器を引き渡し、われわれは何であれその残ったものに対して審議を進めるものとする 衛兵 こいつらを滅菌室に連れて行って、それから生物学研究室に連れていくんだ」 かれはコントローラたちのほうを向いた 「やつらの準備はちゃんと整っていることを願いますよ もちろん言うまでもないことですが もちろんこれは第一回目の公聴にすぎません 調停の結果は上級法廷によって審査されます 」

かれらのおぞましい状態が天王星での短い青休日から 生物法廷のほとんど全員に対してポスト：ウィリーの弁護士が勤める「伯爵」 かれはインタビューで言った押し分けまだそれをフェードアウト 室 緑人間 超然とした緑の侮蔑が形態フィクサーや売人みんなが動物宿主を主張 （プロの兄弟や植物世紀の動き） 陳情者や原告団その緑の無性生命がわめきながら廊下を走る超然とした鉞物的平静が受けた スレート造の青家と緊張病じみた踊りで示す重金属小僧は戻り 多くは病気を刺青して傍聴室に対して訴訟を起こした

「こいつらおれの取り分を短い必要なプロセス」 わめきたてる群集が入る廊下や傍聴席やパティオ 性癖や感情の係官の親戚だと抜き難い石灰石で侵略したまたいとこのさらにそのまたいとこ ウィルスと薬原告と被告 天王星の重金属人間が千の言語で生きたローブが着られたまま成長する青くゾットとする病気 小さなハイファイ・ヤク音が補償を求めて金切り声をあげ脊椎がラリッて凍りつき色彩フラッシュする紙幣の重青霧に包まれて 陳情者や原告団がわめきながら廊下を走り包まれ：「まったく、なんという混乱だ」 昆虫の爪をふりあげ超然としてみんな願わくばご理解いただ何サービス かれはある時は何であれその残ったものに見えた 願わくば動物の性癖とは何かご理解いただけていると思うに調停が横たわる時間の抜き難い動き

たそがれの最後の輝き

時間金ヤクの神々は重青たそがれの中に集い銀行の床を漂ってイカサマ勢力に取り消された許認可の延長を買ってやろうとする　一同は「タイプライターの前の男」の前に立つ　平静で目立たず厳然たる当局の権威をもってかれは礼状を読み上げる：

「仮に彼女の四年生のヤク教室ではこんだけしかわからなかったとしよう　仮に深遠なる死の主たる天使だけだったと　仮にわたしが地球の時間金ヤクを通じて諸君の許認可を取り消したとしよう　何がそうで、何がそうでないかを知らないことも知らなかったと。きみたちのヤクすべてがいまアポモルヒネとなって出回っている　きみたちの時間と金が言葉塵になって通り漂う煙　夢通りの肉体が光の中で溶ける……」

病気ヤク神が礼状をひったくる：「こいつをオープンにぶちこめ　こいつの書いたものを燃やせ」　かれは病院の廊下を駆けぬけてコントロール・スイッチに向かう　「遠くには逃げられない」百万の警官とパルチザンが立って電気犬を震える　アンテナ光を抜いて

「マッポを呼びやがったな　このろくでなしのタレコミ屋め　」

「あれはあんたの警察であんたのことばをしゃべってる　どうしてもしゃべるんなら自分のことばで答えなきゃ　」

「止める　Alto　停止だ　」閃光が貫きおれが言う間に百万の弾丸　ヤク神が倒れる　後進国で老ジャンキーがほうきで掃き出した灰色の塵

重青たそがれが前方に漂う礼状をひったくる　時間金ヤク集い買う：「こいつをオープンにぶちこめ　こいつの書いたものを燃やせ　」

「仮に深遠なるDの主たる天使だけだったと　病院の廊下を駆けぬけ　きみたちのからだをわたしが書いた　この死め警察をよびやがった　「止める　Alto　停止だ　」でヤク神が病気　ヤク神が倒れる重青たそがれの中を漂う銃を抜いて用意しつつ　時間金ヤクがあんたのことばすべて　あんたの　答えなきゃ　わたしはきみの銀の弾丸の死のヒョウを書いた

だからいまや我々はないと言える。早すぎる??　会計検査官の口はかれ自身ので止められたと思う　彼女の灰色の視線で色あせる銀の理解は期限切れ　まあ変更は頼んでみるがホントにもう時間がないしそうだろう爆発した切符の横に残され　どのみちおれは先に進まなきゃ　時間がないのでおやすみを言うこのえーと状況下で　いまやスペイン風邪は再びない窓辺で風を緑のネオンで触れる　おわかりのように部屋で彼女は言った：「あらまあ下まですごくあるのねえ」

出会いカフェは閉まっている　お茶が一杯ほしいなら　若さの噴出だよわかるか　あんなに多くあん　大事なのはいつも自分を解き放つ勇気を持つことだ　闇の中　再びかれは冷たい銀の視線で窓に触れ、さらに外の冷たい春の空気をと無色の問いがその病院の廊下を漂う

「物警察がすべての委員会室報告書を保管」　そしてわれわれは災厄預金を提供することを許されていない　戸にはさんだ風手　電気屋を雇いにきた爆発性バイオ先渡し男　歴史のガン

リン裂け目で 最後の勇敢なヒーロー 「お前のあとをつけてるぞ、ミスター・ブラッドレー
ミスター・マーチン」 かれの肉の中のスイッチに手が届かなかった そして病気トラックま
でゼロ時間 長いこと太陽の間でぼくはすえたオーバーを持って 光と影を行き来 見慣れ
ないスコアの犬でつぶやく 傷ついた星雲を横切ってわれわれは交差 きもの脳のなかで死ん
だ太陽の毒はゆっくりとあせる 歴史のガソリン裂目の猿の移住 爆発性バイオ先渡し宇宙
から出てネオンへ 「わたしはお前、戸にはさんだ風手 」肉体に届かなかった太陽の中ぼく
はすえたオーバーを持って 死んだ手がのどを伸ばしている 最後に災厄預金を提供するト
ラック上で つまりミスター・ブラッドレーミスター

そして盲であるが故に聞くことは拒めない：「ミスター・ブラッドレーミスター・マーチン、お
れの創造したものたるおれの血に災いあれ」 (浅い水が潮流とスウェーデンのイエーテボリ川
と共に入ってきた)

第7章 この悲惨な事件

宇宙のアングル野郎たちが生物法廷ビルの便所や掃除用具置き場から勧誘しアンモニアでハイになって突撃し、オープン刑から生物学的怠慢による召喚に到る、ありとあらゆる事件の始末を売り込む 八百長裁判で役立たずの始末をいくつか買いこんだ陳情者弁護士側法廷係官たちや有罪の傍聴人たちは、フィルター・スクリーンを使って悪質な気狂い沙汰の波長はねることを覚える この装置は、法廷ビルの廊下やパティオで売られ、法的なアドバイスを必要としているすべての生命体に、生物法の詳細や見た目の矛盾について訓練を受けた正式な生物カウンセラーとコンタクトできるようにする 一年次の学生に与えられる古典的な判例は、酸素行き詰まり事件だ：生命形態 A が、異星に故障した宇宙船で不時着する 生命形態 A は「酸素」を呼吸する この異星の大気には「酸素」は含まれないが、この異星に土着の生命形態 B を侵略して占拠することで、生命形態 A は必要な酸素を、生命形態 B の血流から変換することができる 占拠した側の生命形態 A は、宿主である生命形態 B のあらゆる行動やエネルギーを、酸素の収量が最大になるように計算された方向へと導く 宿主の健康や利害は無視される 宿主の宇宙段階への進歩は、侵略者の「酸素」の必要性を阻害することになるので停止させられる 永年に渡り、生命形態 A は生命形態 B からは目に見えない存在であり続けたが、これは他の生命体を認識できる知覚領域を走査して外す簡単な操作によって行なわれた しかし緊急事態が、まったく予想もしなかった緊急事態が生じた 生命形態 B が生命形態 A を見たのだ (きみの見ることは阻止したと思っていたか) そして何千年にもわたる筆舌に尽くし難い侮辱行為や金属的肉体的な残虐行為、精神、肉体、魂の萎縮を根拠に、生物法廷に訴えて出て、異星寄生体の即時退去を要求したのだ これに対して生命形態 A は第一回の審問でこう返答した：「あれは食料調達上の問題だったんです 絶対的な必要に迫られてのことでした すべてはそれに端を発しているんです：苦痛と快樂の鉄の爪が惑星を締め上げて、宿主を肉体牢獄に閉じ込めておき、われらの『酸素』惑星を動かさせ続けました もしかかれが、われわれが何者で何をやっているのか一瞬でも知ったら (切り替えてわれわれのやり方は数秒のうちに壊滅すると知りつつ) そしていまやかれは、われわれがもとの媒体に戻るためのダイビング・スーツとして利用しようとしているのを知ったんです もちろんその媒体内では、生命形態 B は異星の条件のために破壊されてしまいます 激昂したパルチザンたちが提示する代替案は、うろつきつつどどんわれわれを生命形態 B から締め出し『酸素』供給をカットするスイッチのほうににじり寄り こういう状況下で、他にどうしようも

なかったんですよ われわれの侵略した生命形態は、われわれにとって完全に異質で忌まわしいものでした われわれにはかれらが『感情』と呼んでいるものがない 宿主の弱点が、侵入して操ってくれとマークしてあるんです」

酸素行き詰まり事件は、絶対的な必要性の算術の基礎を提示している 「酸素」は、ある生命形態の基本的な生物学的ニーズをあらわすものとして、置き換え可能な要素である この提示をもとに、学生たちは摘要書を作成する ずらし切って並べ替え、事件を異なった角度や媒体から見られるようにするのだ：

ノヴァ・ギャングの裁判は、まったく予想もしなかった緊急事態をもたらした：掃除用具が生じる 生命形態 B を掃く 見た始末を生物法廷で 精神、肉体、魂の萎縮を八百長どこで役立たずの始末をいくつか買いこんだ 長年を学ぶ 長く 多く そんな場所 異星寄生体を前兆にわたって走査して外す そして筆舌に尽くし難い侮辱行為や怠慢を訴えて出て要求した即時生物学弁護士は決して形態を売りつけない 最高の生物カウンセラーは天王星人 U

かれの顧客は重金属から 印象物があの鉄の爪摘要書から続いた あるインタビューからかれはサミーが惑星を締め上げてるスイッチの中 緑タコが動かす植物判決 そしていまやかれらは、ダイビング・スーツに「酸素」がないのを知ったんです 土着の生命はかれらの呼吸する「酸素」のために破壊されてしまいます

「この圧力 健康がわれわれの『酸素』ラインを切断 あまりに無視される」

「するとそういう状況だったんですか？」

「宿主の生命は、われわれにとって『THE』を越えて忌まわしいものでした 宿主の弱点が侵入者から剥奪される」

きみの手持ちの材料で絶対的な必要性の性質と生物法廷の第一回審問

「そちらがおわかりと主張してわたしは侮辱行為や残虐行為と闘わなくてはならず土着民はみな精神、肉体、魂で要求しわたしは毒の責任は負えない （がこれによって顧客を失ったことはもちろん一度もありません） 紛れもない事実と判例が食料調達上の問題ふさわしくない そこから拝借した二つの爪が脅かして墮落させる」

「苦痛と快樂の逮捕された犯罪者が締め上げるカウンセラーは生物法の肉体牢獄の矛盾について訓練を受けた 千年のダイビング・スーツがわれわれの媒体まで戻って逆回しスイッチのかわりに 代替世界島」

そこでどこで生物法状況の一年次を？ 生命形態 A は完全に異星の故障した宇宙船 大気中にかれらが「感情酸素」と呼ぶものを持っていない

生命形態 A の立場にたった学生は、生物検察官の質問を予想しなくてはならない：

「どうしてその宇宙船は、そんな都合のいい近所で『たまたま』故障したりしたんですか？

その遠征の目的は、『酸素』を発見してあらゆる手段でそれを抽出することだったんじゃないませ

んか？ 長年の占領期間中、生物警察介入以前に生命形態 A によって生じた変化を元に戻そうとする努力は少しでも行なわれたんでしょうか？ 生命形態 A は、自分たちの『旅行の手配』が整い次第、生命形態 B の『酸素』供給を断とうと企んでいたんじゃないでしょうか？ それどころか実は、『感情酸素』、つまり人間やその他の哺乳類生命体が依存しているエネルギー源を断つことで、生命形態 B を肅正しようと計画していませんか？ （ウィルヘルム・ライヒ博士は、人間生命はかれの言う『オルゴン』なるもの（これは地球のまわりを帯状に取り巻いている）によって活性化されていると示唆した） 生命形態 A は明らかにオルゴン帯をブロックして、生命形態 B を魂なき真空の中で窒息させ、生命形態 A 出身惑星に見られる惑星表面温度、摂氏三百度を実現しようと企んでいたのです」

一言で、生命形態 A によって提出された、緊急避難の主張は不当である 審議の準備のためには、現場での生命形態 A のもとの条件や生物学的歴史を調べることが必要となる 生物カウンセラーは顧客をよく理解し、「生物法の詳細や見た目の矛盾について訓練を受け」ていなくてはならない 生命形態 A としては「この悲惨な事件」を扱ってくれるカウンセラーを見つけるのに大いに苦労することだろう

第一回審問のための摘要書

生物カウンセラーたちは作家でなくてはならない、作家だけがその任に当たれるのであって、なぜならカウンセラーの機能とは顧客にとっての生物的可能性を開くような事実を創り出すことにあるからだ 偉大なカウンセラーの草分けはフランツ・カフカで、かれの摘要書はいまだに標準となっている 学生はまず自分の摘要書を書き、それからページを半分に折って、手持ちの事件に関連したカフカのページに重ねる （何が関連していて何がそうでないかを決めるのは、必ずしも簡単ではない） この手法を示すため、ここに生物法廷の第一回審問用の仮の摘要書がある：

カフカの一ページから用意されたものが学生による摘要書とオリジナルの発言を通り抜けて行ったりきたりして、やがて生物的立場の表明が出現する このオリジナルの発言をもとに、学生は自分の主張を発展させなくてはならない

フランツ・カフカ「審判」からの引用

身なりのよい男が言った。「思うに、この紳士の弱気は、ここの空気のせいかもしれませんな つまりこの紳士が気分を悪くするのはここでだけのことで、ほかの場所ではこんなことはありませんから」かれらのように事務所の空気に慣れていると、階段からのぼってくる比較的新鮮な空気でも気分が悪くなるのだ かれらはほとんど

返事もできないようなありさまで、娘のほうなど、もしKが即座にドアを閉めなければ卒倒していたかもしれない。かれはすでに、似たような裁判でしばしば完全あるいは部分的な勝訴を勝ち取ってきたと、自分では主張している。これは非常に重要なことだった、というのも、弁護側の第一印象は、しばしばその後の審議の方向性を決定づけることがよくあるからだ。特にかれらが扱っていた事件からいきなり外された時などはそうだ。これは疑問の余地なく弁護士にとって起こり得る最悪の事態だった。もちろん過去にクライアントが事件から弁護士を外したことがあるというのではない。なぜなら、一度助けを求めてだれかを招いたら、自分だけで先に進めるはずもないからだ。しかし時に、事件が急転して弁護士がもはやついていけなくなるがあったのだ。審議も被告もすべてあっさりその弁護士から取り上げられる。そうになったら、官僚との最高のコネでさえ何の効果もない。なぜならその官僚さえ何も知らないからだ。その事件は要するに、それ以上の援助を許容できない段階にまで到達したのだ。それは彼方の手の届かない法廷に移され、そこでは被告ですら弁護士の力が及ばない。弁護士の部屋は屋根裏の一番てっぺんにあったので、もしつづいて穴に足を突っ込んだなら、それは下の屋根裏部屋にぶら下がることになる。そこはまさにクライアントたちが待たされている廊下なのだ。

第一回審問のための摘要書//生命形態 A 事件

「ここ」で呼吸にかれらは時々変異する。この紳士こそまさに「ここ」での生物法廷ビルそのもの。つまり「ここ」でだけのことでオープンからありとあらゆる事件を始末。ほかの場所ではこんなことはありませんから。比較的新鮮な空気を買った後で。生命形態 A が乗ってきたのは宇宙船にとって起こりうる最悪の事態だった。生命形態 A は異星の星の大気から呼吸。生命形態 A は弁護士から引き出したあらゆる行動を宿主の健康や利害は無視されるように計算された方向へと向ける。その事件は要するに、宇宙段階にまで到達したのだ。援助を許容できない。

被告ですら時間の手が届かない。生命形態 A の部屋は一番てっぺんにあった。

異星にいた男が言った。「思うに、片輪の弱気は『酸素』のせいかもしれませんが。この紳士が感じる『酸素』はないが、『事務所の空気』を侵略して占拠することで、かれらは『酸素』を生命形態 B の階段から変換できる。」

与えた第一印象は、しばしばその後の「酸素」供給の方向性を決定づける。ショッキングな緊急事態。なぜなら、かれは形態 A を保ちようがなかったんです。助けを求めてだれかを求めたが、かわりに行動を阻害された。ミンラウドの人々にほとんど返事もできない。脳がすべての行動を向ける。テレパシーによる偽指示により、似たような裁判で勝訴を勝ち取ってきた。ミンラウドから弁護士を外したことがある。引き込んで置き換える。現在の首長たちにとって

起こり得る最悪の事態だった 時に、事件が急銃を取る 校長はもはやそれをフォローしない

その事件は要するに、援助を許容できない惑星のドロドロのコアにまで到達したのだ

男は言った。「思うに、この紳士が感じる白熱青空 即座にかれはすでにそうした？」

そうだとすると、ひねくれた地下鉄が完全あるいは部分的な偽指示 事務所の空気はびん詰め
頭 疑問の余地なく弁護士の裏をかいて取ってかわろうと意図されたものだ クライアント革
命 なぜなら、失墜した首長など、助けを得るためにかくまっておけるはずもないからだ 金
属の灼熱した熱気のステージではそれ以上の援助が正午に融けて彼方の手の届かない法廷に

「ことばがおちる 写真が落ちるスタイリッシュに着飾って この紳士のイカれた命令と取
り消し命令『ここ』 わかるか『ここ』だけ 慣れていると DC、比較的新鮮な空気、何？

イギリス人はほとんどかれに返事もできない 即座にドアを閉め 」

「この脳なしめが似たような裁判で何度も勝訴 」

電気防衛はしばしば全文明と弁論を決定づける 特にかれらが扱っていた事件恐怖必死の立場
や利権からいきなりはずされた時など その事件は要するに、とんでもない生命形態にまで到達
したのだ 被告ですら変更済み圧力が及ばない 一番てっぺんの作戦 粘液と尿のクライア
ントが言うにはその男は異星人 異例の粘液がせきこむ敵の「酸素」を階段から 早回し映画
がこのような形態を圧倒的重力供給でつくりだした 肉が凍らされてショッキングな緊急事態を
供給 アミノ酸がすべての動きを指示 灰色ヴェールの暗号を勝訴 読まれるテレパシーに
よる偽指示 「事務所の空気」をかれらは生命形態 B のエロ写真に変換できる ロンドン宇
宙ステージで敵を肅正 薄い空気が阻止する昨日の行動 せきこむ敵が引き込んで交替

「肉体牢獄の紳士はわれわれの『ここ』を何とかしている つまりかれが一瞬たりとも見たの
は「ここ」でだけ ほかの場所ではありませんから 切り替えたわれわれのやり方は比較的新
鮮な空気中で呪われている それがわれわれ ほとんど返事もできない宿主を利用しようと計
画 もちろん生命形態 B は即座に閉めたドアは『酸素』供給ラインにとってとても重要 で、
ほかには？ 防御がしばしばわれわれの侵略した生命体を決定づけた 」

特にある事件が侵入して操ってくれとマークしてあっていきなりはずされた時などはそうだ
生物学的な必要性から弁護士を外し一度摘要書の準備にだれかを招いた ノヴァ・ギャングの裁
判は弁護士から取り上げられた その事件は要するに、艦装したどんな場所にまで到達したのだ

苦痛と快樂が「事務所の空気」を締め上げて生物階段の矛盾を感じた そんな都合のいい弁
護士で故障 なぜなら、長年にわたってだれかに助けてもらう手段を保てなかった

「思うに弱気は生命形態 A の提供した大気が不適當だったため この紳士は生命形態 A によ
るもとの「事務所の空気」に関する証言を現場で確認することが必要だと感じている A は階段
からのぼってきた かれはすでに『この悲惨な事件』を完全あるいは部分的に扱ってくれるカウ
ンセラーを見つけていた つまり『ここ』でだけ絶対的な必要性を始末 食料供給の問題で異

星の問題じゃない 形態 A 直接爪が脅しては墮落させ弁護士を宿主を締め上げるような方向へと導く われわれの媒体へ戻る援助 」

生命形態 A の部屋はワード島にあった そんな都合のいい生命形態 B で故障 ミンラウド入り組んだドアが生命の「酸素」をカット 似たような事件でうまいこと手をまわして操作を加え、ミンラウドからの弁護士をカットして生命形態 B を肅正する

「生命形態 A は完全な異星人でした」と言う男は異星人

「『酸素』のせいでやつらが『感情』と称するものを持っている」

「目的は供給する生命形態 A を介入以前に方向へと導くんだったんじゃないですか？」

「陳情者がもとの媒体に戻るためのダイビングスーツ ほとんど返事もできない 異星の条件によって破壊され われにとって完全に忌まわしいものでした というのも形態 A を寄生虫に見せずにいられはしない」

最高の犯罪カウンセラーは似たような裁判が金属を通じて操作 印象が現在のインタビューへと続いた かれはミンラウドからサミー弁護士をつれてきた 生命形態 A の歴史を現場に引き込んで交換

明らかにこれは弁護の難しい事件だ、特に被告側が起訴されているように、カウンセラーをもとの媒体に戻るためのダイビング・スーツとして利用しようという意図があったなら（もちろんその媒体内では、カウンセラーは異星の条件のために破壊されてしまいます） しかしながら摘要書の中のある一節に基づいて弁護を立論することができるかもしれない 「ここで呼吸にかれらは時々変異する」 つまり生命形態 A のしかるべき変異体が証人と呼べればだが 明らかに弁護のすべては変異の可能性に立脚せねばならず、生命形態 B の完全な犠牲の上に成り立つ有害な寄生状態を保つための「絶対的な生物学的必要性」についての言及は、少なれば少ないほど、変異についての弁論が行なわれるまで判決を保留するという妥協を勝ち取れる可能性が高まる

テープレコーダ二台による変異

男が言った。「思うに、この紳士はまったく愚劣で貪欲な金星パワーを感じる 足が書き出すメッセージはヌトヌトの階段から 」

「それはわれわれだ 厳密に『グニャグニャはあなたのため』から 基本的神経系以外には骨は計画しない ほとんど返事もできないような 」

「事件は単純にターミナルで要点に移れ 必死の召使がいきなり外された イカれた命令と取り消し命令が地平線上に そしてわたしは心霊チェスをやりながら文明全体と個人的な癖を決定づけた 」

「苦痛と快樂の鉄の爪が二つのスピードで それぞれのレコーダが肉体牢獄のなか「ここ」を延長コード上で操作 ほんの一瞬たりとも動いていない宿主レコーダが拡声器を見る 方は比

較的防音された「部屋」では呪われている シフトするドアは行列へと続く 多くのレコーダがわれわれの酸素供給ラインにとって重要 それぞれ専用のレコーダ配置につながれた宿主を利用するため 例えば九台のレコーダを使って生命形態を決定づけ、われわれは三平方で侵略 それぞれのレコーダは侵略レコーディングを記されている つまり「ここ」でのみ必要性の性質が固定されて必要なだけ続くようにセットされる 侮辱行為や残虐行為が再生される一方で他の録音録画 スピードとボリュームのバリエーションを「脅迫」して「墮落」させる 宿主を締め上げてシステム内に戻らせる テープレコーダがいくつでも同じ場所にまとめられて操作を簡単にして他の場所でスイッチを入れられる われわれのマイクは、できることなら「新鮮な空気」中に置かれている それがわれわれ 宿主につながったマイクやスピーカを計画する ほとんど返事もできない もちろん静止と移動が可能 一番簡単な並べ方は三本のラインだ 特にもしその「事件」に四種類の可能な状態があれば、二種類の再生速度がありうる すばやい操作がいきなり遅回しの再生から取りだされる 実際の弁護士が生物学的必要性からさまざまな方法で

「a) 単純に手を換える弁護士

b) ランダムな選択で間隔一定の生物学階段 全体が完全にか、あるいは部分的にスイッチを入れられる 一瞬ごとに、レコーダは絶対的な必要性の性質を固定する したがって、どんな「残虐行為」によって再生された音もかれに答える時はまったく同じかあるいは異星の支配下にある

c) 継続的な選択、つまりアミノ酸になるまで凍結された肉体が次の状態を決定するにあたっては」 これは「本」だ

形態 A は音声チャンネルを指示 そんな都合のいい生命形態 B で操作を続ける 最終的にテープのスイッチを切ると「酸素」生命形態 B がカットされスイッチを切ると機械は選ばれたスイッチに応じて人間のカットアップをつくる 完全に異星の「音楽」はいかなる「感情」中にも生き残る必然性を持たないが、それは音楽の形にまで刈り込まれた「酸素」のせい 介入があらゆる動きを指示する最終成果物は何だ？ 往復運動はわれわれにとって忌まわしい、なぜならわれわれとしては行列の一部になどなるべくもなかったから この金属印象は現在の言語学習にまでたどれるだろうか シャベっては聞くための機械が導入しては置き換え

次のような生命形態 A は異星人 オペレータは選ぶ最大の「酸素」しかるべき材料連続的もとの媒体に戻るためのダイビング・スーツ 小道情報が音声言語レベルで かれはと見られる形態 A を止められるか？ それともこのインタビューによって終わりに到達できるか？ 行列を全体として扱えば歴史のかわりになるか？ ことばがおちる写真がおちるテープには何もマシン「音楽」のイカれた命令や取り消し命令 警察機械は選ばれたスイッチに応じてそのカットアップをつくる この異星粘液せき言語を学べるのか？ 被告は変更された音構成が及ばない

異星粘液機械は圧倒的重力を入力してやることで動く　灰ヴェールの暗号は「エロ写真」の分布と並列　逆の命令が生ま出す疑問は何人がロンドン宇宙ステージ以前に「エロ写真」で転向か弱い単純な反復が一つの機械へだけ　引き込んだせきこむ敵は全体として行動モデルに利用できる　絶叫笑い怒鳴る原材料　声がかすれて弁護士に：

「明らかに弁護のすべてはテープレコーダ二台による変異実験でなければならない」

第8章 色を払え

「識闕下小僧」が乗り込んできて世界の都市のバーやカフェやジュークボックスを占拠し、それぞれのバーに無線送信機やマイクを設置して、どのバーでの音楽や会話も自分の他のバーすべてで聞こえるようにして、それぞれのバーにテープレコーダもあって、それが任意の間隔で録音したり再生したりして、かれのエージェントがテープレコーダを持って行ったりきたりして街の音や話を持ち帰ってきては、かれのレコーダ配列に注ぎ込んで、そうしてかれは音の波や渦や竜巻をそこら中の通りやあらゆる言語の川沿いに生じさせた　　ことば塵が切れ切れ音楽やクラクションや削岩機の通りを漂う　　ことばが壊れ叩かれねじれ爆発して煙と化す

ことばがおちる///

かれは自分のバーの鏡の向かいにスクリーンを設置し、任意の間隔でバーからバーへとシフトしつつあらゆる時代と場所の西部劇ギャング映画を自分のカフェの人々のことばや映像と混ぜて投影し、街ではかれのエージェントたちが映画カメラと望遠レンズで街の映像をかれの映写機とカメラ配列に注ぎ込んで、だれ一人として自分が香港製西部劇のなかにいるのか古代ローマ製アステカ帝国にいるのかアメリカ郊外住宅地にいるのかわからず、自分が盗賊なのか通勤サラリーマンなのか馬車の御者なのか、自分のいるのが「本物」の銃なのかギャング映画を観ているだけなのかわからなくなり、街は映像の渦やつむじや竜巻となって動き爆発製パイオ先渡しが宇宙からネオンへ

写真がおちる///

「識闕下小僧」は実体を離れた音の海を動く　　そしてあちこちにすき間をつくっては、鏡の向かいを自社職員、バーすべて映画を撮って音楽や会話も任意の間隔でバーへとシフト　　そしてかれはまたレコーダをトラックと動くフィルム任意の間隔ミックスとエージェントがテープレコーダのことばと映像と動く　　そこでかれは波や設置しかれのエージェントが竜巻をそこら中の映像通

りを音楽から持ち帰って注ぐアステカ帝国古代ローマ通勤サラリーマンなのか馬車の御者はコントロールできないことば塵が外宇宙から漂う エアハンマーことばと映像爆発性バイオ先渡し 百万もの漂うスクリーンがかれの街の壁に投影するミキシングどのバーでの音も西部劇すべてで聞こえあらゆる時代の映画が人々に向けてポータブル・カメラと望遠レンズでいったり来たりしつつ上映されては録画され音のつむじや竜巻とカメラ配列に注ぎ込んでやがてかれの移動する街のいたるところ香港製西部劇かアステカ帝国音語りアメリカ郊外住宅であらゆる訛りや言語が混ぜあわされて溶け合い人々は文章の途中で言語や訛りを変えるアステカ司祭でそれをぶちまけ男も女も獣もあらゆる言語で そうやって人民都市が渦となって動き、だれもかれが何を宇宙の外にネオン街へ行くのか知らない

「真実などない すべてが許されている 」ハッサン・イ・サッパー最後ことば

小僧はセックス映画でみじろぎして人民都市は広大なオルガズムに脈打ち、だれもどこまで映画でそこまでそうでないのかわからなくなり、いろんな性行為をあらゆる街角で行なった

かれは日没や雲や空の映画を撮り水との映画を撮り広大な反射スクリーンに色を投影して青空赤い太陽緑の草を集中し、都市は光の中にディゾルブして人々はお互いを通り抜けて歩く ハッサン・イ・サッパーのことばが通ったところにあるのは色と音楽と沈黙だけ

「地球の委員会にシンジケートに政府ども、払うんだ おまえたちの盗んだ色を払い戻せ

赤を払え おまえらのウソつき旗やコカコーラの看板用に盗んだ赤を払え その赤をちんぼこと血と太陽に払い戻せ

青を払え おまえらが盗んでびん詰めしてヤクの点滴器に入れて施してまわった青を払い戻せ

警察の制服用に盗んだ青を払い戻せ その青を地球の海と空と目に払い戻せ

緑を払え 札ピラ用に盗んだ緑を払い戻せ それと植物人間をしばらくあげる死手よ、あんたは地球の人々を売り渡して自分だけ女装して最初の救命ボートに乗り込むためのグリーン協定用に盗んだ緑を払い戻すんだ その緑を花谷ジャングルの川や空に払い戻せ

地球の委員会にシンジケートに政府ども、おまえたちの盗んだ色を払い戻せ ハッサン・イ・サッパーに色を払い戻せ 」

マッポに金をつかませる？

遊園地が空まで 営業許可所有者たちは低圧カモフラージュ・ポケットに集合した

「センセ、言わせてもらうがね、サツが外にいて嗅ぎまわってるぜ。

『このグリーン協定ってのは何だ？』

『この空スイッチってのは何だ？』

『この現実インチキってのは何だ？』

『よお、おれたち操短くらってるんじゃないかな？』

『おまえ、いい見せもの人間だろうな？』

『いい黒んぼだろうな？』

『いい人畜だろうな？』

あいつら、この場所を引っかき回すぜ 前にも経験があるんだ 銀の閃光みたい それで
 サツが乗り込んできてる それも地元の警察じゃない こいつはノヴァ包囲網だ 金をつか
 ませたほうがいいって、それもさっさと フリッカー、映画、生物融合タンク、くじ どうだ
 い、センセ？」

「サツに金をつかませるのは、わたしの根深い信念に反する しかし、えー、この状況下にお
 きましては すなわち、煽動されて、すべての面において理性的とはとてもいい難しい市民群と抗
 生手錠とにはさまれては 」

遊園庭園は大陸まるごとわたる 運河や沼地の地域もあって、巨大な金魚や緑のキノコ状の
 エラをしたサンショウウオが、透明な黒い水の中で身じろぎして、ゴンドラが半透明の緑の魚野郎
 たちに先導される 広大な回転フリッカー・ランプ運河沿いにこぼす生物融合タンク感覚遮断カ
 プセル防光防音水が血の温度で脈打ち二つの生命形態がすべりこんで融合し、複合生物となるが、
 しばしば嘆かわしい結果となって周縁部の生物スラム送りの候補となる :(生物スラムは下水三角
 州とゴミの山 SOS の末期中毒患者がぶつぶつと水まで下りてミミズと漂う野菜 麻痺した
 オルガズム中毒患者たちが、白熱眼のカニ人間たちに生きながら喰われたり、若い水晶のような残
 酷さの青二才野郎たちに、身振り物憂げに拷問される)

広大な交感融合タンクは全国民を一つの濃縮体に溶けあわせる そのほうが民主主義的なもん
 でてね 生物代議制 タンクに清き一票を ここでは肉体がネオンの輝きを発して流通
 し、身分表示ラベルは存在の口実を嗅ぎ回って震える電気犬に守られ 暗殺者は待ち、脚や微笑
 や飲酒の走査パターンに侵入 放浪の野球選手に気づかずあえぎ匂う走るは液体タイプライター
 の中

鏡とガラスと金属の通りが、チラつく色つきネオンの円筒の下 映写塔が絵描きの色文書で街
 を掃射 鉄壁にはさまれた冷青通りに水玉状に散ったレンズが投影する刺青が青濃縮体の海は脈
 打ちチラつく青球に照らされる 青たそがれの下の山村 漂うあらゆる時空の冷青音楽がしん
 ちゅうドラムにのって

光ダンサーたちの通りではダンサーたちが色文書を自分のからだに投影させてスポットライトの
 レイヤーが赤黄青とはがれおちて、震いつきたいようなストリップとなり、半透明の仮の存在がネ
 オンのフラフープの中を点滅しつつ通過 はだかで立って白く爆発灰色にフェードアウト 青
 たそがれに蒸散

かれの広大な大陸の名を知らなかったのはだれだ？ 電気犬の残された地域もあって 紫キ
 ノコ状エラが存在に身じろぎ かれのノートがフリッカー・スクリーンを運河沿いに走らす

「あいつだれ？ いいか、あいつをここから出すな」

二つの生命体が割れた地球に侵入し、昆虫人間たちのおそろべき乾燥包囲網を逃れようとした
 暗殺射は待ち、水辺に脚残酷な白痴笑いが奏でる葬式交響曲 存在のためかれは動物園で捕
 まった 檻がうなり、はやくも襲いかかろうとする 放浪者はほこりっぽいアラブの通りを通
 過してつぶやく：「あいつはいまどこだ？」 聞いてふるいわけて塔が街を掃射 アメリカの
 夜明けことばがぼくの顔に落ちてくる 冷病室に薔薇壁紙 「ミスターブラッドレーミスター
 マーチン」はきれいなシャツに着替えて歩み出た 星とビリヤード場とかびくさい安宿 この
 外国の太陽がきみの脳内 弱々しい光と記憶の訪問 静寂郊外ポーカー すりきれたズボン
 シャワー室と茶色の毛をひっかく 灰色写真 しんちゅうのベッドに かびくさい肉爆
 発映画が地下の便所で 少年たちがせんずり この漂う記憶のクモの巣から 朝風の中で
 こっそり悲しく鍵がかかるのを感じる
 かれは歩いた 夏のほこりの中を 揺らぐセントルイスの教室を しんちゅうのベッド
 たばこの煙 太陽の中のような小便 サッカーのスコアと目が覚めたときのキキ そんな
 観知がいきなり なにもない場所 フィヨルドとチンボラソ火山 バリヤーに説明できる短
 い瞬間 少年の夜明けの間が遙か彼方となる未来の生の追及 セントルイスとか、どんなコン
 ベヤ距離がどうした？ セントルイスがこのしんちゅうベッド上？ ウラジーミル・ソロフ・ブ
 ラシッド・アリ・カーン・B・ブレモン・ダール・ミグレ公爵城主閣下にして広場の殊勲、あなた
 はセントルイスからほど遠い……話してやろうか、窓についた一年分のほこりのスコアについて、
 あの午後おれは裂けた空が風にたわむのを眺めていた……白、白、白、目の届くかぎりの前方すべ
 てが目くらむような白い閃光……（船室に爆発した星の悪臭）……こわれた空がぼくの鼻孔から
 死んだむきだしのひざをベトベトの土につけ あせた写真が漂い下り、恥毛やもも、薔薇壁
 紙を横切ってパストの通りへ この少年の中の小便器と自転車競争は、わたしが目覚めた時には
 消えていた わたしのスペインの香りが長い空っぽの午後を下り 説明できる短い瞬間 大
 風めくれる唇とズボンが世界の国々で 最後の兵士が消えゆく 暴力は閉鎖されましたよ、ミ
 スターブラッドレーミスター ぼくは遠い彼方の部屋で死にかけている 最後 悲しい表情
 ミスター大蔵、ぼくは死にかけてる いまは別の肉体でそんな死にかけてる 窓を訪問月
 空気をきみののどの死みたいにずらした時のヒントを覚えてる？ 大風めくれる唇、煙、あせる
 写真と距離 ヤクのささやき、尺八歩き、はためくシャツ 自転車競争がここで正午に 少
 年のもも 悲しい 失った犬 あの人はあるばるやってきたのに、それはここでは取引され
 ていなかった……悲しい縮む顔……かれはその夜死んだ……

オードブル

感覚遮断作戦¹は、無音で暗い融合タンクに、温度と濃度を人体と等しくした塩ブイオン溶液を満たして行なわれる。候補生たちははだかでタンクに入り、数センチづつ間隔をあけて自由浮遊するゆっくりした流れののって変容。じきに肉体の輪郭を失い、ずれながら幻肢と接触。肉体の輪郭喪失は心地よい感覚と結びつけられる。しばしばオルガズムが生じる。

K9は金属張りの小部屋で支那人若者と服を脱いだ。はだかになったかれは、二人でタンクに身を下ろしていまや数センチ間隔で浮かびつつ、めまいと腹筋の硬直を感じながら、温かい液体が脚を洗い性器が触れあう。手足が輪郭を失う。突然のどに鋭いけいれんが走り、血の味がした。ことばが溶解した。かれの肉体は液体魚けいれんでよじれ、噴出するペニスを通して空っぽになってしまった。他のけいれんがタンク中を走り抜けるのを感じ。かれはタンクを出てアラメダからの少年と服を着る。肉体に戻って。のどには街場少年のことば。二十歳くらいのメキシコ人に灯油ランプの光ズボンが腹を股間をすべり落ちるのを感じ、ボタンを外してため息をつく。尻を動かして外す。かれはランプではだかになっていた。メキシコ人はマリファナたばこを巻く。他人の裸体がかれの隣でかれを腹這いにさせる。股間がボタンを外して風と水音。ため息をつく。尻を動かすのは。薔薇壁紙の影だまりの中。しんちゅうベッドがかびくさく。かれに当たる。他人の裸体が自分の背筋で爆発するのを感じた。部屋が肉体でかわる。ズボンが落ちるのを感じた。候補生のケツはいまやむきだし。タンクの中で数センチ間隔メキシコ人。かれの唇は提案を感じる。数センチ間隔でK9はひっかくシャワーの中でケツを動かす。腹を快感の波が走る。かれは食物に浮かび動いていた。チリの街の家が筋肉中で爆発してことばが入り込んだ。そのかれののどで。灯油ランプの光が街少年。都市の周縁。あいつの股間の最初の噴出。

はだかの候補生たちは金属張りの小部屋の並ぶ倉庫に入った。数センチ間隔で立って、いろんなレベルで笑ったり話したり。青い光がかれらのからだの上を踊る²。映写機がハッサン・イ・

¹感覚遮断のもっとも効果的な手法は融合タンクである。タンクの中で、被験者は血液の温度にあわせた水に浮かび、音と光が遮断される。肉体の輪郭や手足の存在感、位置感覚の喪失がすぐに生じ、多くのアメリカ人被験者はパニックを起こす。被験者はしばしば、別の肉体がもとの肉体から半分はみだし、半分おさまった状態で存在している感じられると報告している。融合タンクを使った感覚遮断の実験は、フロリダのリリー博士によって行なわれている。オクラホマにも別の実験施設がある。タンクに入って十五分もすると、この海兵隊員たちはからだの輪郭がなくなりかけていると言って叫びだすので、タンクから出してやらねばならない。わたしに言わせれば、海兵隊員を二人タンクに入れて、だれが出てくるか見てみるといいのだ。これは科学。純粋に科学目的である。海兵隊員とそのガールフレンドをタンクに入れて、だれが、何が出現するかを見るという。

²ウィルヘルム・ライヒ博士のオルゴン集積器について。ライヒ博士の説によれば、生命の基本的な力は、この青いオルゴン状の電荷である。オルゴンは地球を球状に取り巻き、人間という機械を充電する。かれは、オルゴンが鉄は通り抜けるものの、有機物は通過せずにそこにたまることを発見した。そこでかれは、金属の裏に何層もの有機物質を貼り付けた、金属張りの小部屋をつくった。被験者は、この鉄張りの小部屋にすわり、生命が機能している収益増大の法則にしたがってオルゴンを蓄積する。オルゴンはくすぐったいような感覚を生み出し、これはしばしば性的刺激や突発的なオルガズムをもたらす。ライヒの主張では、オルガズムというのは放電現象である。かれはしかるべき接続場所に電極をつなぎ、オルガズムを記録した。こうした実験の結果として、かれは当然のことながら多くの国を追放され、最後にアメリカに逃れ、オルゴン集積器がガンの治療に有効だと主張した罪で、連邦刑務所で死んだ。小生の考えでは、オルゴン・エネルギーを集積すれば、性現象の科学的な調査をすべて阻害する、愚かしい純潔主義と不安の瘴気を霧散させることができるのではなからうか。予備実験によれば、ある種の絵画。たとえばブライオン・ガイシンのものなど。

サッパーの色文書を肉体や金属壁に投射 遊園地に解き放たれ セックス均衡者たちが綱渡り
 曲芸をして、椅子でバランスを取る 空中ブランコ芸が空中で射精 ソドミー曲芸師が犬のよ
 うにくっついたままトンボを切ったり回転ダンスをしてみせる 少年たちは豆鉄道で自慰 花
 が沼地や運河に浮かぶ セックス小部屋では芸が音楽にあわせて行なわれテントの天井に投影さ
 れるのはリズムカルな交合の空 巨大なフリッカー円筒と映写機が庭園を掃射して爆発性バイオ
 先渡しを書くネオンにあわせ サンドイッチ屋台とポルノ映画小屋とラブホテルの地域が観覧車
 と豆鉄道の下 柔らかい水音とカエルの鳴き声が運河から K9 が立つ向かいにはノルウェー
 からの少年チクチクする青い光を性器に感じそれに血が流れ込み向こうの先端に触れると温かい衝
 撃が背筋を走り、かれは光のけいれんと共に達した 銀の書き物が脳内で爆発し、燃える金属臭
 ともにはじける空っぽの交差点では少年たちがローラースケートでゆっくりと輪を描き、雑草が歩
 道のひびから生えている

メキシコ人はたばこを巻いて柔かい青光が肺の奥深く メキシコ人の手が触れズボンがすべり
 落ちるのを感じる無音ののどの爆発と血の味 からだがよじれた いまははだかで眠ってる

風と水音 街の周縁 サンドイッチ屋台とラブホテルの影地域が豆鉄道の下

ぼくらはビールを飲んでオードブルを食べた ぼくはオードブルのサンドイッチの半分をひざ
 に落としてしまい、彼女はバターをナプキンでふき取ってくれて、彼女の指の下でぼくの服がテ
 ントを張るので笑ったぼくの背は木にもたれ太陽のあたる股間はずいいて充血し彼女はぼくのベルト
 をはずし：「立ちなさいよ」、ズボンをひざまで下ろす

ぼくらはオードブルを食べて魔法瓶から熱いココアを飲んで、ぼくはココアをひざにこぼして飛
 び上がり、彼女はココアをペーパーナプキンでふき取ってくれて、彼女の指の下で服がテントを貼
 るのでぼくは笑いながら身をかわし、彼女はナプキンを手に追いかけてきてぼくのベルトをはずし
 た ズボンがすべり落ちてむきだしの股間に太陽があたりチクチクして充血 ぼくらは服を
 半分着たままでやった いくと、目の中で銀の光がはじけてフラッシュみたいで、彼女の肩越し
 に緑の小人が木にいて枝から枝へと飛び移っては宙でトンボを切っているのが見えた それとは
 だかのアクロバットがバランス用のポールを手に綱わたりしつつセックス曲芸 精液が漂うクモ
 の巣がきれいな緑の光越しに 小川でからだを洗ってズボンを引き上げた コペンハーゲン
 までスクーターで戻った 彼女をアパートの角で下ろして日曜日に会おうと決めた 見ると、
 歩み去る彼女の背中に緑の草のしみ その夜は暇だったので、ノイエルヘーヴェンのバーに戻っ
 た いつもドリンクをおごる旅行者が見つかるところだ そして同い歳くらいの男がすわって
 いるテーブルについた 見ると非常に小さな細い顔をしていて、それが太くてなめらかな首から
 くさび状に伸びていて、その目にもどこか変なところがあつた 虹彩が割れた石炭のようにピカ
 ピカした黒で、瞳孔は針穴のような緑 かれは振り向いてぼくをまっすぐ見て、ぼくは腹に豆鉄

道に乗ったときのような気分を感じた　するとかれは、ビールを二つ注文した　「お暇なよう
 ですね」とかれ　ビールが来た　「ぼくはサーカスで働いています」　かれは椅子の後脚だけ
 でバランスをとってみせた　「こんなことを綱の上でやるんです　安全ネットは絶対に使いま
 せん　南米では、深さ千メートルの峡谷の上でやりましたよ」

そのままバランスをとりつつかれはツボルグ・ビールを飲んだ　「ぼくの一座を見られる人は
 めったにいません　いらっしゃい、ぼくらの本物の芸を見せてあげるから」

タクシーで街の周縁部に向かった　車はまるで宙を飛ぶようで、暖かい電気風が吹き抜けてい
 た　湖畔のカーニバルの廃虚のようなところにやってきた　ちらつく青球に照らされたテン
 トで、ぼくは同じ細い頭と裏返しの目をした若者たちに会った　小さなパイプを回しのみして
 いて、吸ってみると股間と唇に緑のうずきを感じた　黒人ドラマーがスティックでドラムを叩き
 だした　若者たちは立ち上がり笑いながらパイプをまわして鳥を呼ぶようなことばでしゃべり、
 服を脱いだ　高いワイヤーまで梯子を登ぼり、その上をネコのように行ったり来たりする　幻
 燈機がみんなのからだに色文字を投影して日本の刺青のようだ　みんな勃起して、ワイヤー上で
 ブリッジをしてすれちがいつつ性器が触れ合うと、青いスパークが発する　一人がワイヤーの上
 で鉄の椅子でバランスを取り、ドラムのビートのクレッシェンドとちらつく虹色の色彩ともに射精

精液がゆっくり回転してトンボを切り黄色い光の中に溶ける　別の一人がイヤホンをしてラ
 ジオのノイズと青いスパークをはじかせながら、自分の黄色い毛を弄びつつメッサーシュミットを
 やってみせる　椅子は空中で前後に揺れる　精液の曳光弾が星のはざまの虚空に尾をひく

(荒れた郊外の交差点ではだかの少年たちがローラースケートでゆっくりと輪を描く　ゲームセ
 ンターの迷路の中を落ち　コンクリートの割れ目の雑草と犬の糞にかかる　)若者たちはワイ
 ヤーから下りてきて、一人がぼくの上着をめぐった　ぼくは服を脱いで、はだかで椅子のバラ
 ンスを取る練習をした　バランス点は電場で、かれを重力の外に維持していた　その電荷が性器
 にたまってかれは夢精し椅子は液化して肉体の一部と化す　その夜はノイエルヘーヴェンで会
 った若者と、この空間内で初めてセックスした　オゾン上でバランスを取った、綱渡り曲芸の悠然
 とした余裕　青い電気けいれん　ゲームセンターで燃える金属臭ぼくはのぞきショーを見て勃
 起して、ハンスはぼくの股間を指差して笑った：「ジェットコースターに乗ろうぜ」　切符係は
 落ちて無表情にぼくらを見ると金を受け取った　若いイタリア人がぼくらを押し出した

乗っているのはぼくらだけで、発車するがはやいかぼくらはパンツを脱いだ　最初の下だり
 で達し、車が向こう側を登ぼるにつれて性器に血が送り込まれてモーター部品のようにきつく正確

開襟シャツが半ばではためき　銀の光が頭の中ではじけて青寂のへと消える　オゾン臭
 つまりセックスというのは、電磁気交換台さえ知っていればつけたり消したりできる、電氣的な
 チャージなのだ　セックスは電氣的肉体取引　通常は水音で起動される　さてこんどは薔薇
 壁紙しんちゅうベッド上のセックスことばをとってみよう　連想線に沿って赤茶緑を色から行動

へと嘖きこめ はだかのチャージはセックスことばを色の肛門茶緑ケツ言語へと嘖きこめる
 セックス・チャージはいつもは電磁気パターンを形成するセックスことばに制御されている この
 パターンはことばのかわりに別の因子を入れ替えることでずらせる 「自慰」 「せんず
 り」という簡単なセックスことばを見てみよう 「自」ということばのかわりに赤という色を
 使ってみよう 「慰」のかわりに白を 赤 白 連想スクリーン上でことばから色へとフ
 ラッシュ 色から行動へと静かに連想せよ ことばの替わりに他の因子を使ってみよう ア
 ラブのドラム音楽 外便所での勃起のすえた匂い オルガズムの感覚 色・音楽・匂い・感
 覚があらゆる時空の無数のセックス行為へ 少年たちが観覧車から、豆電車から、橋から、口笛
 吹く自転車から、樹上の小屋から傾く貨車から赤白して汽笛と漂う精液がヴァージニア州の風に
 のって 安宿のカバーの下で若い肉体を通じて震え荒石だらけの南米都市の周縁部ボロボロのズ
 ボンをひびわられて血のにじむ足まで落とし黒い塵が脚や性器の間を吹き抜ける 勃起の匂いは曇
 い顔のメガネザル セントルイスのひんやりした地下トイレ 細い茶色のひざとの車のシート
 での夏の午後 青白い公立学校肉体が体育のためにはだかになって、てんかん持ちの少年は頭
 中の夢を感じ、自分をコントロールしようともがいて腹にロッカー室の匂い かれは部屋にいて
 スーツケースがたくさんあって、みんな開いていて、引き出しは荷造りしなくちゃいけないものだ
 らけで、波止場で汽笛を鳴らしている船に間に合うにはあと数分しかなくて、引き出しはどんど
 増えてスーツケースも閉まらなくて算術的無秩序で、股間に夢精の緊張 他の少年たちが彼方で
 笑って指差している中、かれはコントロールを脱して銀の光が目の中ではじけかれは鋭い金属叫び
 とともに倒れた 脚や性器を通じてズボンがすべり落ちるのを感じる 震える街の周縁 朝
 風がほこりだらけの場所で 体育ではだかになってオルガズムがおきる 腹筋のひきつり
 豆電車股間で爆発 脚と性器が輪郭を失い傾く夢肉 泥干潟の匂い 温かい噴出が樹上の小
 屋から淀んだ流れの水へ 数センチの間隔で太陽の下で笑いながら精液トンボがきれいな空気の
 せんずり午後 ズボンを引っ張り上げた のどの爆発が色から行為へ飛び上がり笑いながらラ
 ブホテル 傾くサンドイッチ屋台の地域 二十歳くらいのメキシコ人を通じて銀の文字が月光
 に噴出して股間をずらしたため息をついて動きいまではだかで手の中で数センチ ひびわられて血
 のにじむ足を通じて快感がうずく 幻肢でかれのちんぽこが硬くなりローラースケートの気分
 雑草とコンクリートのゆっくりした交差点 ゲームセンター二十歳くらいのメキシコ人に光を
 散らす 飛ぶ夢精ランプでため息 ことばから色へフラッシュセックス行為あらゆる時空筋肉
 で爆発漂う雄肉のシート 朝風上の少年たち最初の噴出ぼくのズボンのボタンをはずす サン
 ドイッチ屋台と耐え難い豆電車でかれはいった夢精道 (樹上の小屋ではアリが服に入ってシャ
 ツやパンツをひきむしってお互いについたアリを払い落とし、かれはぼくの股間をなで続けた
 「そこにアリがいる」そしてぼくのをしごき、せんずり午後の流れへとつれこんだ) ハンスは
 ぼくのパンツを指差して笑った ズボンが足首まで乗客はぼくらだけ やっほう最初の下だり

でいっしょに達し開襟シャツがはためく性器 朝風が肉をぬけ 街の周縁

その意味するところ

いまや災厄破片が落ちる 巨大な波が転がす治療「おまえの盗んだ赤を払え」 アレクサンダーのためにさよなら ユーヨーク、オノルル、アリ、オーマ、オストンでフェードアウト 副編集者が宙にかき消え おれセキューンほとんど息もつかず 夢ができてるのはひょっとしてまさになんか探して：女声の事前録音された警告 スキオはある姿をロゴスから引っ張りだしている 巨大な波が結婚したカップルをころがすのはひょっとして きみならそんな人物をユーヨーク、オノルル、アリ、オーマ、オストンで許可するか？ 過去の犯罪は「所有すること」への指向を強調していたのに対しここでは「存在すること」を仮定する かれは他の身元の長いリストを羅列した 彼女は根本的な合意のきざしをまるで見せなかった われわれは戦争に戻った 事前清掃プロセスが条件には異様なポジションで スキオはまるで姿を殺人法から引っ張りだす ロゴスがシェラトン・コールを押さえて週末を格安で過ごした 金星ヴァイガーはのどをつまらせて情熱的弱さへ 大風アイデンティティが失敗 同じく芸術を愛するウェストも あんたの塵のあらゆる部分が昨日ハイ・ストリート空気沿いに 落ちる破片はかれの超冷酷弁護士：壁と窓の処理に恐怖を見せてやろう アレクサンダーのためにさよなら問題 空から生死を問わず盗んだ赤を払え 急いでくださいその意味するところ 空っぽ物体警察かれらフェードアウト中 たそがれが路地やトイレット・ペーパーに満ちて窓には光がない 四月風が死太陽の病を回転 赤毛女は手の中の塵 出発して使用済み通りを去った 何年も前にあの若僧 二番吸入管から吸い込むのは本当に苦勞 死者の夢 事前録音された警告 ほら、ぼくは二酸化炭素だった 修行時代にシェラトン・カールトン・コールを仮定したあの歳月を推定するのは不可能 矢をゆるめ ドサツ 物体警察フェードアウト中のユーヨーク、オノルル、アリ、オーマ、オストン あいつの殴ったところを見る ああ、値引きも保険もなしだよ 狸の皮算用はおよし 時間に入らねば 償い算用はおよし おれのことには世界の反抗的な鏡で知ってるはずだ 昨日、ハイ・ストリート沿い巨大治療：「おまえの盗んだ赤を返せ」 それを手放すのがつらい?? いろんなさよなら問題を試す?? かれらにとっては幕が近く問題がさいの目から転がり出てきた ハイ・ストリート沿いにアカウントが胸まで おまえの盗んだ赤を返せが起きた 特撮野郎たちがアレクサンダー・バーゲンにさよなら 「おれたち、どうしよう？ 物体警察やつらフェードアウト中 副編集者が宙にかき消え だからおれ、チャンポンをトイレット・ペーパーの上でやらなきゃならなかった 明らか早めにその空気帯」 「呼吸は苦痛だった 何と言おうか二番吸入管で心配 バリーしよう？ 全世界のバルチザンそのすべてを学べ 赤毛わたしたちはだれに使い始めて 穴も それから出るの？」

無色の問がその病院の廊下を漂い去る 「おれセキューイン 何が残るのを許可するのか教えて？」

しゃっくりみたいに簡単

ミスター・マーチン、なにかしゃっくりみたいに簡単なもの越しに災害報告をするわれわれを聞きなさい 全委員会報告は麻薬として分類されている モルヒネは実際は「ミスター・マーチン」かれの航空会社が中毒患者 基本的な技法は言った まちがいなく係官は詳細に語る刺激箇所の幾歳月にわたる正確な反復 ノヴァ報告の技法は敵同士の刺激 ジメチルトリプタミン 苦痛銀行から「疑問視される症状」 正確な反復による過剰摂取は苦痛のため悪夢のような体験 ヘッドホンが送るノヴァ精神が広島と長崎から 「ミスター・マーチン」キノコ雲越しにわれわれを聞きなさい 算用を始める災害脳とあらゆる委員会報告をよじる やつらの苦痛線は中毒者 苦痛銀行が拷問室から まちがいなく係官は幾歳月にわたる正確な反復で昆虫碎片へと引き千切られた 拷問金属苦痛霊天王星生まれのノヴァ条件育ちがこの噴射を送る 大風がノヴァ霊を映像碎片へと回転 燃える火頭のあらゆる部分はシャットオフされたぞ、ミスター・ブラッドレー、ハッサン・イ・サッパーの青空文書のなかに ハッサン・イ・サッパーの文書が仮定するのはきみたちみんなしゃっくりみたいに簡単なものから漂う煙だということ わたしは世界の基本的な技法を述べ切断された係官が詳細に口述する幾歳月もの場所チェス駒の鉄の爪 ノヴァの最後のドアとあらゆる拷問拡張ドラッグ圧力団体が教える使われたメカニズム ノヴァ災厄脈打つ必要性が口述するのど骨の使用 イ・サッパー録音の中を歩き滴る蛇口を描き一秒に五フラッシュ リズミクな小塔は敵の施設を破壊する 皮質風があふれて反抗的地域に流れ込み色を聴き音を「ミスター・ブラッドレー・ミスター・マーチン」 ただ時間 ただ時間 引用は不安とその治療法は灰室内 しゃっくりみたいにアポモルヒネ ハッサン・イ・サッパーがアポモルヒネは視床下部に作用して切断された係官 カテゴリー的「この敵には容赦しない」を塵と煙へと溶かす

終わったものがいろいろ

三月十七日(土)ニューヨーク、現在時間 多くの者に対しかれは偶然にも現在食料を突破した殺人法内 とにかくその後はすべてのイギリス首脳が週末を格安で過ごす 価格を安定させるつもり セッションの前にメルボルンで仕事があった オーストラリアが門の中 犬は運ばれなくては 抱接にこれ以上耐えるのは気が進まない いけいけ 終わったものがいろいろ チェック・モスのマハラニが点滅 清潔な女王が落ち着き払ってドルを歩む ハッサン・イ・サッパーの言うことなんかきくんじゃない われわれが欲しいのはワトニーのウッドバ

インとからだで得られる快楽をすべて 歓びの園には近寄るな そして愛のうっかりはプリストル ニュースの状況をよせ集める 病院を調べる 炉で大黄金杯 再生コケフロリダの勝利希望 未熟な黄金砂がシーラ的小屋に? ハッサン・イ・サッパーの名前が欲しいからまだ生まれぬ子供たちを所有しろ? 虚空の穴を通過してクールでさりげなく閉じるロンドンのホテルの一室にて 死が大学を退化させ 真面目に検討されたので、やつらはおそらく肺癌統制法の適用を受けるだろう

金星ヴァイガー、パートタイム・テレビで窒息死 病棟少年は日記思考をつけてかれらはココソと廊下に戻った かれの指摘によれば全世界がすでに身元キットを観た 「だって、おれたちみんな、満足を自明 踊る馬に砂糖通りで乗る 見たこともないほど可愛い考え」

カプセルはソーホーで暖か 作戦はアメリカ型ジーンズの保存に失敗 実践的な協力とのさらなる打ち合わせが本日 それらの殺人を結び付ける鍵となる証拠が JRR284 特別な方法で終止符を打ってただ死にたいだけ かれの死体が見つかったとき三人の若者はまだツイストを踊ってヘッポコ野郎のダニーディンくずが広げるニュージーランドの中かれのベッド・シッターの中で四十八時間 スティーブン映画は入院中 それなりの少年のからだの定義がかれの否定の間 アイデンティティがフラッシュ玉の朝食で破裂 何メートルもの内臓が夫のまわりをうろついて取り返しのつかないほどトイレに肩入れ 「オブザーバー」は友人をカクテル観察処分に残す 告白したフォークシンガーと失踪 スタジオ衣装係ジョン・ヴァイガー古い脱出計画上で死亡 死体は、ヴァイガーの生年一九三九年に使われたものではだか 二人ともきちんとたたまれ シリーズが間もなく終わろうという今、これらの実験は本当に必要なのか? コントロールされないフラッシュ玉が噂ではじける 一人曰く「これらは典型的な甘いキリスト直前生活」 624A の静かな男が言うには小さな寝室は医者役者としては決して使えない 警察は死体カウンターを検分した否定の小集団の外 テイラー嬢人々は亭主の周りをうろつく かれはマークを演じリズムとアントニウスさえも 赤毛ごしに大騒ぎ ベルリン生まれで十七歳にしてはやくも平和を脅かす ハンラッティそれからユダヤ教徒として育てられた 百以上の警察がみっともなく着飾った女として探す少年は「しかるべき友人」と「日和見的警察」の定義に抗議 主要値切り進行中 閣下、わたしはそれを見て非常に嬉しい/について書く/する用意があります/最終的な注意が真面目世代のありきたりな基盤に向けられている/軽女が一掃にて/かれらがわたしに答えずに自分の一瞬を生きるつもりなら/もちろんそんなことをかれらがするはずもありませんが

ジェームズは放火の中で威張りくさって思われる ノッティンガムの運営劇場で殺人 スティーブンは噂では何メートルもの内臓を通じて投票して取り返しのつかないほどトイレに肩入れ

いま一度のチャンス？

サイエントロジーは「人間の条件」の研究のこと 賢いラジオ医師 ログス係官がポータブルの中 特撮少年の「サイエントロジー釈放」は支那人上の巻き毛 ハバード・ガイドの隣にすわれと言う

「何をする気？ その人物は『所有性』から脱出するの？」

は明らかなものを通常はいずれ覆う 球はつまり自身なんですがはからずも「現実」が「ミスター・マーチン」製と仮定するまで 現実となることに同意することはまさに「現実」なのであって細片の落ち方 ゲーム条件と毎回ノーゲーム かれにとってゲームはいつも「解放された星雲たち」から成る もう一つのチームに効果を及ぼす終わりがいまや終わった 見回してご覧連中にとっては幕切れだ かれの過去の状況について知らずにいられる スキオは抜け目なく風手がつかまで 仕事われわれにはログスがあるわかったか？ ダイアは首吊り縄を通し

チンケな仕事はストライキ志願 釈放許可証はなかなかの価格のために発行された 「圧倒的」なるプロセスを見つけなさい何？ きみは復帰仕事をしてよかったかもしれない あの人物に何を許可しようっての ?? 殺人法の食物?? 見回して「いま一度のチャンス」を受け入れる?? 「所有性」餌と幕切れ ゲームの終わり解剖学 根本的報償ビジネス餌 「人間の条件」のサイクル 明らかなのはわれわれがそれを信じているから 人は支那人上に「存在性」を仮定する パーゲンにありつきたい：他のアイデンティティ は偽アイデンティティ 結局は同じ 根本的に合意 すべてのゲームはそれらの「障壁」や「目的」のしかるべき取り分のため 連中が「無効果」を始めたらどういうことかわかってる??

クールでさりげなくゲームの解剖学が閉じられたロンドンのホテルの一室で

地区監督官は薄笑いを浮かべて顔をあげた。「お座りなさい若い、たばこを吸いたまえ……職業上の悪癖え？……去った唯一の悪癖……もちろんサイエントロジーは学んだんだね？」

「ええもちろんですとも……われわれの基本訓練の一部でしたから……言わせていただければ忘れ難い体験でしたよ……」

「サイエントロジーについて知っていることを繰り返してごらん」

「はい、サイエントロジー信者は、無意識の期間……（麻酔中、泥酔中、睡眠中、トラウマによる子供時代の記憶喪失期）……に記録されたことばは苦痛を蓄積すると信じています。そしてこの蓄積された苦痛は、そのことばにさらされた回数とそれに対する反応指数を示す、別の数式として代入できて、その蓄積のすべてを電子コンピュータに戻してやることができます……かれらはこの無意識時に蓄積されたことばを「エングラム」と呼びます……こう申し上げてよければ、トラウマによる子供時代の記憶喪失期は特に注目されています……子供は忘れませんが、コントローラはエングラムのテープを持っているので、どんな子供時代のトラウマも好きなときにプラグインできるわけです……その人物を圧倒するような苦痛は基本的根本と呼ばれておりまして、その基本的根本が

テープから抹消された時……その時はじめてですね、その人物はきれいになったと呼ばれるわけです……リスター卿以来ですね……つまり麻酔の導入以来ですね……」(記憶喪失笑い)「ええですから是非とも長年にわたるこの表現に積もった塵について話をさせてください……こういう表現をお許しいただけるんなら、それはエングラムとして知られています」

「実務経験はあるか？」

「ええもちろんです……基礎サイエントロジー警察課程の一部でしたから」

「『踊り』の危険性については学んだか？」

「ええサイエントロジー信者たちは、この苦痛がオアハカの写真のコピーと中年が非服従同志の中でマスをかくことでプラグインできると信じています」

(ゾンビはいくつかクールなヒントを与えた……義肢……魂なしの息切れことば)

「全身麻酔の発達によって、手術中に記録されたことばは……(看護婦が医師の肩越しにのぞき込んで、切開部分にたばこの灰を落とす 『なにをキョロキョロしてるんだ』と医師は冷やかに述べる……『自分のやってることくらい、ちゃんとわかるとるわい……少なくとも虫垂学は……だがそこで止める必要があるかね?? 敵は麻酔にかかっているわれわれは前進……メスをもう一本取ってくれ……こいつは汚ない……』外では街場の少年たちの合唱:『フィンガロ?? たばこを一本?? どうもほんとにありがとうございます……でかいの一発いかが?……馬鹿ヤロクソタレ……』『さあ消えちまえ、このろくでもない青二オのカエルどもめ』と医師は歯をむきだして、かれらに扁桃腺を投げつける……『子宮腫瘍でもあればよかったのに……セメント袋みたいなやつ……うまくいけば一人くらいは仕留められる……おい、そこの看護婦……たばこを消さないか……この患者の肺を詰まらせる気か??』

ラウドスピーカから分娩室の金切り声が響きわたる……技師は炭酸のソーダをミックスして手の中にゲップ……『オエップ、オエップ、オエップ……このクソ装置ときたら、屁まで一つ残らず拾って放送してまわりやがる』忌まわしい死の叫びが鳴って計器盤を覆い焦点をぼかす……白い死の無臭が監獄の禁断症状ジャンキーの房から手術室を駆け抜ける……医師は不吉にへたりこんで、患者の大腿動脈を切断……『おれは死ぬ……気絶する……倒れる……あの病気のクソ苦力どもめ、人のヤクをすっかり抜いちまいやがる……』かれは薬だなのほうによるよろと向かい、患者の血をその後に引きずる……『神の愛にかけて、モルヒネを一本』これはわたしが『ポスト・ガゼット』のために書いた小劇です……ステージ上の麻酔でして、手術中に記録されたことばは一番確実なエングラムとなります……手術の苦痛と呼ばれております……わたしも今感じています……扁桃腺にです……エーテルのめまいです……(患者は出血過多だ……看護婦……鉗子だ……急げ、患者が死ぬぞ)……こうした苦痛旅行者の別の装置は、信号スイッチです……かれらが言うところの『イエス ノー』です……『愛してる愛してない』を超音波レベルで入れ替えるんです……オルガズムの音をとって、それを拷問や事故のうめき声や絶叫と混ぜて、それに手術室での冗談も混ぜて、セツ

クスと拷問映画をそれにあわせて切り替えるんです」……

「それでその対抗策は？」

「ただそれを実際にやることです……みんなの前です……漫画的な効果があります……拷問映画を背景にセックス映画を映写しまして、それからその拷問映画を自分のツラにモロに映写するんです……下司な表現で申し訳ありません……音声トラックでも同じことをします……距離を変えながらです……第三の効果が生じます……正中線をまっすぐにです……下司な表現で申し訳ありません……カミソリが中になってわけです……

ハンドルをよじります……こんな風に聞こえるんです：『ああ耐えられない……痛てっ痛てえ、痛い痛い、いい……ああああ死ぬほど犯して……こいつのクソ腹わたをふっとばせ……熱いぜ、ベイベー……空中が燃えてる……話す……もう一度やって……入れて……出して……ズボンを脱いで……ありゃ何だ?? 看護婦……鉗子だ……切断しろ……』映画もいっしょです……花火みたいにはじけるんです……セックスと苦痛ことばです……テープを変えるんです……テープを換えるんです……

さあみんないっしょに笑笑……ああ、テープからもろに笑い消すんです……テープから忘れ消してしまうんです……つまりですね、われわれはエングラム・テープを持っていても、それを知ることができないんです……しゃっくりみたいに簡単なことです……カテゴリー的なこの敵には容赦しないを塵と煙へと溶かすんです……ない仕事のために決して出頭しなかった男みたいなものです……若いおまわりが幕を引いたんです」

まだ昔の手術室を見ることができたらどうにかいまじゃ荒れた感じ……手術台には患者なんかいないんだってことが、そろそろ見えはじめてきたか？

こんな実験が必要なのか？

一九六二年三月十七日（土） 知識の現在時間 スキオは訳知りで殺人法内で食物を開く
 ロゴスわかったか？ ダイアが首吊り縄を通して イギリスは週末を格安で過ごしたのは釈放
 証明書の発行前 犬は運ばれねばならない嫌々センターへ 雄大な気分です 終わったもの
 がいろいろ この状態をもっともよく言い表わすには女王が悠然とドルを歩むプロセスは圧倒的
 だとされる われわれが欲しいのはワトニーのウッドバインと歓びの園 そしてきみは何を
 手に入れられる？ 何を？ ニュースの状況？ 病院を尋問？ 何？ を許可するね、あの
 フォートリアのコケ勝利希望を復活させた男に？ 見回してシーラの小屋を見つけるには未明？

死は行動のサイクルを縮める 金星ヴァイガー窒息死は「所有性」の方向 かれの日記思考
 かからは戻った別のアイデンティティで 全世界が持つ誘意性は偽のアイデンティティ 「障
 壁」と「目的」とのさらなる話し合い それらの殺人を結ぶ鍵となるのは：ゲーム1 特別な方法
 死にたいだけ映画が入院してからニュージーランドを広める メートルもの内臓がトイレのまわ

りに転がる オブザーバーはかれのスキオを後にして告白したフォーク歌手のロゴスと失踪
 ダイアは首吊り縄を通して古い脱出上で死んでいるのが発見された ヴァイガーの生誕釈放証明
 書が発行されたはだかで この状態をもっともよく表現するにはコントロールのきかないフラッ
 シュ玉はじけるプロセスは「圧倒的」として知られる

「閣下、わたしは十分に用意ができています 別のアイデンティティ 女がいるのは一掃も
 し基本的に合意」

「見回して教えてくれこれらの実験は本当に必要なのか？」 このすべてが「圧倒する」ため
 ?明白性がはじける赤毛越しに 言ったようにスキオ係官は任意の時間に年の場所を示す
 死ぬほど絶対的なニーズ条件表現されたプロセスは「圧倒的」として知られる? 空気?
 大風が回転するきみの得られたかもしれないもの 何を? 音と映像の細片が落ちる 見
 て取れるのは「所有性」はもはや この緑の大地上で麻痺した「行動のサイクル」 最後のド
 アのサイクル 「ミスター・ブラッドレー・ミスター・信じるが故に明白」を遮断 空気へ
 きみはきみ自身「ミスター・ブラッドレー・ミスター・別のアイデンティティ」 行動は明白
 さであり対立を作り出しては煽る 過去の全面戦争 申し上げたように「基本的未明アイデン
 ティティ」はいまや終わった 風霊溶けた「現実が必要」が告げるのど骨の使用 「現実現
 実」重召喚を得て溶かされてください あらゆる通りを抜けてかれが自分の過去壁と窓人々と空
 を知らずにいる時間 完全な意図が失敗 こころを見回して 肉脚本支給はもうなしです
 よ、ミスター きみの召喚を聞いた 溶けた「ミスター・ブラッドレー・ミスター・マーチン」

宙に溶けた

フェードアウトつばやく：「傷ついた星雲を横切ってあらゆる街角に恋人がいる」
 遥かな指が一つにひっかかる 「まあ、どうしましょう」
 ゆっくりかき消える 線路上できみをかれに告げた 確かにすべておしまい ぼくは夢の
 中で絶対に予言化してユリのシャツをつかんで最期のことばを投げかれのユーゴスラビア・ナイフ
 に答える おれはシャノンを拾ってイブ・マーチンは視覚を拒否しないかもしれない みんな
 見てる でもぼくは日記を続ける 「ミスター・ブラッドレー・ミスター・マーチン」?
 きみはかれの目 突然わかったんです、ペイルズさんコルソさんバロウズさん、地上の存在はみ
 んな冗談なんだって そしてわたしはこう考える：「変なの 宙に溶けた」 失われた細片
 が落ちたかれの影だった：この本 よくないジャンキーとしてのアイデンティティがフェードア
 ウト中
 「煙がすべてだよ、坊や 交差するな そろそろ家に帰ろうと思ってそれが五回 ゆっく
 りした金属炎はもうたくさん 形態は不定 クソ夢をたたく最後の電気技師」
 「かれからの暗い情報が床に見える かれは足抜け すべての委員会報告はとっておけ

みんなを叩く椅子を待ってる　マドリードの勃起した白昼夢に到達できない　一九一〇年のわ
 らことばに立ってた道化天使をフラッシュ　これまた駄目な映画だと気がつく　よくない
 No bueno　若い天使が地下生活者の中から昇位され　うん、あいつはきみの召喚を聞いたよ
 上の空でうなずいた　」
 「そしてなくして家に帰る　うん、盲人はこの本への視覚を拒否しないかもしれない　」

おとといおいで

すでに述べたようにノヴァの基本的な技法は非常に単純であり、対立を作り出しては煽るわけだ
 「敵同士の間に向けられた不正ほどの暴動はなかなかない」　任意の瞬間に、レコーダが絶
 対的なニーズの性質を固定して完全兵器の使用を告げる　こんな具合だ：暴力的な反ユダヤ的主
 張を集めて記録せよ　さてベルゼン以後のユダヤ人たちにそれを再生してやれ　かれらの言う
 ことを録音して反ユダヤ主義者たちに再生してやれ　言ったり来たり　わかった？　もっと
 だって？　白人優位主義的発言を録音しろ　それを黒人に聞かせる　答えを再生　さあ今度
 は男と女　「敵同士」の間に向けられた不正ほどの暴動はなかなかない　任意の時間位置に、
 レコーダが絶対的なニーズの性質を固定　そして完全兵器の使用を告げる　だからレコーダを
 まわし続けてあなたのその重金属ケツを宇宙船に押し込むんだ　やったか　ここにはいまや録
 音以外何も無い　そのすべてを即座に遮断しろ　静寂　機械に答えたら「敵」に対して再生
 される録音をもっと提供してやることになって全ノヴァ装置を動かし続けることになる　「敵」
 という漢字は似ることまたは答えることを意味する　機械に答えるな　そいつを遮断しろ
 「識閻下小僧」が世界の通りを占拠　旋回小塔望遠鏡映画レンズとレコーダをつけたクルー
 ズ・カーが都市の映像と音を吸い上げるぐるぐるどンドン速く車が映像の都市を駆け抜け録音、録
 画、再生、壁や窓や人や空に投影　そしてゆっくり動く小塔がのろい車やワゴン車につけられ
 どンドンゆっくり録音、録画、再生、スローモーションの街の光景を投影　さあ今度は速く
 今度はゆっくり　もっとゆっくり　止　シャット・オフ　これっきり　わたしの書く腕
 がしびれた　ヤクの処方箋はこれっきり、ことばの処方箋はこれっきり、肉体の処方箋はこれっ
 きり　かれはみんな行ってしまった　よくない　No bueno　肉に届かない　ぜんぜん
 ないよ　おとといおいで　透明なドアを通して　さよならウィリアムの旦那、ミスター・ブ
 ラッドレー・ミスター・マーチン

すでに述べたようにノヴァの基本的な技法は対立係官を作り出しては煽る　任意の瞬間に告げ
 る過去の全面戦争　年の位置を替えて結局はまるで同じ　すでに述べたようにノヴァ報告の基
 本的ないまや終わった　風霊が「敵同士」の間で溶け　死んだ絶対的必要性がわれわれに告げ
 るのど骨の使用　この緑の大地上でレコーダがきみの重召喚を受け取って溶かされ　ここには
 いまや録音以外何も無いをさらに決めるにあたって視覚を拒否してはならない　静寂　答える

な あの病院は宙に溶けた あの台風回転小塔宮殿 些細な音や映像細片が落ちる あらゆる通りを抜けてかれにとって控える時間 壁や窓や人や空のかれに祝福あれ きみのゆっくり落ちる塵のあらゆる部分 暗い反抗的「これっきり」の中で落ちる わたしの書く腕がしびれたこの緑の大地上 死手、肉処方箋はこれっきり 最後のドア ミスターブラッドレー・ミスターを遮断 かれはきみの召喚を聞いた 宙に溶けた きみはきみ自身だ「ミスター・ブラッドレー・ミスター・マーチン 」生きるもの死んだものすべて きみはきみ自身だ 存在せよ

まあ、わたしとしてはきみに伝えるのにこれが精一杯ってところで紙が都市の机上でカサカサと……さわやかな南風がはるか昔。

一八九九年九月十七日ニューヨーク上空

一九六四年七月二十一日
モロッコ、タンジールにて
ウィリアム・バロウズ

訳者あとがき：ノヴァ急報のこと

「ノヴァ（超新星）の爆発は天変地異をもたらすといわれている。地球の内紛を扇動するため他の銀河系から、ヴィールスの寄生物、破壊的な昆虫、悪霊などがやってきた。そして人間の肉体に侵入し、精神を操り、崩壊をもたらす……つまりノヴァを創出するのだ。こうしてノヴァ警察は、犯罪者と同じ心性をもって人間と自然を根本から切り離し、解決できない矛盾や政治の悪化を招き、全地球的爆発を策謀している。バロウズは、ヒロイック・ファンタジーに抜きがたい物語性を排し、黙視録的シュルレアリスムというべき断片的エピソードのカタログを作りあげた。本書は『裸のランチ』『柔かい機械』『爆発した切符』とともに四部作をなすバロウズの代表作であり、サド、ジョイス、ロートレアモンの文脈のなかで反 SF の先鋒を突進し、SF の SF を切り拓いたものである」

「ノヴァ急報」サンリオ SF 文庫版の表紙解説全文

はいはい皆さん、お待ちかね「ノヴァ急報」ですよ。その昔、おませな中学生だった山形くんは、サンリオ SF 文庫の創刊とともに発売された旧訳を読んで、さっぱりわけがわからず、「ぼくは頭が悪いのかしら」と真剣に悩んだものでしたが、そんなことは（たぶん）なかったのですねえ。裏表紙の名解説を読んで、「黙視録的シュルレアリスムって、おっかなそうだけど何だろう」と思ったり、「サド、ジョイス、ロートレアモンの文脈って、一体何かしら」と自分の知らない世界の広さに日々おびえていたのは、今となっては懐かしい思い出だ。反 SF の先鋒を突進！ ワオウ！
こういうことを知らないと、この『ノヴァ急報』ってのは理解できないのかしら……

さて、それからはや十五年。ぼくは未だに「黙視録的シュルレアリスム」のなんたるかを知らないし、「サド、ジョイス、ロートレアモンの文脈」とゆーのも、もはや知りたいとすら思わない。知っているのは、この名解説が（残念なことに）全然間違っているということだ。まず本書では、善玉・悪玉の区別は非常にはっきりしている。ノヴァとノヴァ・ギャング、これが圧倒的に悪者だ。「人間と自然を切り離し、解決できない矛盾や政治の悪化を招き、全地球的爆発を策謀している」のはノヴァ警察ではなく、このノヴァとノヴァ・ギャングたちなのである。もちろん、それを食い止めるべく、パルチザンたちと手を組んで活躍するノヴァ警察は、圧倒的に善玉である。なんとと言っても、イギリスやタンジールで作家に扮しているエージェント（『裸のランチ』などという本を書

いたそうだ)は、このノヴァ警察の捜査官なのですもの。この意味で、本書はヒロイック・ファンタジーと大差ないのである。

もうチト詳しくいってみよう。ノヴァとノヴァ・ギャングたちは寄生生命体で、後進惑星の未開生命体(たとえば地球の人間とか)にとりついて、それを自分たちの利益のために好き勝手に操っている。もちろんそれを宿主に気づかせないような偽装はちゃんとほどこしてあって、たとえば人間は「言語」が自分たちの一部だと信じこんでいるが、これはその寄生体の偽装がいかにうまく働いているかを示すもので、ホントは言語というのは異星からのウィルス寄生体なのである!かれらは宿主のことなどまるで考慮せず、吸い尽くせるだけ吸い尽くしてから、次の宿主を求めて宇宙をさまよう。もちろん、こういううまい話のあるところには、いろんな詐欺師やペテン師、気狂いや偏執狂が群がってくる。

一方、寄生された側も完全なバカではないし、長年やってるうちにウィルス側も気のゆるみでいろいろヘマをやらかすので、中には気がつくやつも出てくる。「ギョッ、おれって寄生されてるんだ!」こういう連中はバルチザンを組織して、このウィルスに抵抗することになる。

また、宇宙にもそれなりの正義とか法律があるらしく、ノヴァ警察はこういった一方的な搾取を取り締まるべく活躍する。そしてバルチザンと手を結び、ノヴァ犯罪者の摘発に勤めるのである。もちろんこうした事態を審議、調停するための法廷もちゃんとあって、宿主側がそこに提訴したりもする。

こうしてノヴァ犯罪者たちの侵略状態は脅かされる。ノヴァ犯罪者たちは既得権益を手放したくないので、宿主側のいろいろな内部抗争を煽って自分たちから注意をそらそうとする。また、緊急避難というか、ナントカの船板というか、どうしてもやむを得ない事態だったのだと強弁したりもする。が、しょせんは時間稼ぎにすぎない。ついにノヴァ包囲網が踏み込んできて、かれらが追放・逮捕される時がやってくる。それが「全地球的爆発」だ。もちろんノヴァ犯罪者/ノヴァ・ウィルス側としては、そんな「爆発」なんか起きてほしくないのである。気づかれぬまま、うまい汁を吸い続けたいのである。

おそらく裏表紙解説者は「警察は権力の走狗だ」といった図式が念頭にあったので、ノヴァ警察を悪者にしてしまったのだろう。もちろん、旧訳があちこちで原文の意味を正反対にとりちがえていいるせいもあるだろう。確かに、パロウズはもちろん元ジャンキーだから、現在の警察機構にはいろいろうらみつらみもあるし、あまりいい印象はもっていない。しかし一方で、OSI(CIAの前身)に志願したこともあるし、警察という存在そのものには結構好意的だったりするのだ。

かれのこのウィルス史観が正しいかどうか、なんてことを詮索しても意味がないことくらい、常識で考えればおわかりいただけるだろう。トニー・タナーという人が『言語の都市』といういやになるほど分厚い本で、現代アメリカ小説に特有のオブセッションとして「現実が何かに操られているという感覚」を挙げている。ウィリアム・パロウズはまさにその典型であり、当然この『言語の

都市』でも一章を割いてもらっている。そういう漠然とした不安をさらに深めて、何やら体系的とも言えるくらい「やつら」の物語を拡張し、ノヴァ・ギャングとバルチザンとノヴァ警察の争いという図式をつくりあげるパロウズの手口は、陰謀好きなアメリカ的風土と（なんだかんだ言いつつ）マッチしているのだろう。パロウズがアングラ集団に根強い人気を保っているのは、たぶんそんなあたりに理由があるのだ。

最近復活したローリー・アンダーソンは、かつて本書などの「言語はウィルスだ」というパロウズのことばを読んで、「作家としては意外な、うーん、なんだか仏教的な発言よね」と言って、そのまま「言語はウィルスだ」という歌をこしらえてしまったけれど、うーん、仏教的かねえ。別に仏教的だとか御利益があるわけでもなかろうと思うので、あんましマジにそういうことを考える気にもならないし、第一それほど暇でもないのだけれど、まあ世の中いろいろだということでここはお茶を濁しておく。

『ノヴァ急報』は、『裸のランチ』『ソフトマシーン』から『爆発した切符』へと続く、ウィリアム・パロウズのカットアップ・フォールドイン作品群の一つである。執筆時期は、他の作品と同じく六十年代初期。麻薬中毒から立ち直り、パリ暮らしを経て一時タンジールに戻った時に完成したらしい。読みやすさの『裸のランチ』、わかりやすさ（比較的）の『ソフトマシーン』、完成度の『爆発した切符』と並べてみると、本書の特徴は明快さだろう。「異星からのウィルスの侵略」といったテーマが一番はっきり読み取れるのが本書だ。冒頭の「最語」に見られるようなプロパガンダは、他の作品にはまず登場しない。このため本書には、他には見られない切迫感が出て、それが本全体のテンションを高めるのに貢献している。上述のカットアップ小説の中では、個人的に一番好みの小説だし、内容はともかくこの『ノヴァ急報』というタイトルはちこちで引用されている。カート・ヴォネガットのドラ息子を書いた情けない『エデン特急』（邦訳は何とみすず書房だったりする）という本があるけれど、このタイトルが『ノヴァ急報』のもじりなのはわかりただけだろうか。

一応は旧訳の存在が念頭にたったため、この訳はなるべくわかりやすい、意味の通るものにしようとしている。このため、若干説明過多になった部分はるかと思う。それでも「わかりやす過ぎる！」と言って怒る読者は、よほど偏屈な評論家でもない限り、たぶんいないと思う。が、原文はもう少しわかりにくかったのだ、ということ念頭に置いていただいても、パチはあたらないだろう。

翻訳環境としては、Macintosh PowerBook 170+Katana4+クラリスワークス 1.0、辞書は「リーダーズ新英和辞典」（松田徳一郎監修、研究社、1984）、「新英和大辞典 第5版」（小稲義男他編、研究社、1980）を使用。底本としては、William S. Burroughs "The Soft Machine/ Nova Express / The Wild Boys : Three Novels by William S. Burroughs" (Grove Press, NY, 1980) を使用した。蛇足ながらこの本は、ぼくが初めて買ったウィリアム・パロウズの本だった。もう十年以上

も前のことだ、と書くと妙に年寄り気分になるのは不思議なものだが、あの時はまさかこのオレが、この本を丸ごと訳すことになるなどとは思ってもみなかった。それがどうしたと言うわけでもないのだが、いやあ、人間長生きしてるといふんなことができるものだという話である。

いろんなことと言えば、衝撃的だったのは「ドクター・バロウズ」なるソフトウェアの出現である。何とこのソフト、テキストファイルを喰わせてやると、自動的にカットアップをしてくれるのだ！ 当のウィリアム・バロウズですら、まさかこんなものができてしまうとは本気では思っていなかっただろう。実際、ぼくの生の翻訳と、それをもとにドクター・バロウズで生成したカットアップとは、ほとんど区別がつかない。恐るべき代物である。開発者の細馬宏通氏には大絶賛を送りたい。ついであるが、付属のドキュメントが傑作なので一部引用させていただく。

「……ドクター・バロウズは容赦しません。膨大なテキストを思うさま切断し、編集します。殺生につぐ再生。そのワイルドで繊細な手つきは、まさに桃太郎侍とブラックジャック。いつしか、ウィンドウという名の牢獄と、スクロールという名の重力の魔から解放されたあなたは、あらゆる場所にテキストの境界を発見することでしょう。そして境界は越えるためにあります。

ドクター・バロウズは、単独で完ぺきなカットアップ作品を作るわけではありません。あなたのたぐいまれなるシビアな選択眼を得て、はじめて、ミシンのコウモリ傘さえも真っ青の秀作ができあがるというわけです。

さあ、電腦空間を切り裂く旅に出ましょう。いつの日か、百千錬磨の股旅カットアップパーとなったあなたの姿に、老いも若きもシビれまくる日がくることでしょう。こなかったとしても、作者は幸せです。

そう、幸せは股旅、そしてこの世界はカットアップなのです」

……もはやチンタラ翻訳などしている時代ではなくなったのかもしれない。読者のみなさんも、電子時代のテキスト遊びをたっぴりと味わって体験していただきたい。同ソフトは、MS-DOS版とマッキントッシュ版がそれぞれ Nifty-Serve など入手可能だし、バロウズの文でカットアップを試みたいとおっしゃるのであれば、同じく Nifty 上で PFA001126 までメールをいただければ、お好きな作品のお好きな部分をテキストファイルでお送りしよう。何の役にも立たない文学理論をふりまわしてバロウズがどうのこうのと聞いたふうな口をきくより、このソフトで遊ぶほうが何倍も生産的なのだ。多少なりともそれが手伝えるのであれば、不肖のこの訳者もまた幸せである。いろんな意味で。

バロウズの作品も、残り少なくなってきた。次は『爆発した切符』で る。何とかこの「ドクター・バロウズ」を使って訳の手がぬけないものだろうか、というようなことを目下たくらんでいるのだが、その結果についてはまた後日。では。

一九九四年三月
ボストンにて